

山梨県北杜市

OOKUBO-SITE

大久保（白須）遺跡

市道花水金ノ手線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2009

北杜市教育委員会

山梨県北杜市

OOKUBO-SITE

大久保（白須）遺跡

市道花水金ノ手線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2009

北杜市教育委員会

例　　言

1. 本書は、2007（平成19）年度に実施した山梨県北杜市白州町白須地内に所在する人久保（白須）《おくぼ（しらす）》遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、市道花水木ノ手線建設工事に伴う事前調査であり、事業主体である北杜市建設部道路河川課より委託を受けて北杜市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は2007（平成19）年5月14日～8月24日まで実施した。整理作業・報告書作成については2008（平成20）年4月1日から2009（平成21）年3月31日まで実施した。
4. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関に委託した。
航空写真撮影　㈱スカイ・サーブェイ
石器実測等業務委託　㈱アルカ
5. 本書の執筆・編集は、村松佳幸（北杜市教育委員会生涯学習課長坂郷上資料館担当兼文化財担当）が行った。出土石器分析については㈱アルカ高橋哲氏に原稿を執筆していただき掲載した。
6. 遺構・出土土器の写真撮影は村松が行った。
7. 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、北杜市教育委員会に保管している。
8. 発掘調査および報告書作成にあたり、多くの方々に多大なご協力・ご指導を賜った。ここに深く感謝の意を表します。

凡　　例

1. 第4回の座標値は日本測地系（旧日本測地系、Tokyo Datum）の数値である。各図のグリッドの左下と右上の座標値を世界測地系数値に変換すると以下のとおりである。

日本測地系	世界測地系
左下 X座標 : - 20405.0 m	- → 20052.9739 m
Y座標 : - 4795.0 m	- → 5076.7576 m
右上 X座標 : - 20335.0 m	- → 19982.9764 m
Y座標 : - 4750.0 m	- → 5031.7575 m
遺構図版中の北を示す方位はすべて座標北である。	
第4～6回は、グリッドの縦軸が南北方向を示す。	

2. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺構　調査区全体図	: 1/500, 1/250
各遺構	: 1/60, 1/30 (一部 1/100)
遺物	上器: 1/4, 下製品 2/3, 1/2
石器	: 2/3, 1/3, 1/6

3. 遺構図版中のマークは遺物分布を示す。遺構図版中の網掛けは焼上を示す。遺構図版中の断面図脇にある数値は標高を示す。

4. 遺構図版中の土器番号、土器実測図番号、土器観察表番号は一致している。ただし、石器については別の番号が付けられている。表中の括弧付き数値は残存値を示す。

5. 土層説明における上色表示は、小山正忠・竹原秀雄2003『新版 標準上色帖』農林水産省農林水産技術會議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修を使用した。

6. 第1図は、国土地理院発行 1/25,000 地形図「長坂上条」(平成元年発行)を基に作成した。

目 次

挿 図 日 次

例言・凡例

本文日次・挿図日次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経緯と概要	1	第1図 大久保遺跡周辺の遺跡分布図 (1/25,000) ······ 9 第2図 大久保遺跡周辺の地形 ······ 10 第3図 調査区位置図 (1/2,500) ······ 11 第4図 調査区全休図 (1/500) ······ 12 第5図 A区全体図 (1/250) ······ 13 第6図 B区全体図 (1/250) ······ 14 第7図 1号住居跡 ······ 15 第8図 1号住ビット3、4号住居跡 ······ 16 第9図 2号住居跡 ······ 17 第10図 3号住居跡 ······ 18 第11図 3号住炉・焼土 ······ 19 第12図 5号住居跡 ······ 20 第13図 5号住炉 ······ 21 第14図 6号住居跡 ······ 22 第15図 7・8・11号住居跡 ······ 23 第16図 7・8・11号住居跡② ······ 24 第17図 9号住居跡 ······ 25 第18図 9号住ビット1、10号住居跡 ······ 26 第19図 10号住炉・ビット1・2 ······ 27 第20図 1号堅穴状遺構、1・2・7号坑 ······ 28 第21図 8・9・11・13・16・17・19・22号土坑、 △区基本層序 ······ 29
第2章 遺跡周辺の環境	2	
1. 地理的環境		
2. 歴史的環境		
第3章 発見された遺構と遺物	3	
1. 基本層序		
2. 住居跡		
3. その他の遺構		
4. 遺構外出出土上器		
5. 石器		
第4章 調査の成果と課題	87	
1. 出土土器について		
2. 繩文時代中期後半の集落について		
3. 住居の形態について		
参考文献	88	
附録 大久保遺跡出土黒曜石产地分析推定結果	91	
第1図 大久保遺跡周辺の遺跡分布図 (1/25,000) ······ 9 第2図 大久保遺跡周辺の地形 ······ 10 第3図 調査区位置図 (1/2,500) ······ 11 第4図 調査区全休図 (1/500) ······ 12 第5図 A区全体図 (1/250) ······ 13 第6図 B区全体図 (1/250) ······ 14 第7図 1号住居跡 ······ 15 第8図 1号住ビット3、4号住居跡 ······ 16 第9図 2号住居跡 ······ 17 第10図 3号住居跡 ······ 18 第11図 3号住炉・焼土 ······ 19 第12図 5号住居跡 ······ 20 第13図 5号住炉 ······ 21 第14図 6号住居跡 ······ 22 第15図 7・8・11号住居跡 ······ 23 第16図 7・8・11号住居跡② ······ 24 第17図 9号住居跡 ······ 25 第18図 9号住ビット1、10号住居跡 ······ 26 第19図 10号住炉・ビット1・2 ······ 27 第20図 1号堅穴状遺構、1・2・7号坑 ······ 28 第21図 8・9・11・13・16・17・19・22号土坑、 △区基本層序 ······ 29 第22図 出土土器 (1号住) ······ 31 第23図 出土上器 (2号住①) ······ 32 第24図 出土上器 (2号住②・4号住) ······ 33 第25図 山上土器 (3号住) ······ 34 第26図 出土土器 (5号住①) ······ 35 第27図 出土土器 (5号住②) ······ 36 第28図 出土土器 (5号住③) ······ 37 第29図 山上土器 (5号住④・6号住①) ······ 38 第30図 出土土器 (6号住②) ······ 39 第31図 出土土器 (6号住③) ······ 40 第32図 山上土器 (7号住①) ······ 41 第33図 出土土器 (7号住②) ······ 42 第34図 出土土器 (8号住・11号住) ······ 43 第35図 出土土器 (10号住) ······ 44 第36図 山上土器 (9号住・土坑・造構外) ······ 45 第37図 出土石器 (6号住) ······ 57 第38図 出土石器 (11号住・3号住) ······ 58 第39図 出土石器 (5号住①) ······ 59 第40図 山上石器 (5号住②) ······ 60 第41図 出土石器 (5号住③) ······ 61		

第 42 図	出土石器（10号住）	62
第 43 図	出土石器（7号住）	63
第 44 図	出土石器（1号住①）	64
第 45 図	出土石器（1号住②）	65
第 46 図	出土石器（2号住）	66
第 47 図	出土石器（9号住）	67
第 48 図	出土石器（4号住・8号住・土坑・溝）	68
第 49 図	出土石器（遺構外）	69
第 50 図	低倍率顕微鏡図 1	70
第 51 図	低倍率顕微鏡図 2	71
第 52 図	低倍率顕微鏡図 3	72
第 53 図	低倍率顕微鏡図 4	73
第 54 図	低倍率顕微鏡図 5	74
第 55 図	低倍率顕微鏡図 6	75
第 56 図	遺構変遷案	89
第 57 図	各時期の住居形態	90
第 58 図	黒曜石の産地判別図 1	95
第 59 図	黒曜石の産地判別図 2	95
第 60 図	東日本の黒曜石原产地	96

写 真 図 版

表 目 次

第 1 表	遺跡地名表	9
第 2 表	土坑・ピット・住居内ピット一覧表	30
第 3 表	上器観察表	46
第 4 表	遺構別出土上器内訳表	51
第 5 表	石器属性表	76
第 6 表	器種記号・管表	85
第 7 表	黒曜石製石器の組成表	85
第 8 表	石器組成表	86
第 9 表	大久保遺跡出土黒曜石製石器産地推定結果	92
第 10 表	判別図に用いた産地原石判別群	96
第 11 表	大久保遺跡山上黒曜石産地組成	96
図版 1	△区空撮（北西から）、A区空撮（東上から）	
図版 2	B区空撮（南東から）、B区空撮（真上から）	
図版 3	A区近景（南東から）、A区住居跡群①・② B区近景（北西から）、B区近景（南東から） B区住居跡群①～③	
図版 4	1号住居跡①・②、1号住1号埋甕①・② 1号住2号埋甕、1号住ピット 1	
図版 5	1号住ピット 2、1号住ピット 3 2号住居跡、2号住炉	
図版 6	2号住造物出土状況①～⑤、2号住ピット 5 3号住居跡、3号住焼上、	
図版 7	3号住遺物出土状況①～④、4号住居跡①・② 5号住居跡①・②、5号住炉・焼上、5号住炉	
図版 8	5号住遺物出土状況⑤～⑫	
図版 9	5号住遺物出土状況⑬～⑯	
図版 10	6号住遺物出土状況⑭～⑯ 7号住居跡①・②、7号住炉	
図版 11	7号住遺物出土状況①～③ 8号住居跡①・②、9号住居跡①・② 9号住炉	
図版 12	9号住炉遺物出土状況、9号住埋甕 9号住遺物出土状況①・② 9号住ピット 1 遺物出土状況	
図版 13	10号住居跡①・②、10号住炉 10号住炉遺物出土状況	
図版 14	10号住遺物出土状況①・② 11号住居跡①・② 11号住遺物出土状況①～③ 11号住遺物出土状況④、1号土坑 2号土坑、2号土坑遺物出土状況	
図版 15	2号土坑、16号土坑 7号土坑、16号土坑 1号堅穴状遺構、1号溝	
図版 16	1号堅穴状遺構、1号溝	
図版 17	出土土器①	
図版 18	出土土器②	
図版 19	出土土器③	
図版 20	出土土器④	
図版 21	出土土器⑤	

図版 22 出土石器（7号住・10号住）

図版 23 出土石器（1号住）

図版 24 出土石器（2号住・9号住）

第1章 調査の経緯と概要

1. 発掘調査に至る経緯

旧白州町は、町域を走る国道や地方主要道路を結び、地域間の連絡・連携を強化するために市道の改良工事を計画した。それは合併して誕生した北杜市にも引き継がれ、より広範囲な地域を効率的に移動するために事業の推進が急がれた。

2006（平成18）年12月、北杜市建設部道路河川課から市道花水木ノ手線の施設予定区間に於ける埋蔵文化財包蔵地の有無の照会を受け、予定区間の一部に大久保（白須）遺跡が存在することと、事前の発掘調査が必要である旨を回答した。2007（平成19）年4月に遺跡の遺存状態を確認するために試掘調査を行った結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒が確認され、地形および遺物山上の分布から調査範囲を設定し、同年5月から発掘調査を実施した。整理作業および報告書作成業務は翌2008（平成20）年4月より開始し、2009（平成21）年3月に終了した。2007年度の発掘調査費は2,957,566円、2008年度の整理作業費は4,224,250円、合計7,181,816円であった。この発掘調査に係わる事務手続きは以下のとおりである。

文化財保護法第94条による通知：平成18年12月6日付け北杜道河第2832号

同通知に係わる指示通知：平成18年12月19日付け教文第2633号

文化財保護法第99条による発掘着手報告：平成19年4月23日付け北杜生字第141-1号

同条による発掘終了報告：平成19年8月28日付け北杜生字第596-1号

埋蔵物発見届：平成19年8月28日付け北杜生字第596-4号

埋蔵物保管請書：平成19年8月28日付け北杜生字第596-2号

埋蔵文化財保管証：平成19年8月28日付け北杜生字第596-3号

本遺跡の発掘調査の日程は以下のとおりである。

2007年4月23日～24日：試掘調査

5月14日～：発掘調査着手（A区調査開始）

6月19日：A区航空写真撮影

6月21日～：B区調査開始

8月17日：B区航空写真撮影

8月24日：発掘調査終了

2008年4月1日：整理作業着手

3月31日：整理作業終了

2. 発掘調査の概要

本遺跡における今回の調査は、道路建設ということもあり、幅約12m、北西から南東方向に約115mある細長い調査区となった（第4図）。調査区は微高地の中央を横断するように位置し、中央に直交する農道が通るため、北側をA区、南側をB区とした。調査面積はA区が658m²、B区が626m²、合計1,284m²である。標高は595m～599mである。

調査区は基準点測量を行い、この点に基づき調査区の南西側に原点を設け、そこから10m四方のグリッドを設定した。西から東に1～11、南から北へA～Gとグリッド名をつけた。

調査は、重機による表土掘削から始まり、造構確認面まで下げた後、人力により精査しながら造構の確認を行い、順次造構を剥削していった。遺物はある程度大きいものは出土した原位置で光波測量機による記録、取り上げ作業をし、小さいものについては各造構や造構外の一括遺物として取り上げた。造構は土層断面・造構平面図等を光波測量機により図化した。調査の状況に応じて遺物出土状況や土層断面、造構充填状況などの写真撮影を行い、調査区全体をラジコンヘリにより航空写真を撮影した。最初にA区を調査し、A区の調査終了後、B区の調査を行った。

発見された造構は、縄文時代中期後半の竪穴住居跡11軒、溝状造構1条、竪穴状造構1基、土坑21基、ピット10基である。出土遺物は、縄文時代の土器・土製品・石器が整理箱で29箱分出土した。

3. 発掘調査組織

発掘調査組織は以下のとおりである。

調査主体 北杜市教育委員会

事務局 教育長 小清水淳三（～2007年11月）、

櫻井義長（2007年11月～）

生涯学習課長 原一元

調査担当 村松佳幸

（長坂郷上資料館担当兼文化財担当）

発掘作業員 池谷正道、山中敏夫、関祐二、浅野好生

秋山かつみ、浅川八重子、名取初子

菊地美代子、

整理工業 有野明子、清井ゆき枝、日向登茂子

井出山美、加藤歩美、白倉めぐみ

原万紀子

第2章 遺跡周辺の環境

1. 地理的環境

本遺跡は、山梨県北杜市白州町白須字大久保地内に所在する。北杜市は山梨県の北西部に位置し、北は八ヶ岳、東は瑞牆山・金峰山を代表とする秩父山地や茅ヶ岳、西は甲斐駒ヶ岳などが連なる南アルプス山脈と、周囲の山々を含む広大な面積をもつ市である。白州町は南アルプス山脈の東麓に位置する風光明媚な町である。

白州町の地形は、山地、扇状地、段丘、平地に大別できる。山地は、標高 2966 m の甲斐駒ヶ岳を主峰とする南北に走る南アルプス山脈と、その手前に並行して走る丹摩山地からなる。所謂フォッサマグナ（中央地溝帯）の西縁にあたり、糸魚川・静岡地質構造線が町内を縱走する。南アルプス山脈と丹摩山地は、この構造線に沿って貫入した花崗岩および石英閃緑岩を主体に構成されている山である。

町の東側を越岳を水源とする釜無川が、神宮川、尾白川、大武川等の甲斐駒ヶ岳から流れ出る河川と合流しながら東南方向に流下する。これらの河川は比較的緩やかであるが、一度豪雨があると急激に増水し、上流にある風化すると崩れやすい花崗岩と共に多量の土石流となつて押し出し、八ヶ岳南麓の西縁を削り、七里ヶ原と呼ばれる断崖を形成した。

釜無川とその支流は扇状地や河岸段丘を形成する。河岸段丘は、段丘面を覆うローム層の有無や現河床からの高さ等から、低位段丘・中位段丘・高位段丘の3つに区分される。本遺跡は、釜無川とその支流である尾白川とに挟まれた中位段丘に立地する。この段丘は、現河床との比高は 10 ~ 40 m である。八ヶ岳に由来する垂崎泥流の上に花崗岩を主体とした段丘礫層が、厚さ 10 数 m で堆積し、最上部に新期ローム層が薄く乗る。本遺跡でも砂粒を多く含むが、ローム層が確認されている。

本遺跡は、釜無川右岸・尾白川左岸にあたり、釜無川寄りに位置する。釜無川との比高は約 30 m であり、緩やかに南東に傾斜する平坦面に立地する。その平坦面も微視的に見ると起伏がある。本遺跡は、平川面内の微高地にあり、東側は 2 ~ 3 m の段差がある沢筋となる。平川面上に集まつた水の釜無川への流れ道であったと考えられる。本遺跡で発見された縄文時代の集落は、この微高地の頂部を中心としてその周間に展開していた。水場としては北側に流れる釜無川を利用したのであろうか。現在の主要道路である国道 20 号線は、本遺跡から約 400 m 南を縱走している。

2. 歴史的環境

南アルプス山脈の山麓に広がる白州町は、そこから流れる豊かな溪流水と日照に恵まれて、釜無川に向かって傾斜する広大な段丘平坦面に集落が発達していく。町内では旧石器時代の遺物はまだ発見されていないが、縄文時代草創期の尖頭器が古御所東遺跡で出土している。それ以降、断続的ではあるが数多くの遺跡が残され、時代別にみると縄文時代が最も多く、平安時代および中世がそれに次ぐ。縄文時代については、早期から晚期までの上器が採集・出土しているが、中期が最も多く、前期がこれに次いでいる。この傾向は八ヶ岳南麓と同じであり、両地域の関係性が強いことを示している。

本遺跡のある白須地区には、大除遺跡群（6037 ~ 6039）や北原遺跡（6008）等の縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡や、縄文時代前期の遺跡である椎原遺跡（6008）が確認されている。他にも尾白川右岸の陣ヶ原 1 遺跡（6029）や陣ヶ原 2 遺跡（6030）等の平安時代から中世を土体とする遺跡もある。本遺跡周辺でも、これまでにいくつかの発掘調査が行われている。

根占屋遺跡（6015）は、1984（昭和 59）年に圃場整備事業に伴う発掘調査が実施された。縄文時代前期初頭の住居跡 1 軒、中期後半の住居跡 12 軒、十坑 26 基等が発見された。主に曾利 I ~ V 式期まで続いた集落であり、第 1 号住居跡からは鉄手工具・床面に伏せられた深鉢形土器・丸石・立石が出土し、祭祀的な性格が強い住居跡として注目されている。

本遺跡の西隣に旧皆原小学校遺跡（6055）がある。1993（平成 5）年に園場整備事業に先立つ発掘調査と、翌年に白州小学校体育館建設工事に伴う発掘調査が行われている。平安時代の竪穴式住居跡 7 軒と中世と考えられる土坑 44 基が発見された。遺跡のほとんどが既存の白州小学校の範囲と重なると考えられてきたが、調査の結果、遺跡の中心がこれまでより北にずれることが確認され、比較的規模が大きいためこの地区的縄文時代中期と平安時代における拠点的集落と推定された。

尾敷平遺跡（6016）は、木遺跡から南東約 1 km のところにある。1991（平成 3）年に台ヶ原地区農工団地造成工事に伴い発掘調査され、縄文早期・前期・中期・晚堀、弥生中期、土師質土器・内耳土器・青磁などの中世の遺物が多数出土した。また、2005（平成 17）年に食品加工場建設に伴う発掘調査が行われ、縄文晚期の住居跡 1 軒、中世の掘立柱建物跡 5 棟・地下式土坑 2 基、縄文晚期の土坑や中世の円形墓を含む土坑 200 基以上が発見され、縄文晚期の住居跡は貴重な発見例となった。

第3章 発見された遺構と遺物

1. 基本層序

本遺跡の基本層序は単純である（第21図）。約10cmの第1層である表土の下には、第2層のにぶい黄褐色土が約20cm堆積する。その下に第3層の暗褐色土と第4層の褐色土が堆積し、その2つの層が遺物包含層となる。第4層の褐色土は第3層の暗褐色土の漸移層といえる。その下の第5層の黄褐色土は中位段丘にわざかに残るローム層の地山であり、その上面が遺構確認面である。第2～5層には、南アルプス山脈に由来すると考えられる砂粒が多量に含まれるため、ハケ岳南麓のローム層と比べると砂っぽい。

地山には巨礫が多く含まれる。A区の5号住居跡や、B区7号住居や10号住居の近くから花崗岩の巨礫が頗るぞかせている。B区南東端の台地から下がったところには花崗岩の大礫が多数露出している。基本層序のさらに下層には南アルプス山脈由来の花崗岩の大礫が多数含まれる層があると思われる。

2. 住居跡

1号住居跡（第7・8図）

（位置）E-4・F-4グリッドに位置する。

（重複）なし

（形状）不整な円形と思われる。

（規模）半分以上が調査区外にある。調査した範囲は長軸6.46m、短軸2.44m、深さ48.6～52.0cmである。

（床面）硬化面は確認できなかった。搅乱があちらこちらにあり、床の遺存状態は良くなかった。

（施設）調査した範囲に火は確認できなかった。調査区外にあると思われる。埋甕が2基重複して発見された。2号埋甕が埋設された後、その一部を壊して1号埋甕が埋設された。

確認した主柱穴はピット5・9である。ピット4も主柱穴の可能性はあるが、大きめの土器片等が覆土中層から出土したので、貯蔵穴とも考えられる。

貯蔵穴と思われるフラスコ状のピットが3基あった。ピット1は底部の壁際にいくつかの礫が置かれ、細長い縦のやや上方から土器底部の7001が出土した。ピット2は底部中央に台石を含む礫がまとまり、東壁際に上器底部の7002が山上した。1号埋甕に切られていたので、1号埋甕の時期には埋められていた。ピット3はX字状把手付深鉢の大形破片と台石が山上した。フラスコ状ピット3基は同時に使用されていたとは考えられず、段階

的に作られていったのであろう。

（遺物）第22図。3095は縄文地文で、縄の結び目による結節沈線を縦位に施す。口縁部は1本の隆線でつなぎ弧文をもち、4つの小突起がある。突起下には、隆線上による渦巻文があり、内側には網文が充填されている。1号埋甕で、底部は欠損している。690は2号埋甕で、1号埋甕設に伴いかなりの部分が欠損している。胴部上半は横位条線、下半は縦位条線を地文とする。頭部には粘土紐による波状降線が、胴部には2本粘土紐によるU字状文や縦位の波状粘土紐がつけられる。曾利I式と考えられるが、曾利II式古段階ともいえる。708は口縁部と底部欠損する。地文は縄文で、頭部に1本の刻み降線が貼り付けられている。7007はX字状把手付深鉢の大形破片である。地文は縄文で、刻み降線による懸垂文がつく。X字状把手の上端から胴部文様へ続いている。1752は渦巻文の把手である。S字状に渦巻文が連続し、内外面に装飾される。内部は空洞である。7003は、連弧文土器の影響であろうか、口縁部に半截竹管内皮による波状沈線が横位に巡る。

（遺物出土地状況）住居跡の半分しか調査していないが、土器の出土量は最多である。搅乱が多いためか完形に近い個体は少ない。

（時期）1号埋甕3095と2号埋甕690より曾利I式期～曾利II式期と考えられる。より詳細にみると、3095は結節沈線がつく、口縁部が直立する、口縁部内側に地文の網文を施す、つなぎ弧文の下端部が直線的であるなど、曾利II式でも占段階のものといえ、690は胴部が張り、粘土紐による装飾が施されるなど、曾利I式新段階～曾利II式古段階のものといえるので、曾利I式新段階～II式古段階と考えられる。

（備考）1号住居はAIKにある住居群の中央に位置する。

2号住居跡（第9図）

（位置）D-4・E-4グリッドに位置する。

（重複）なし。

（形状）不整な椭円形である。

（規模）長軸4.67m、短軸4.24m、深さ36.7～38.0cmである。

（床面）硬化面は確認できなかった。

（施設）炉が住居中央やや西寄りにある。石訓炉で、扁平な礫を平置きして作られている。東隅の一部に礫がなく、はずされた可能性もある。炉内は焼土が発達していないかった。埋甕は発見されなかった。七柱穴はピット1・2・3・4の4本柱穴である。ピット5が貯蔵穴と思わ

れる。

(遺物) 第 23・24 図。1456 は口縁部に渦巻つなぎ弧文をもつ土器である。渦巻文の上部には 2~3 の刺突文がみられる。縄文地文であり、胴部には半截竹管内皮による懸垂文と縦位波状沈線が施される。口縁部の区画内には地文の縄文が施される。曾利 II 式であるが、加曾利 E 2 式の要素の強い土器といえる。413 は口縁部に渦巻つなぎ弧文をもつ。頭部は無文で、胴部に沈線による弧文や円文が施される。口縁部の区画内と胴部には縄文地文が施される。加曾利 E 2 式である。2800 は胴部上半に格子文、頭部に X 字状把手をもつ。縄文地文、波状粘土紐の装飾をもち、把手の上にはねじりのある突起がつく。梨久保 B 式あるいはその影響の強い上器である。295 は口縁部に重弧文、頭部に斜行文、胴部に条線と波状粘土紐の装飾をもつ。83 は口縁部に格子文をもつ上器である。胴部には条線地文で懸垂文と縦位波状粘土紐が施される。2838 は縄文地文で口縁部に渦巻文をもつ。2833・2828 は同一個体で、縄文地文の X 字状把手付深鉢の破片である。X 字状把手の上端から胴部文様に続いている。胴部文様の隆帯の中央に半截竹管内皮による刻みが施される。2827 は無文の小形土器である。

(遺物出土状況) 住居の南東寄りに土器の集中箇所があった。炉の周辺や北西壁近くからも大形破片が出土した。ピット 5 からは細長い大礫の他、小礫や土器片が出土した。住居内土器は縄文地文の上器が多い。

(時期) 山土器より曾利 I 式期と考えられる。

(備考) 2 号住は A 区にある住居群の東側に位置する。そこは集落の中央寄りにあたる。

3 号住居跡 (第 10・11 図)

(位置) E-3・E-4 グリッドに位置する。

(重複) なし。

(形状) 不整な円形である。

(規模) 長軸 5.92 m、短軸 5.70 m、深さ 20.4 ~ 50.9 cm である。

(床面) 硬化面は確認できなかった。

(施設) 住居中央や北寄りに炉がある。礫はなく、地床炉のようではあるが、礫がはずされた可能性がある。炉内の焼土はあまり発達していない。炉の南側に焼土が確認できた。長軸 135 cm、短軸 75 cm とやや大きい。主柱穴は、ピット 3・4・5・7・8・10 の 6 基である。ピット 2・5・7・10・11・13 の 6 基の組み合わせもあり、柱穴配置の規模から後者が先に作られ、前者に建設されたと考えられる。ピット 1 あるいはピット 6 が貯蔵穴

として使われたかもしれない。周辺は壁沿いを断続的に巡っている。

(遺物) 第 25 図。1328 は曾利 I 式の長脚甕である。口縁部は無文、頸部に 2 本の陸線を巡らし、下方の陸線上には刻みを施す。頭部に渦巻文がつき、そこから 2 本の刻み陸線による U 字状懸垂文が延びる。地文は条線である。1287 と 1567 も曾利 I 式の長脚甕である。条線地文、頭部に陸線、渦巻文から延びる陸線による懸垂文など、1328 と共通する。2190 は大形の深鉢底部である。破損後に底部だけ別の用途に転用されたと思われる。1021 は杓子形土製品である。やや細長く柄は欠損している。

(遺物出土状況) 住居の中央から 1328 と 2190 が大形破片の状態で出土している。それ以外は小さめの破片で出土した。土器の出土量は、住居跡の大きさの割には少なかった。

(時期) 山土器より曾利 I 式期と考えられる。頭部に渦巻文がつき、刻み陸線による U 字状懸垂文を持つものが多く、曾利 I 式期の中でも古段階であろう。

(備考) 3 号住は A 区にある住居群の中央に位置する。

4 号住居跡 (第 8 図)

(位置) E-5 グリッドに位置する。

(重複) なし。

(形状) 不整な円形であると思われる。

(規模) 2/3 以上が調査区外にある。調査した範囲は長軸 4.70 m、短軸 1.12 m、深さ 9.6 ~ 13.3 cm である。

(床面) 調査範囲内では硬化面は確認できなかった。搅乱も入り、床面の遺存状態は悪かった。

(施設) 炉・埋甕とともに確認できなかった。主柱穴はピット 1 の 1 基のみ確認できた。

(遺物) 第 24 図。曾利 II 式の渦巻つなぎ弧文の口縁部片である 54 を始め、いずれも小片で出土した。出土量も少なかった。

(時期) 出土土器より、おそらく曾利 I 式～曾利 II 式と考えられるが、小片での出土であるため詳細な時期は不明である。

(備考) 4 号住は A 区にある住居群の東側に位置する。そこは集落の中央寄りにあたる。

5 号住居跡 (第 12・13 図)

(位置) F-3 グリッドに位置する。

(重複) なし。

(形状) 不整な円形である。

(規模) 長軸 6.51 m、短軸 6.22 m、深さ 23.0 ~ 39.7

cmである。

(床面) 硬化面は確認できなかった。

(施設) 炉が住居中央やや東寄りにあった。扁平な大礫を平置きして囲う石圓炉である。南側の一部は24号土坑により焼されている。炉の東側に長軸100cm・短軸55cmの焼上が確認できた。埋甕なし。土柱穴はピット2・5・7・13・16・18の6基と、ピット1・4・6・8・12・14・17の7基と考えられ、それ以外にピット9・10・15も主柱穴と思われる。前者の6本柱穴から後者の7本柱穴に建替えられたと考えられるが、それ以外にも建替えや柱の本数が違うものがあった可能性はある。周溝は東側の一部のみ確認できた。

(遺物) 第26～29図。2090は曾利I式の渦巻把手土器である。把手は2対と考えられるが、片方は出土しなかった。把手は中空の筒形で、側面に渦巻と波状の装飾がつき、部分的に孔が開いている。頸頂部に渦巻文がつく。胴部は把手の下端から3本陸線の懸垂文が下がり、それを境に条線と無文とに地文が分かれる。胴部には波状粘土紐が装飾される。2922は曾利I式直前段階の小形長胴甕である。異形の渦巻文が施された突起が1つあり、反対側の外面にはW字状文が施される。条線地文で、胴部にはU字状とト字状の文様が刻み陸線で描かれている。器形は胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。2642は曾利I式の渦巻把手土器であるが、把手は全て欠損している。条線地文、刻み陸線による懸垂文がある。298・2164・2269・2934は曾利I式の小形長胴甕である。2934以外は条線地文で、刻み陸線による懸垂文やU字状文をもつ。2934は頭部に半截竹管内皮による沈線があり、その中を刻んでいる。2481は長胴甕と思われるが、口縁部は直立し、口唇部が外側に張り出す形態をしている。張り出しの端部には刻みが施され、頭部と懸垂文には波状粘土紐がつく。地文は条線、頭部に渦巻文がある。2927は筒形の渦巻把手、2941は水煙文状の渦巻把手である。

(遺物出土状況) 住居の北から東側にかけて大形破片がまとまって出土した。298・2922・2934は横倒し状態で出土した。どれも床面から浮いていたので、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。炉の構築縁に台石72と石亘73が使用されており、炉の北東隅の内側に回石66が置かれていた。出土量も多く1号住に次ぐが、出土した個数は最多であった。

(時期) 使用時期を示す炉内埋設土器や壙甕が発見されていないので断定はできないが、2090・2922などの出土土器より曾利I式と考えられる。曾利I式の中でも古

段階の土器が多いので、5号住もそれに近いものと考えられる。

(備考) 住居の南側に花崗岩の巨礫がある。地山に含まれるもので人為的に移動されたものではない。住居が使用されていた時も巨礫が露出していたであろう。巨礫も住居の施設として利用されていたかもしれない。

5号住はA区にある住居群の西側に位置する。そこは集落の外寄りにあたる。

6号住居跡(第14図)

(位置) B-9・B-10グリッドに位置する。

(重複) 1号溝に切られる。

(形状) 不整な円形である。

(規模) 長軸4.97m、短軸4.58m、深さ21.6～39.6cmである。

(床面) 硬化面は確認できなかった。

(施設) 住居中央やや北寄りに炉がある。細長い礫を運ぶ石圓炉である。南側の一部に甕はない、焼土が確認できた。炉内の焼土はあまり発達していない。埋甕はない。主柱穴はピット1・2・3・4・5の5基である。ピット6あるいはピット7が貯藏穴であろうか。周溝は西側半分で確認されている。

(遺物) 第29～31図。3158は曾利I式の長胴甕である。口縁部は渦巻文とW字状文がつく波状口縁である。胴部には渦巻文と3～4本の刻み陸線で懸垂文やU字状文を施している。地文は条線である。5459は両戸尻式である。口縁部にはW字状文がつき、胴部には中を継ぎ沈線で充填された構円口画文が配される。4798・5398は同一個体で、両戸尻式と思われる。曾利I式の長胴甕に続く形態で、口縁部は屈曲が強く無文、胴部に1本の陸線を巡らし、胴部に2本の陸線で文様を描いている。地文は棒状工具による1本引きの条線で、曾利I式より雰囲気を受ける。5209は半截竹管内皮による条線で、口縁部は直線的に開く形態である。頭部と胴部には2本の陸線による文様がつき、陸線上には棒状工具による刻みが施される。曾利I式であろう。4639は曾利I式の長胴甕である。口縁部は弱い波状口縁で、頭部にミミズク状突起がつく。2木の刻み陸線で胴部文様を描く。5400は梨久保B式の小形土器である。強い波状口縁で、口縁部につけられた渦巻文の下にねじりのある陸線を貼り付けている。頭部には櫛形文が施され、底部は抜けていた。(遺物出土状況) か周辺と西側に大形破片が出土している。炉周辺のものは床面に近いが、いずれも住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。ピット9からは5809

や 5813 が出土している。ピット 9 は埋甕が埋設されてもいい位置にあり、埋甕へつながるものであろうか。

(時期) 住居跡内から出土した土器は井戸尻式末～曾利 I 式である。ほとんどが廃棄されたもので、炉周辺で 5459・4798 などの井戸尻式末の土器が多く出土している。よって、住居使用時期は井戸尻式末と考えたい。

(備考) 6 号住は B 区にある住居群の東側に位置する。そこは集落の外寄りにあたる。

7 号住居跡 (第 15・16 図)

(位置) B - 8 グリッドに位置する。

(重複) 11 号住居跡を切る。1 号竪穴状遺構に切られる。

(形状) 長円形と思われる。

(規模) 半分以上が調査区外にある。調査した範囲は長軸 5.92 m、短軸 2.46 m、深さ 29.0 ~ 38.7 cm である。

(床面) 硬化面は確認できなかった。

(施設) 住居中央やや北寄りに炉がある。右圓炉で形態は長方形。扁平な大礫を短辺に、細長い棒状礫を長辺に置く。扁平な大礫は平置きにする。埋甕は確認できなかつた。あるとすると調査区外になる。七柱穴はピット 2・3・4 の 3 基が確認できた。ピット 1 は貯蔵穴であろうか。周溝は調査範囲内では確認できなかつた。

(遺物) 第 32・33 図。7027 は縄文地文の把手付深鉢である。頸部に隆線、胴部に沈線による懸垂文が施される。5710 は条線地文の土器である。頭部や胴部に 2 本の刻み隆線による施文がある。曾利 I 式と思われるが、器形は曾利 II 式によくみられるものである。7026 は地文のない隆線で装飾された土器である。井戸尻式であろうか。3453 は無文の小形長胴甕と思われる。外曲は丁寧に磨かれている。6029 は鈎のつく台形土器であるが、鈎は全て欠けている。何かに転用されたのかもしれない。6121・7020・7021・7022 は同一個体で、渦巻把手付土器である。条線地文で、3 本の隆線により文様を描いている。3474・5354・5639・5744 は異条縄文の地文をもつ土器である。

(遺物出土状況) 炉から 6121 他の渦巻把手付土器が出土している。台形土器 6029 は逆さの状態で床直で出土した。5710 は床直に置かれた大礫にもたれかかるように出土した。出土量は、半分しか調査していないにも関わらず、1 号住と 5 号住に次ぐ 3 番目の多さである。

(時期) 使用時期を示す炉内埋設土器や埋甕が発見されていないので断定はできないが、炉周辺から出土した 6121・6156 などの出土土器より曾利 I 式期と考えられる。刻み隆線をもつ土器や胴部が直立する長胴甕が少な

いことから、曾利 I 式期の中でも新段階と考えられる。(備考) 7 号住は B 区にある住居群の中央に位置する。

8 号住居跡 (第 15・16 図)

(位置) B - 7・B - 8 グリッドに位置する。

(重複) 11 号住居跡を切る。

(形状) 不規な円形と思われる。

(規模) 半分以上が調査区外にある。調査した範囲は長軸 5.38 m、短軸 1.71 m、深さ 14.9 ~ 28.1 cm である。

(床面) 硬化面は確認できなかつた。

(施設) 炉も埋甕も確認できなかつた。調査区外にあると思われる。主柱穴はピット 1・5・7 の 3 基が確認できた。調査した範囲では周溝が確認できた。

(遺物) 第 34 図。3573・3598 は曾利 II 式であろう。3544 は曾利 IV 式、3545 は曾利 V 式、3288・3536・3541・3833 は称名寺式である。

(遺物出土状況) いずれも小片で、出土量は 4 号住に次ぐ少なさであった。

(時期) 炉内埋設土器や埋甕が発見されておらず、かつ出土土器も小片ばかりであるため時期は不明である。出土土器と住居跡の形態により曾利式期であることはいえるであろう。

(備考) 8 号住は B 区にある住居群の西寄りに位置する。そこは集落の中央寄りにあたる。

9 号住居跡 (第 17・18 図)

(位置) C - 7・C - 8 グリッドに位置する。

(重複) 1 号溝に切られる。15 号土坑と重複する。

(形状) 不規な円形である。

(規模) 長軸 4.93 m、短軸 4.79 m、深さ 22.1 ~ 37.1 cm である。住居の壁ははつきり確認できなかつたため、掘りすぎている可能性はある。

(床面) 硬化面は確認できなかつた。

(施設) 住居中央やや北西寄りに炉がある。5 つの扁平な大礫を土坑内に立てるように設置し、間に小礫を噛ませてある。形態は五角形、炉内の施十はあまり発達しておらず、いくつかの小礫が出土した。埋甕が南東隅にある。土器は正位に埋設され、その上に花崗岩の大礫が置かれていた。主柱穴はピット 2・3・4・5 の 4 基である。ピット 1 は貯蔵穴と考えられる。周溝は東側の一部以外に確認できた。

(遺物) 第 36 図。3577 は埋甕である。縄文地文で、縄の結び目による筋造沈線が施される。口縁部に隆線による S 字状文が 4 つあり、その間を 2 本隆線の弧文でつな

ぐ。区画内は地文の網文が施されている。底部は欠損している。3585は縄文地文の鉢形上器である。

(遺物出土状況) 十器はほとんどが小片状態で出土し、残りのいいものは埋甕の3577だけである。埋甕の周辺から大甕がいくつか出土している。それ以外遺物のまとめはなかった。炉の南隅に凹石168が構築磯として使われていた。ピット1には棒状の大甕2点を含むいくつかの甕が入れられており、凹石167や台石172も出土している。台石172は底部に置かれていた。

(時期) 埋甕3577より曾利II式期と考えられる。3577は網文・結節沈線の地文で、口縁部の弧文の下端部が直線的であり、区画内は地文が充填されるので、曾利II式の中でも古段階のものといえる。

(備考) 9号住はB区にある住居群の西側に位置する。そこは集落の中火寄りにあたる。

10号住居跡(第18・19図)

(位置) B-8・B-9・C-8・C-9グリッドに位置する。

(重複) 1号隣に切られる。

(形状) 不整な梢円形である。

(規模) 長軸6.36m、短軸5.27m、深さ39.9~58.6cmである。

(床面) 硬化面は確認できなかった。

(施設) 住居中央や北寄りに炉がある。いくつかの小甕が残るのみであるが、石窯炉であった可能性はある。9号住のような深い掘り込みはないので、2・5・7号住のような扁平甕を平置きするタイプのものと思われる。かはピット5の上に構築されていた。埋甕はない。土柱穴はピット2・6・8・10・13・15の6基で、ピット1・4・5・11・14の5基も土柱穴と思われる。後者の5本柱から前者の6本柱に建替えられたと考えられる。ピット5はかに切られているので、5本柱の住居の時は炉がなかったと思われる。ピット1は貯藏穴の可能性もある。周溝は断続的に堀沿いを巡る。

(遺物) 第35図。4286は曾利I式の長胴甕で、口縁部は欠損している。胴部に2本の隆線によるU字状文が描かれ、その端部にも小さなU字状文がつく。地文は条線である。4176は渦巻把手付土器である。S字状文を表と裏につけた空の把手を形作っている。口縁部は把手から続く隆線で装飾される。頭部にミミズク状突起がつく。曾利I式である。5217はミニチュア土器である。曾利I式の小形長胴甕を模している。4212・4735・3767・4853・4182などの井戸尻式も出土している。5043は土鉢、

3876は耳栓、4068・4325は土偶である。7028の早期の梢円押型文も出土している。

(遺物出土状況) 全体を調査しているが、土器の出土量はそれほど多くない。大形破片も少なく、小片がほとんどである。5217が炉の覆土から出土している。

(時期) 炉の覆土から出土した曾利I式の長胴甕を模したミニチュア土器5217や他の大形破片より曾利I式と考えられる。井戸尻式の破片も多くみられるので、曾利I式でも古段階と考えられる。

(備考) 10号住はB区にある住居群の中央に位置する。

11号住居跡(第15・16図)

(位置) B-8グリッドに位置する。

(重複) 7号住居跡・8号住居跡・1号窓穴状造構・1号構に切られる。

(形状) 不整な梢円形と思われる。

(規模) 一部調査区外に延びたり、既に掘削されていたりと遺存状態は悪い。調査した範囲は長軸3.97m、短軸3.47m、深さ19.5~33.3cmである。

(床面) 床面の大部分が掘削により破壊されていた。他の遺構の切り合いもあり、残っている床面は少ない。残った床面で硬化面は確認できなかった。

(施設) 炉は搅乱により壊されていた。埋甕はないと思われる。土柱穴はピット1・2・3の3基が確認できた。周溝は北半分の壁際に確認された。

(遺物) 第31図。6005は有孔觸付上器である。胴部にねじりのある隆線による格子状文が施されている。あたかも上器が甕に縛られているかのように見える。最上部の隆線にはミミズク状突起が1つつく。底部は欠損しているので全体の形態は不明であるが、竹筒形と思われる。栗久保I式かその影響を受けた土器であろう。2678はヘビ状の把手である。6016は大形把手の頭頂部である。6013は梢円区画文をもつ上器である。区画内は沈線による渦巻文が施される。3921は強い屈曲をもつ口縁部に隆線を底位に附した土器である。以上は井戸尻式である。7030はボタン状貼付文をもつ諸磯C式である。

(遺物出土状況) 6005がピット2の近くから逆位で出土した。伏甕と似ている。石皿24がピット1とピット2の間の北壁近くから作業面を上にして出土した。それ以外は小片であり、搅乱のためもあり、出土量は少ない。

(時期) 炉や埋甕が発見されておらず、かつ出土土器も小片ばかりであるため時期は断定できないが、出土土器より井戸尻式期と考えられる。

(備考) 11号住はB区にある住居群の中央に位置する。

3. その他の遺構

2号土坑（第20図）

（位置）E-5グリッドに位置する。

（重複）3号ピットと重複する。

（形状）楕円形である。

（規模）長軸1.377m、短軸1.025m、深さ43.2cmである。

（床面）一段深い落ち込みがある。

（遺物）第36図7031は重弧文土器の口縁部片である。

口縁部には半截竹管内皮による重弧文が施され、頭部には粘土紐が横位に巡る。曾利I～II式と考えられる。

48・50・66が同一個体、51・65が同一個体で、押圧縄文と思われる地文や爪形文が施されている。曾利II式であらうか。

（遺物出土状況）七坑中層から石皿2点と礫4点が円形に並ぶように出土した。石皿182の上には口縁部片の7031があった。覆土中からは押圧縄文が地文の土器片がいくつか出土した。

（時期）出土土器より曾利II式と考えられる。
（備考）土坑はA区東端に位置する。そこは集落の内側にあたる。

16号土坑（第21図）

（位置）B-10グリッドに位置する。

（重複）なし。

（形状）楕円形である。

（規模）長軸1.022m、短軸0.833m、深さ25.0cmである。

（遺物）第36図6044は地文が刺突文のX字状把手付深鉢の破片である。曾利II式である。それ以外にも曾利II式と思われる土器片が数点出土している。

（遺物山下状況）上坑東側の覆土中に土器片が散在する。6044は東壁の底部付近から出土している。

（時期）山上土器より曾利II式と考えられる。

（備考）土坑はB区の東端近くに位置する。そこは集落の外側にあたる。

1号堅穴状遺構（第15・16・20図）

（位置）B-8グリッドに位置する。

（重複）7号住居跡・11号住居跡を切る。1号溝に切られる。

（形状）細長い長方形である。

（規模）残存している範囲は長軸4.00m、短軸2.30m、深さ34.9cmである。

（床面）硬化面は確認できなかった。

（施設）ピット等の施設は確認できなかった。

（遺物）出土した土器は全て縄文土器の小片である。

（遺物出土状況）大縁が北東隅近くにまとまって出土したが、いずれも覆土中からである。

（時期）時期決定できる土器が出土していないので、不明である。

1号溝（第6・14・16・17・18図）

（位置）A-10・B-8・B-9・B-10・C-7・C-8・D-6・D-7グリッドに位置する。

（重複）6号住居跡・9号住居跡・10号住居跡・1分堅穴状遺構・10号土坑・12号土坑・15号土坑・17号土坑を切る。

（形状）B区の北隅から南に下り、約90度南東方向に曲がり、B区のほぼ中央をわずかに蛇行しながら直線的に延びている。底面幅は約45cmであり、断面形状は箱型的である。

（規模）調査した範囲では全長51.7m、幅97.2～1.36m、深さ19.6～40.1cmである。

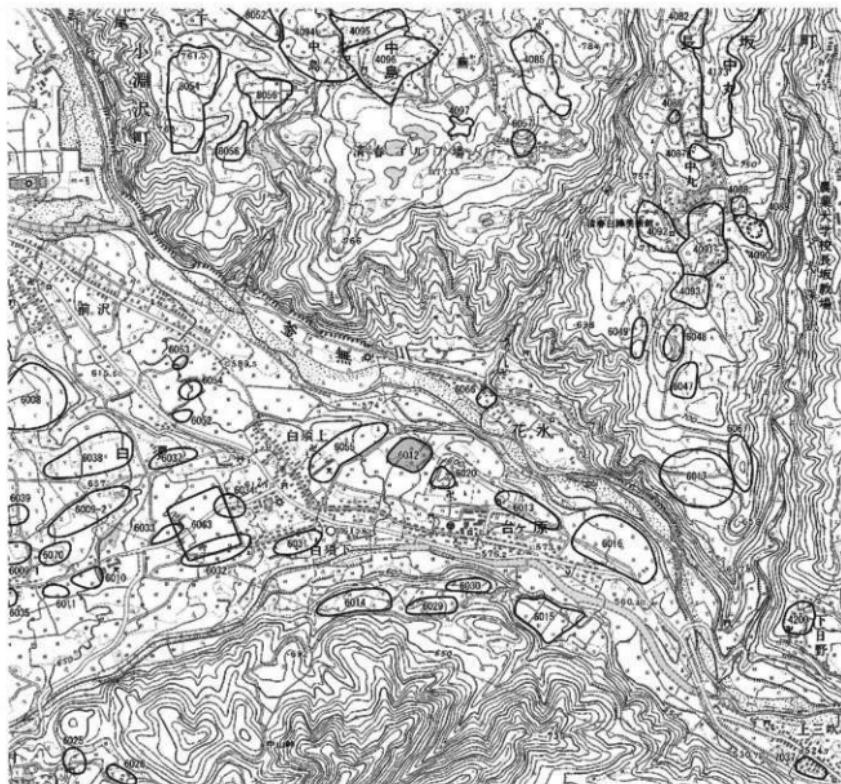
（遺物）縄文時代の住居跡を壊して作られているので、出土するものはほとんど縄文土器である。他の時代のものでは平安時代の甲斐型坏が2点出土している。

（時期）甲斐型坏も小片なので決め手に欠けるが、現在のところ時期決定の重要な手がかりといえよう。平安時代かそれ以降と考えられる。

（備考）現在の地境とは重ならないので、地境の溝とも考えづらい。館の溝としては規模が小さくゆがんだ直線である。現在のところ溝の用途は不明である。

4. 遺構外出土土器

第36図3192はB区の南東隅から出土した。16号土坑のさらに東の、やや傾斜のきついところでの出土であった。これだけの大形破片なので直ぐ近くに土坑等の遺構があると見て調査したが、遺構は確認できなかった。屋外に置かれたものであろうか。口縁部に半截竹管内皮による斜行文が施される斜行文土器である。頭部には格子状文、胴部には条線地文の上に継ぎ波状粘土紐が貼付される。曾利II～III式と考えられる。7032は井戸尻式である。口縁部に陸線や沈線で文様が施され、胴部には陸盛や沈線による渦巻文があり、地文は棒状工具による1本引きの条線がつけられる。12・361・1858は木葉文をもつ諸機a式で、いずれもA区からの出土である。



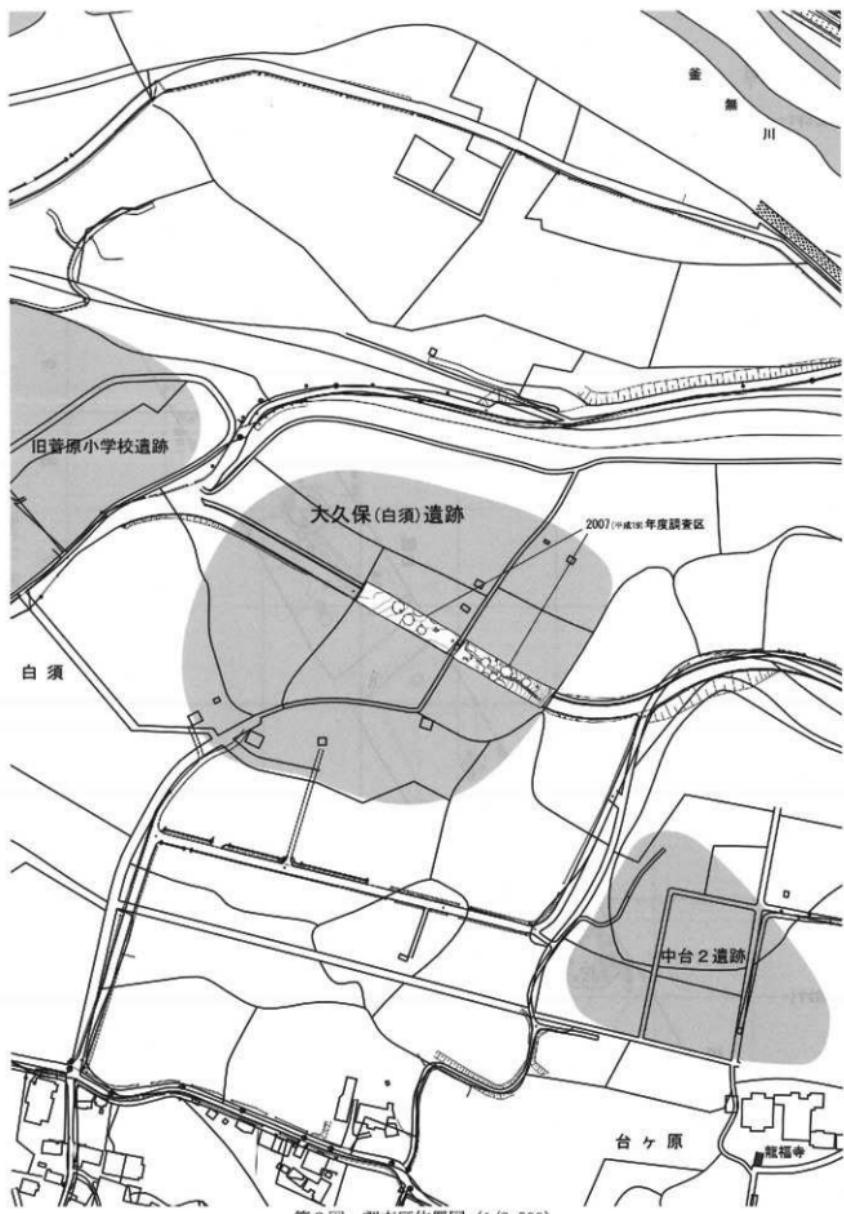
第1図 大久保遺跡周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

第1表 遺跡地名表

4082	間の原遺跡	縄	6010	囲口遺跡	縄/平/中	6038	大陸2遺跡	縄/平/中
4085	西薙南遺跡	縄/平	6011	坂口2(坂口東)遺跡	平/中	6039	大陸3遺跡	縄
4086	和手遺跡	縄/平	★6012	大久保(白須)遺跡	縄/中	6047	中原遺跡	縄/平
4087	腰塚遺跡	縄	6013	中台1遺跡	縄/平	6048	祭の神1遺跡	縄/平
4088	城山上北遺跡	縄/平	6014	川平遺跡	縄/中	6049	祭の神2遺跡	縄/平/中
4089	城山上遺跡	縄	6015	根吉屋遺跡	縄/中	6052	板下遺跡	平/中
4090	中丸古跡	中	6016	豊平遺跡	縄/赤/平/中	6053	所帯1遺跡	平/中
4091	居久原遺跡	縄/平	6017	押野遺跡	縄/赤/平/中	6054	所帯1遺跡	平/中
4092	清春白柳美術館南遺跡	縄/中	6020	中台2遺跡	縄/平	6055	旧若原小学校遺跡	縄/平/中
4093	久長遺跡	縄	6025	本村耕地1遺跡	縄/平/中	6057	花木大平遺跡	縄
4094	後平遺跡	縄/平	6026	本村耕地2遺跡	平/中	6063	馬場氏屋遺跡	中
4095	鶴北北遺跡	縄/平	6029	郡ヶ原1遺跡	縄/赤/平/中	6066	曲渕氏屋遺跡	中
4096	孤平遺跡	縄/平	6030	郡ヶ原2遺跡	縄/平/中	6067	深沢豈跡	中
4097	大平遺跡	縄/平	6031	柳原遺跡	縄	6070	竹宇3遺跡	縄
4173	新宿区鍛冶原遺跡	縄/平	6032	南田遺跡	縄/平/中	7037	富貴野遺跡	縄
4200	下日野遺跡	縄	6033	中村1遺跡	縄/平/中	8052	前田南遺跡	縄/平
6008	北原遺跡	縄/平/中	6034	中村2遺跡	縄/平/中	8054	向原遺跡	縄/弥
6009-1	竹子1遺跡	縄/平/中	6036	桜井2遺跡	縄	8055	頭佐沢南遺跡	縄/弥
6009-2	竹子2遺跡	縄/平/中	6037	大陸1遺跡	中	8056	頭佐沢北遺跡	縄

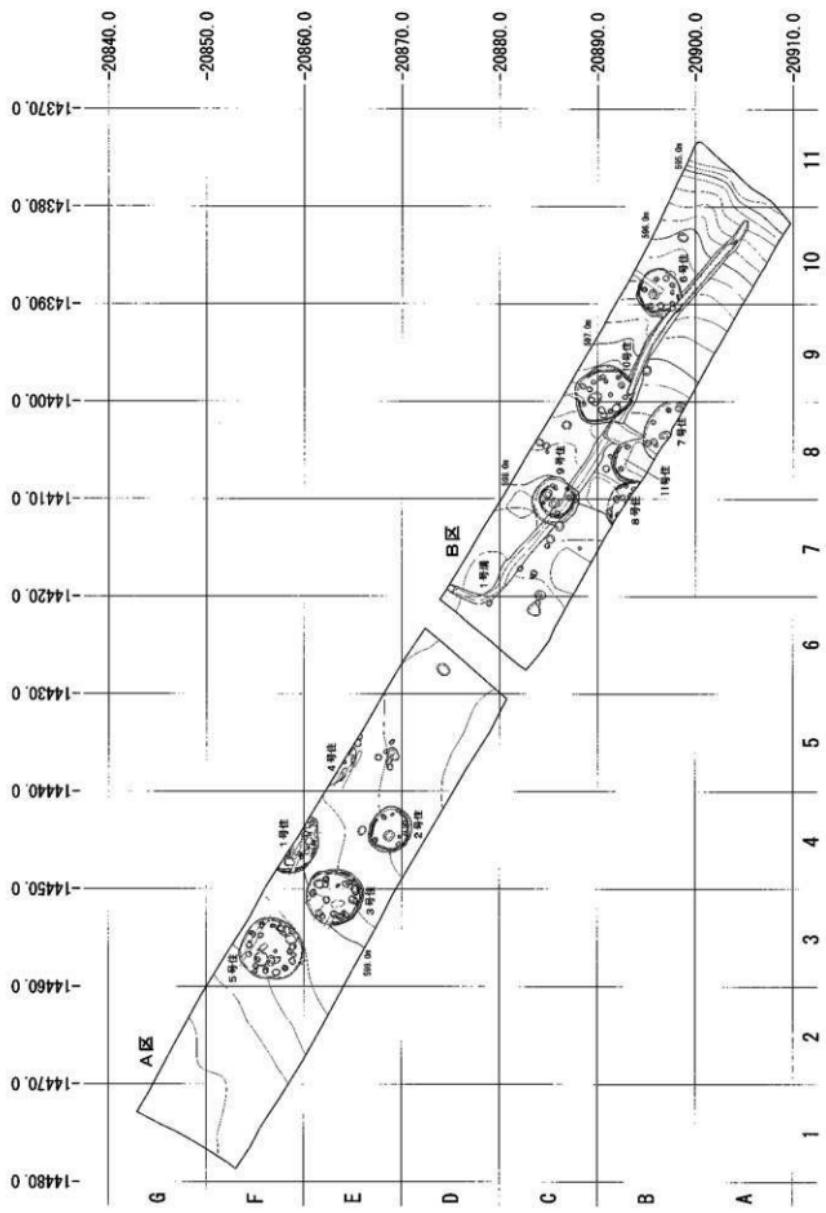


第2図 大久保遺跡周辺の地形



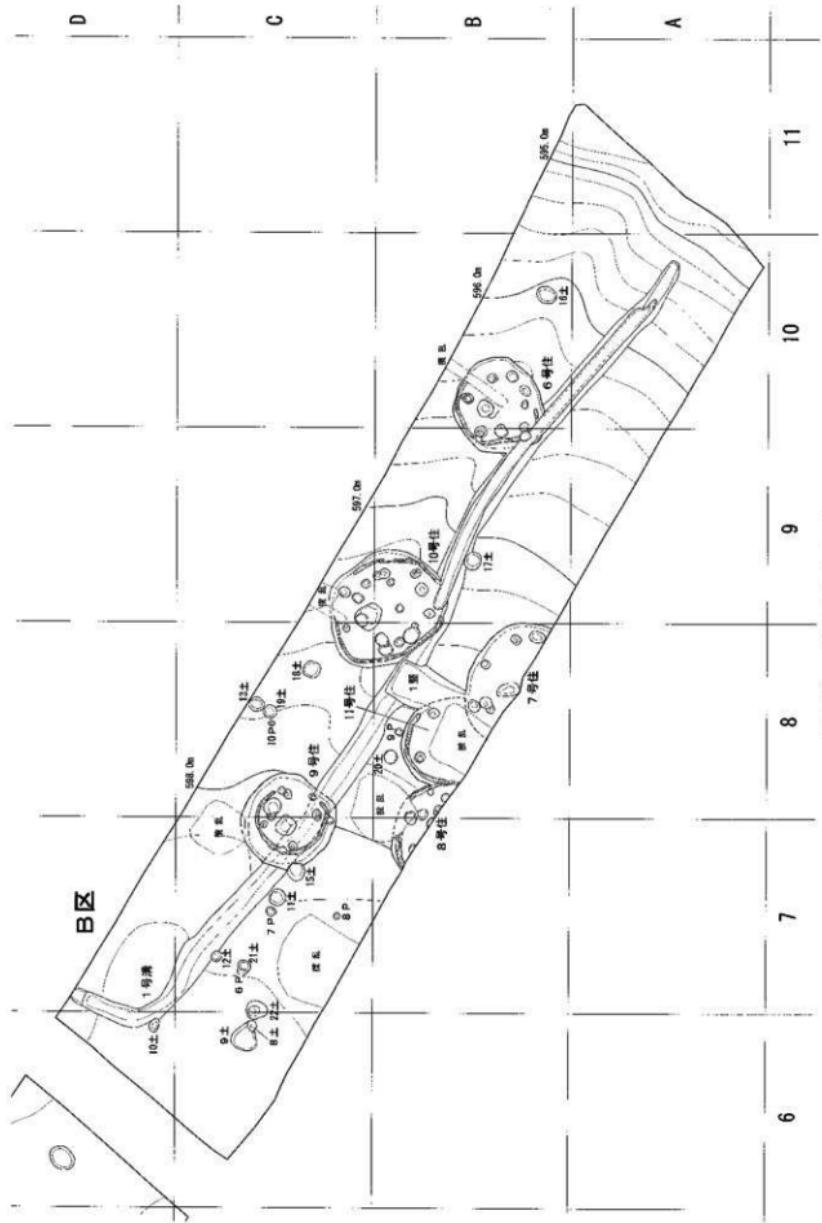
第3図 調査区位置図 (1/2,500)

第4图 测量区全休网 (1/500)

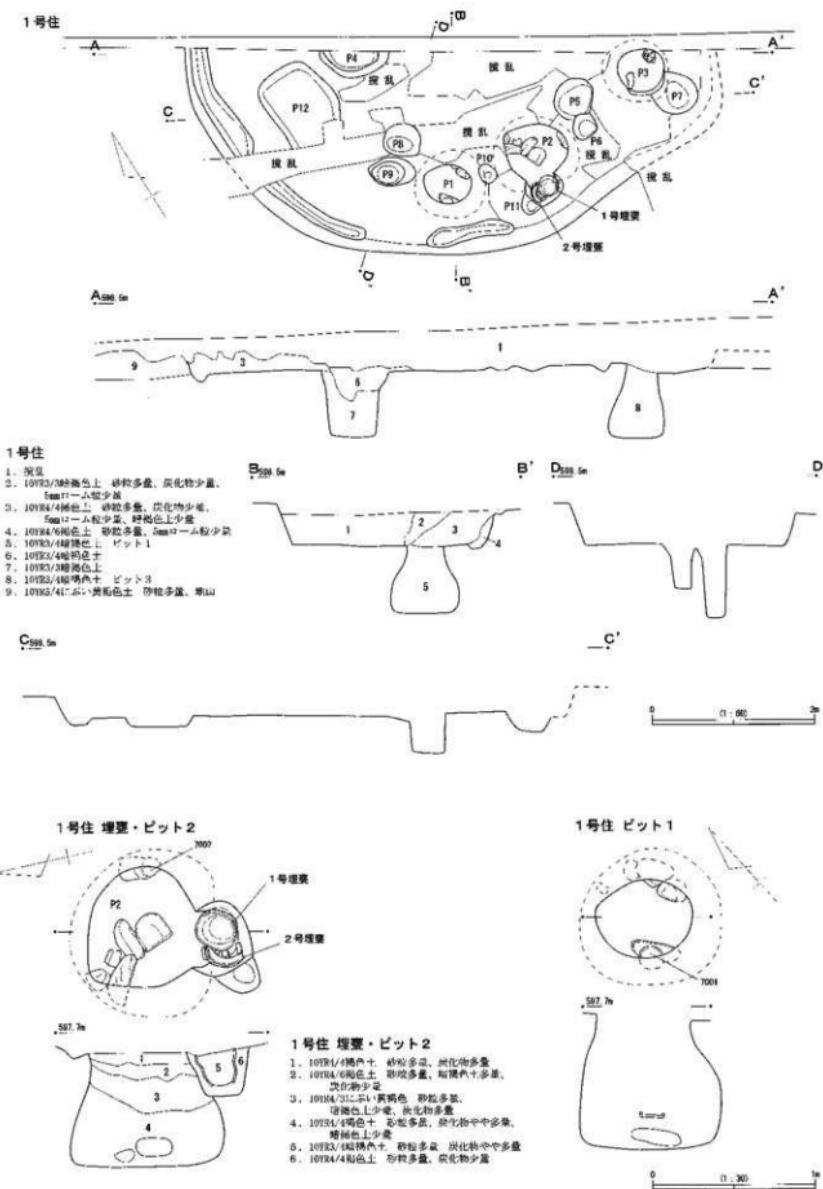




第5圖 A區全體圖 (1/250)

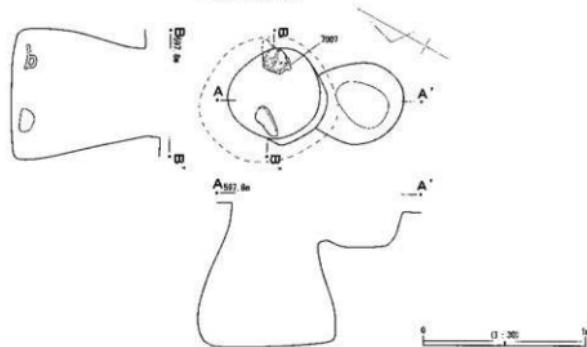


第6回 B区全体凶 (1/250)

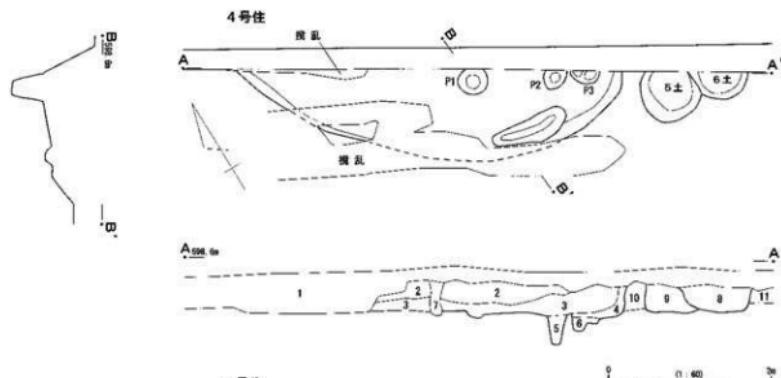


第7図 1号住居跡

1号住 ピット3



4号住



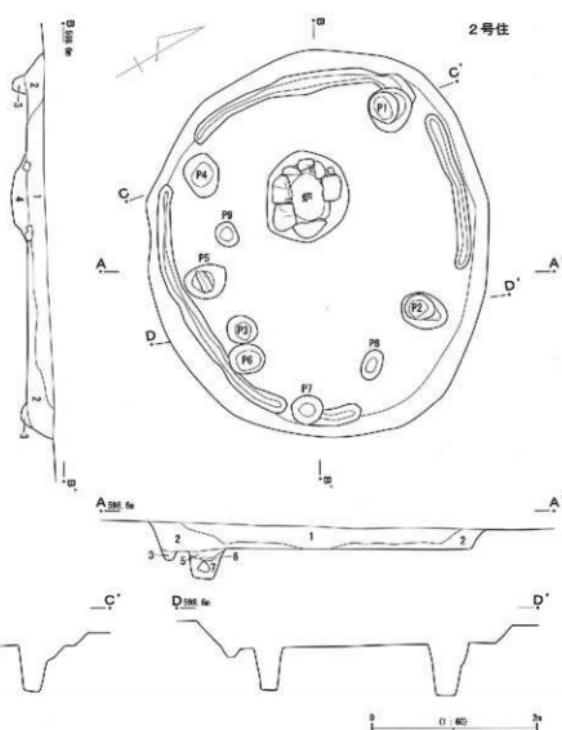
4号住

1. 砂地
2. 10Y24/4海色土、可塑性土や多量、砂泥や中多量、黄褐色や少量
3. 10Y31/6褐色土、砂泥や少量、粘粒多量、黄褐色土や中多量
4. 10Y41/6褐色土、砂泥多量、黄褐色土や中多量
5. 10Y32/4褐色土上 ピット2
6. 10Y41/6褐色土 ピット3
7. 10Y41/6褐色土 砂泥土や中多量、根の腐葉
8. 10Y41/6褐色土 中多量、砂泥土や中多量、粘粒土上少量、砂泥多量、炭化物少量
9. 10Y32/3褐色土 砂泥土少量、砂泥多量、炭化物や中多量
10. 10Y32/1に亘る、炭化物や中多量、砂泥多量、塊状
11. 10Y32/4L5A1 黄褐色土 上 砂泥多量、塊状

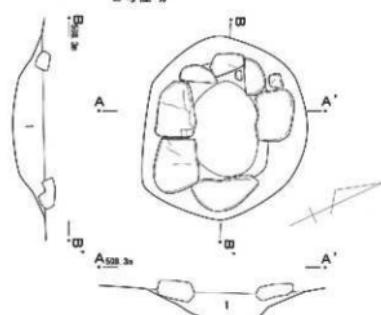
第8図 1号住ピット3、4号住居跡

2号住

1. 10YR4/4褐色土上 塗色土少量、炭化物少量、砂粒多量。Ima:黄褐色土少量
2. 10YR4/3(2.5)5.5褐色土 砂粒多量、特徴色土少量、Ima:黄褐色土少量
3. 10YR5/5黄褐色土 地山
4. 10YR4/5褐色土 上砂粒多量、炭化物やや多量、塗色土少量
5. 10YR4/5褐色土 砂粒多量、炭化物少量、Ima:黄褐色土少量
6. 10YR5/5黄褐色土 彩粒多量、褐色土やや多量
7. 10YR4/5褐色土 砂粒多量、Ima:ーム粒少量



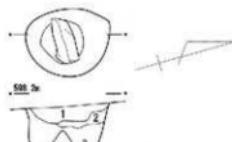
2号住 炉



2号住 炉

1. 10YR4/4褐色土 砂粒多量、炭化物やや多量、褐色土少量

2号住 ピット5

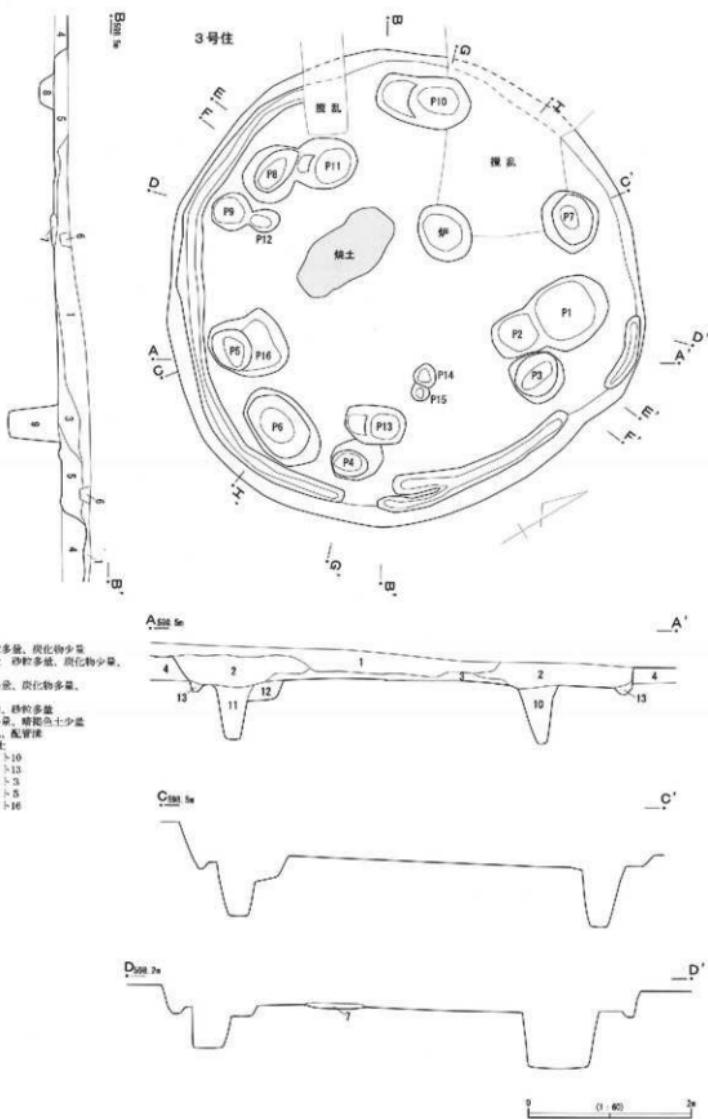


2号住 ピット5

1. 10YR4/4褐色土 砂粒多量、炭化物少量、Ima:ーム粒少量
2. 10YR5/6黄褐色土 砂粒多量、褐色土やや多量
3. 10YR4/6褐色土 砂粒多量、Ima:ーム粒少量



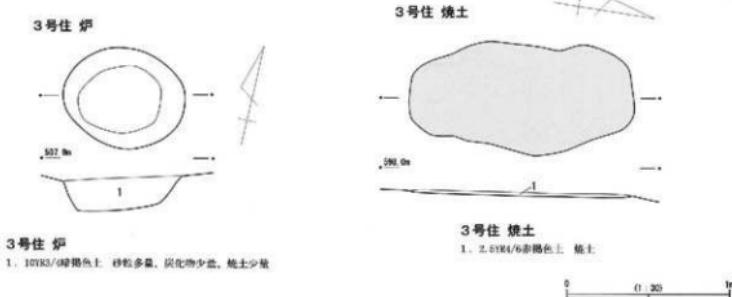
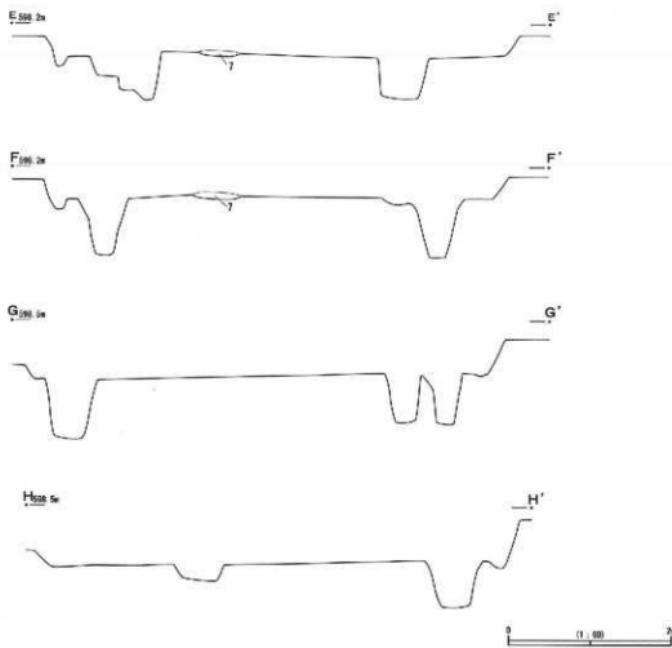
第9図 2号住居跡



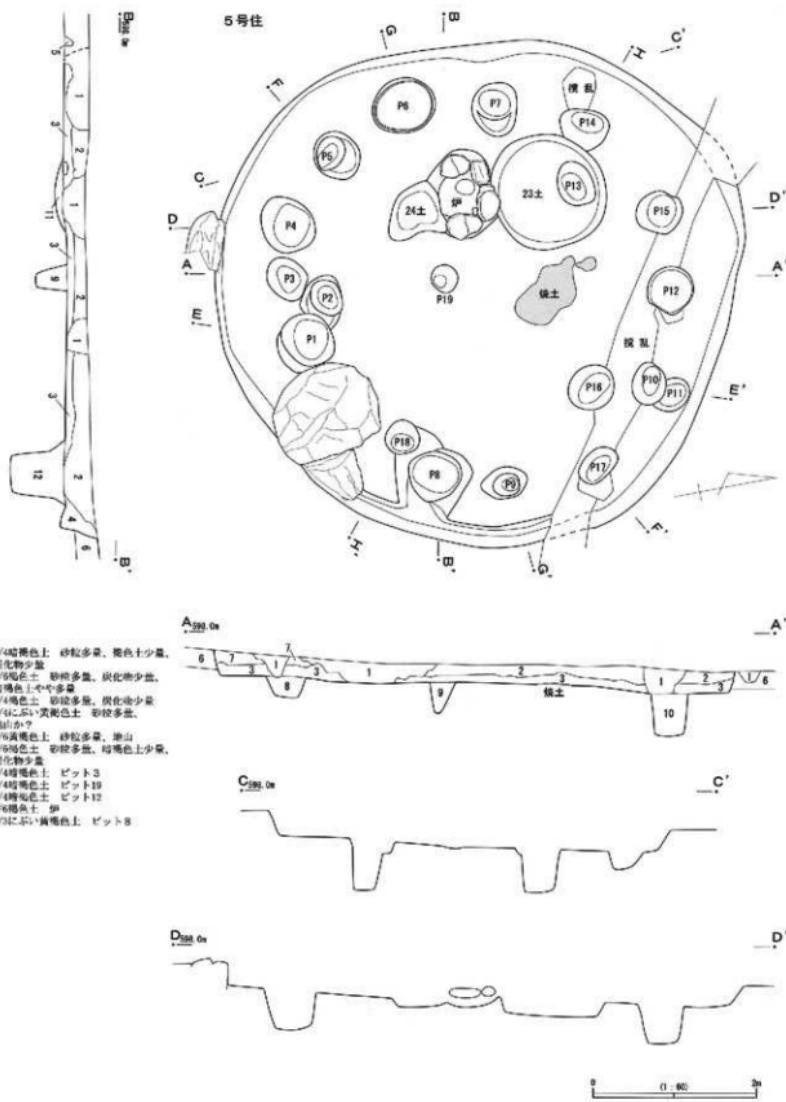
3号住

1. 10YR2/4褐色褐色土 砂粒多量、炭化物少量
2. 10YR2/21.5-24.5褐色褐色土 砂粒多量、炭化物少量
3. 10YR2/4褐色褐色土 沙泥多量、炭化物多量。
4. 10YR2/4褐色褐色土 地上、砂粒多量
5. 10YR1/8褐色褐色土 砂粒多量、褐色褐色土少量
6. 10YR2/3褐色褐色土 褐色、无骨沫
7. 10YR4/6褐色褐色土 地上土
8. 10YR5/0褐色褐色土 ピット10
9. 10YR5/0褐色褐色土 ピット13
10. 10YR5/0褐色褐色土 ピット3
11. 10YR5/4褐色褐色土 ピット5
12. 10YR5/3褐色褐色土 ピット16
13. 10YR5/4褐色褐色土

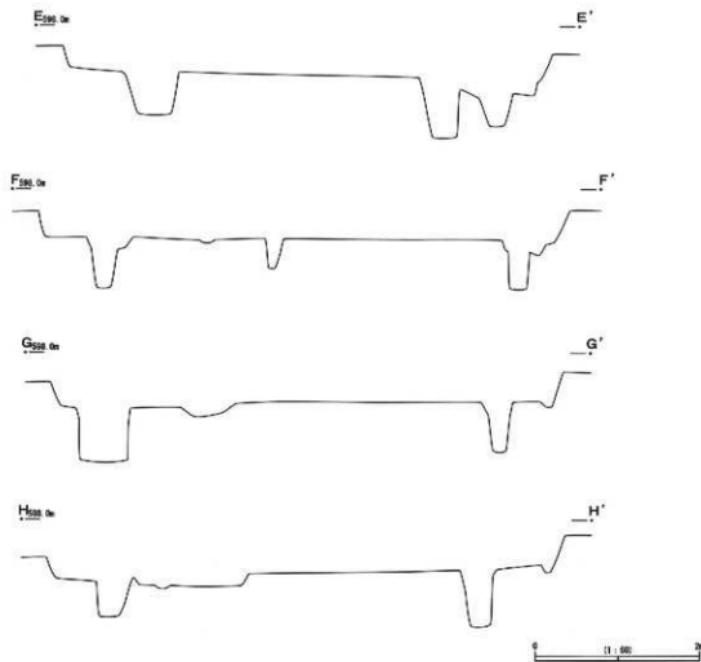
第10図 3号住居跡



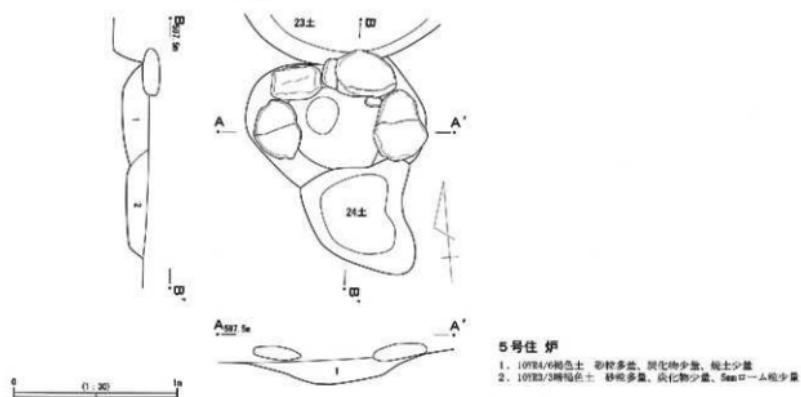
第11図 3号住炉・焼土



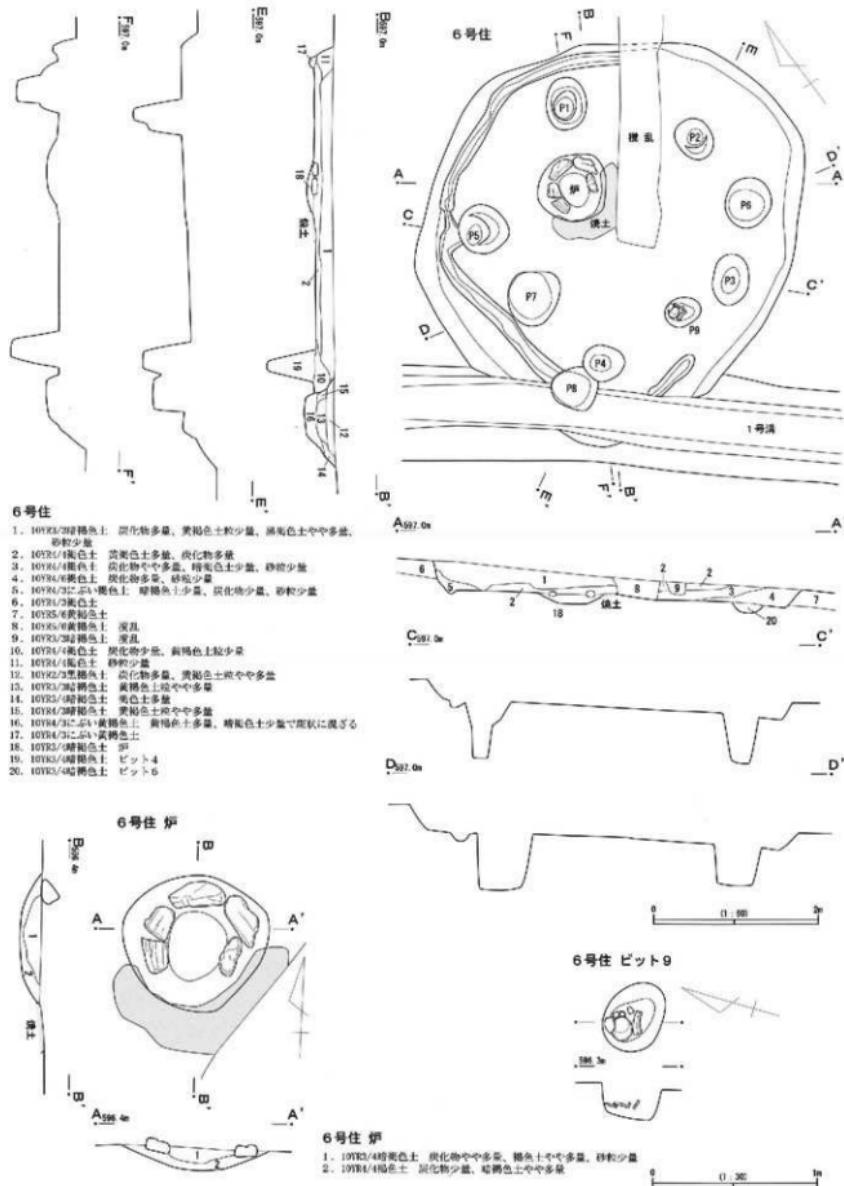
第12図 5号住居跡



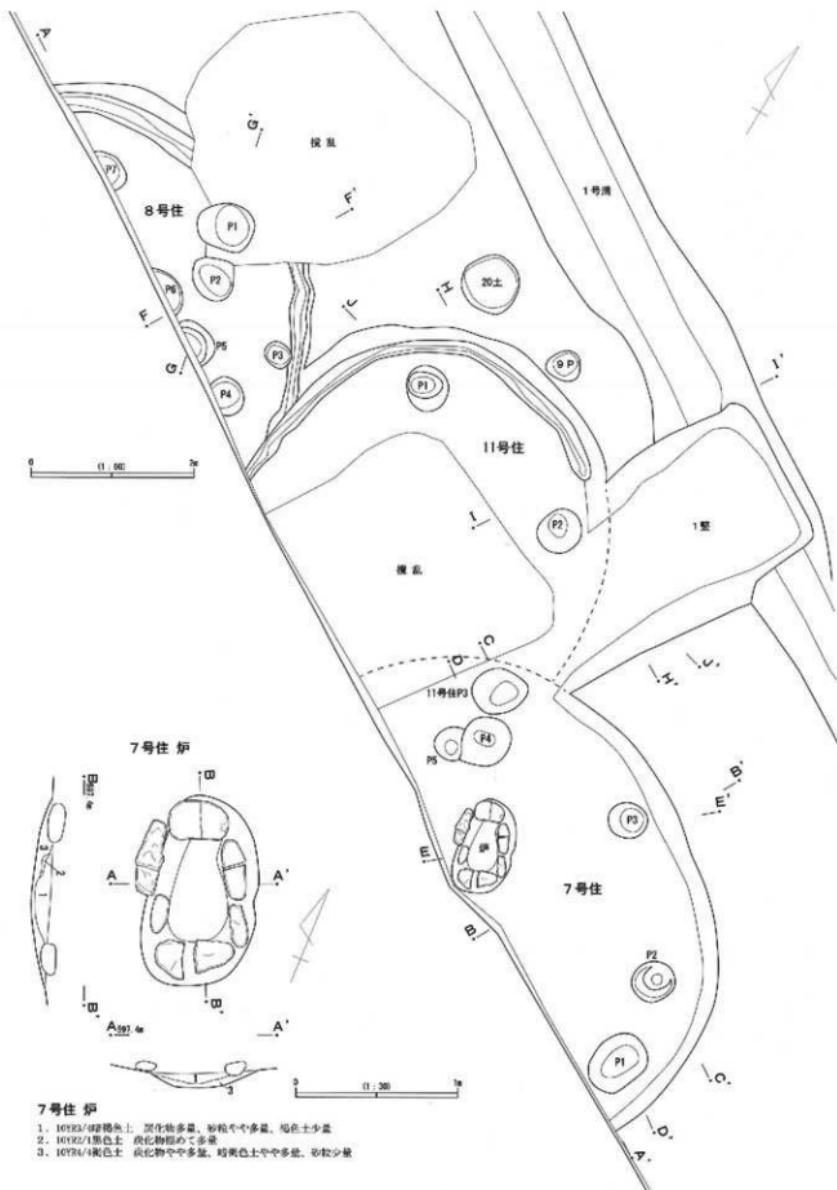
5号住炉



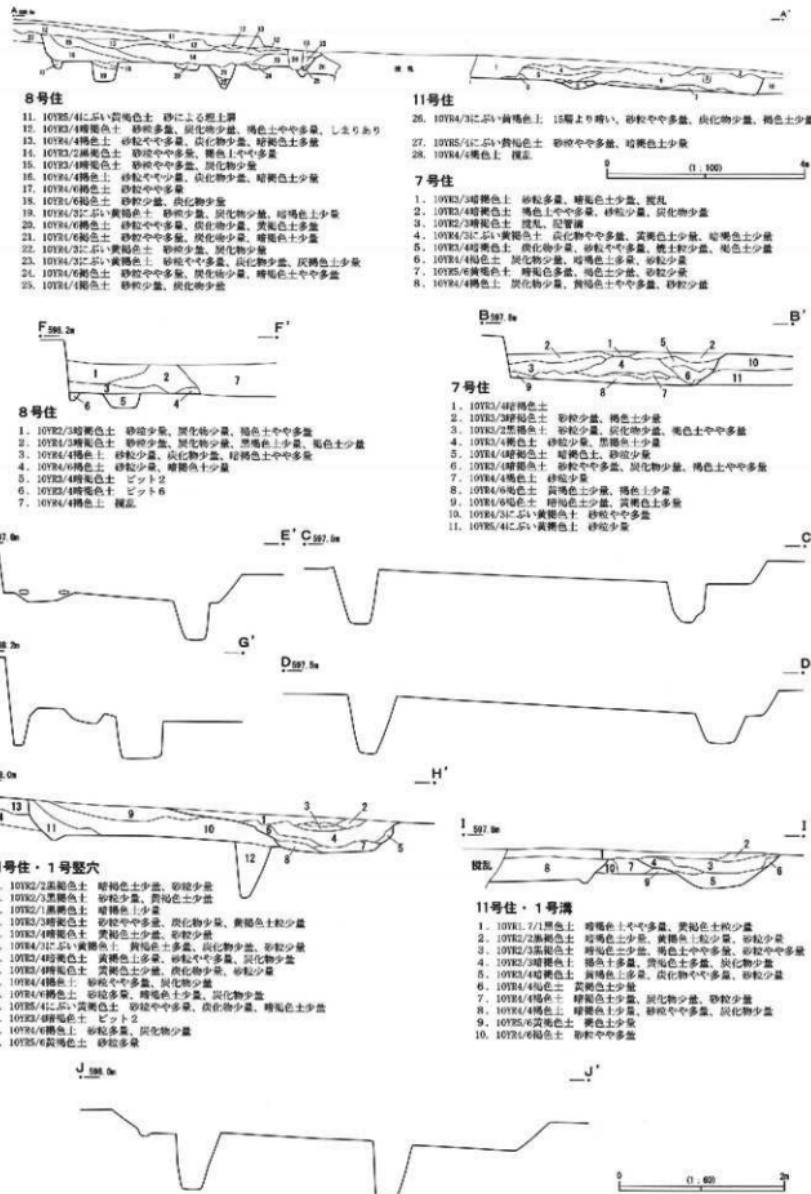
第13図 5号住炉



第14図 6号住居跡



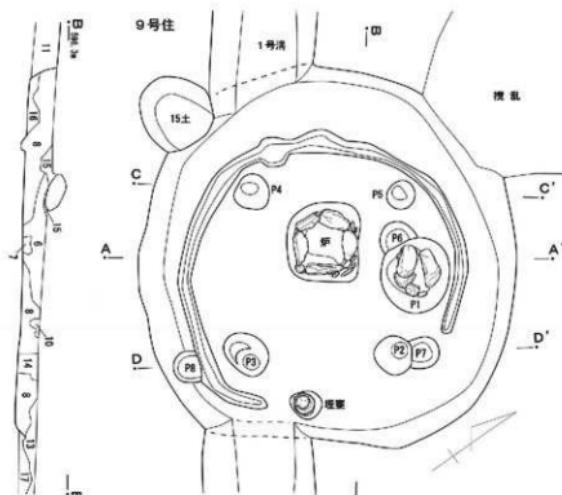
第15図 7・8・11号住居跡



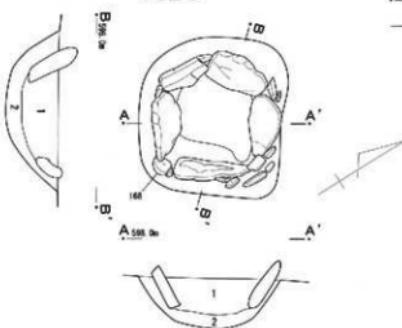
第16図 7・8・11号住居跡②

9号住

1. 10YR2/1黑色土 黑褐色土多量
2. 10YR3/2黑色土 砂粒少量、漂土少量
3. 10YR3/4褐色褐色土 砂粒少量、漂土少量、炭化物少量
4. 10YR2/4褐色土 黑褐色土多量、漂土少量、炭化物少量、暗褐色土少量
5. 10YR4/5褐色土 砂粒少量、漂土少量、暗褐色土少量
6. 10YR3/4褐色土 砂粒中等量、炭化物少量、漂土少量
7. 10YR4/5褐色土 黑褐色土少量、漂土中等量、炭化物少量、暗褐色土少量
8. 10YR4/6褐色土 黑褐色土中等量、漂土少量、暗褐色土少量
9. 10YR4/6褐色土 砂粒中等量、漂土少量、暗褐色土少量
10. 10YR3/2褐色土 漂土
11. 10YR4/5褐色褐色土 砂粒多量、漂土
12. 10YR4/5褐色褐色土 黑褐色土中等量、漂土
13. 10YR2/6褐色褐色土 砂粒少量、漂土多量、黑褐色土少量
14. 10YR2/6褐色褐色土 黑褐色土多量、漂土
15. 10YR2/6褐色褐色土 黑褐色土中等量、炭化物少量
16. 10YR2/6褐色褐色土 黑褐色土少量
17. 10YR4/5褐色褐色土 砂粒少量、漂土
18. 10YR2/6褐色褐色土 黑褐色土中等量、漂土少量、炭化物少量、漂土少量
19. 10YR4/6褐色土 砂粒少量、炭化物中等量、暗褐色土少量
20. 10YR4/6褐色土 砂粒中等量、炭化物少量
21. 10YR4/6褐色土 砂粒多量、漂土少量、暗褐色土少量
22. 10YR4/6褐色土 黑褐色土 中等量多量、漂土少量



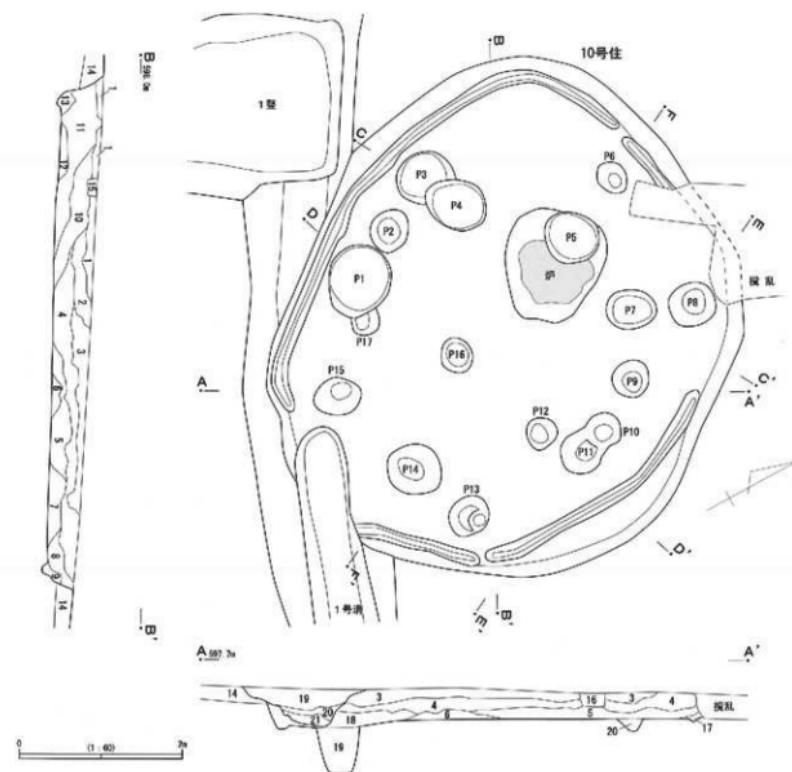
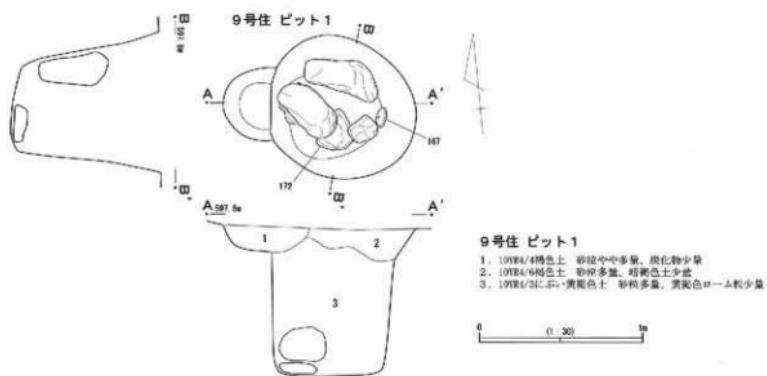
9号住 炉



9号住 焚

1. 10YR3/4褐色褐色土 黑褐色土中等量、炭化物少量、漂土少量
2. 10YR4/6褐色土 砂粒少量、炭化物中等量、暗褐色土少量

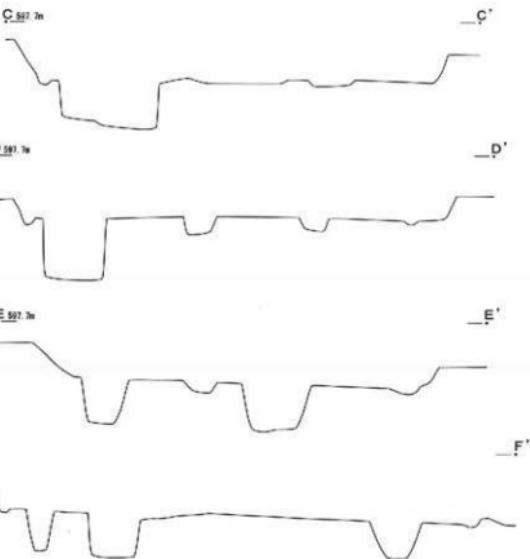
第17図 9号住居跡



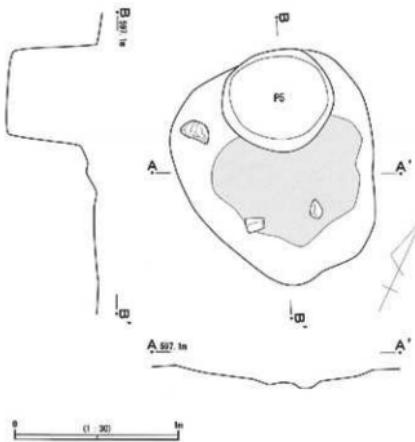
第18図 9号住ピット1、10号住居跡

10号住

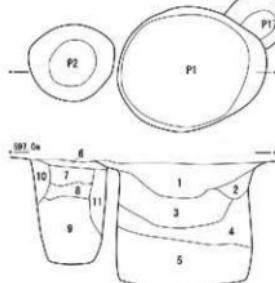
- 10T4/4褐色土 嫩褐色土多量、炭化物少量、
2. 10T5/3暗褐色土 嫩褐色土少量、黑褐色土少量、
炭化物少量
3. 10T6/4暗褐色土 嫩褐色土や多量、
4. 10T6/5暗褐色土 嫩褐色土少量、炭化物やや多量、
鐵物少量
5. 10T6/6暗褐色土 炭化物やや多量、
鐵物少量
6. 10T6/7褐色土 嫩褐色土少量
7. 10T6/8黑色土 灰褐色土やや多量、
炭化物少量
8. 10T6/9褐色土 黑褐色土少量、黃褐色土少量、
炭化物少量
9. 10T6/10-11褐色土 黑褐色土やや多量、
鐵物少量
10. 10T6/12褐色土 黑褐色土多量、鐵物少量、
炭化物やや多量
11. 10T6/13褐色土 黑褐色土多量、鐵物少量、
炭化物やや多量
12. 10T6/14黑色土 灰褐色土多量、炭化物多量、
鐵物少量
13. 10T6/15褐色土 灰褐色土少量、
黑褐色土やや多量、鐵物少量
14. 10T6/16褐色土 嫩褐色土少量
15. 10T6/17褐色土 灰褐色土やや多量、鐵物
16. 10T6/18褐色土 鐵物
17. 10T6/19褐色土 嫩褐色土やや多量、
鐵物少量
18. 10T6/20褐色土 嫩褐色土やや多量、
鐵物少量
19. 10T6/21褐色土 嫩褐色土少量、鐵物少量
20. 10T6/22褐色土 鐵物少量
21. 10T6/23褐色土 黑褐色土、
鐵物土やや少量、炭化物少量



10号住 炉



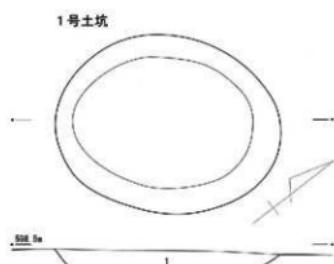
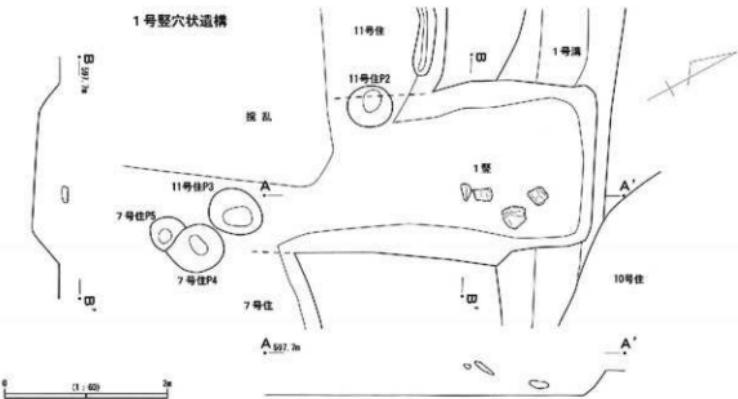
10号住 ピット1・2



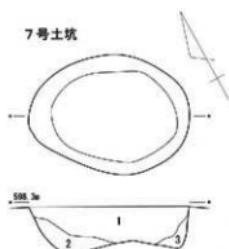
10号住 ピット1・2

1. 10T3/3褐色土 嫩褐色土少量、炭化物やや多量、鐵物少量
2. 10T3/3褐色土 嫩褐色土少量、炭化物少量
3. 10T4/6褐色土 素化物少量、黃褐色土鉢やや多量
4. 10T4/4褐色土 素化物少量
5. 10T4/5褐色土 素化物やや多量、嫩褐色土少量
6. 10T6/2/3褐色土 素化物やや多量、鐵物少量
7. 10T6/3褐色土 素化物少量、鐵物少量
8. 10T6/7褐色土 素化物少量、黃褐色土鉢少量
9. 10T6/2/3褐色土 素化物多量、嫩褐色土やや多量
10. 10T6/6褐色土 素化物多量、嫩褐色土鉢やや多量
11. 10T6/31-32褐色土 素化物少量、黃褐色土鉢少量

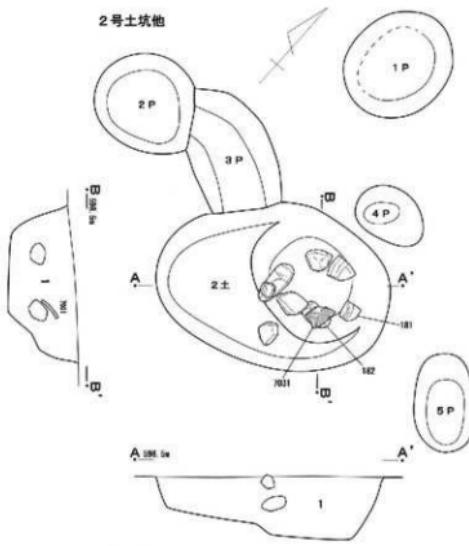
第19図 10号住炉・ピット1・2



1号土坑
1. 10YR4/4褐色土 砂粒多量、炭化物少些、ややしまりなし



7号土坑
1. 10YR4/4褐色土 砂粒多量、炭化物少些、褐色土少些
2. 10YR4/6褐色土 砂粒多量、炭化物少些
3. 10YR5/6黄褐色土

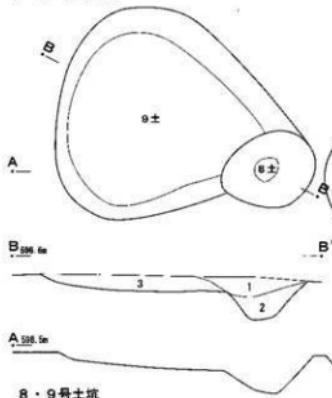


2号土坑
1. 10YR4/4褐色土 砂粒多量、炭化物少些、黄褐色土少些、ややしまりあり
2. 10YR4/6褐色土 砂粒多量、炭化物少些
3. 10YR5/6黄褐色土



第20図 1号堅穴状遺構、1・2・7号土坑

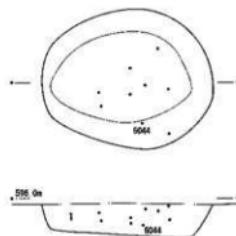
8・9・22号土坑



8・9号土坑

1. 10783/3褐色台土 砂粒中多量、炭化物少量
2. 10784/1褐色土 砂粒中多量、炭化物少量
3. 10783/4砂粒多量 炭化物少量、黑色土中多量

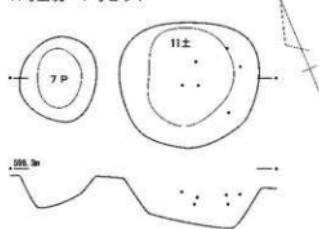
16号土坑



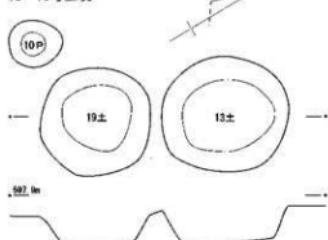
16号土坑

1. 10783/4褐色台土 黑褐色土中多量、黄色土中多量、砂粒中多量

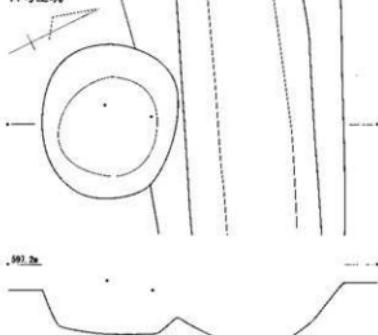
11号土坑・7号ビット



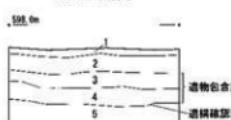
13・19号土坑



17号土坑



A区基本層序



A区基本層序（西壁）

1. 10783/2灰褐色台土 黑土
2. 10783/3褐色土 黑褐色土中多量、砂粒多量、炭化物少量、耕作土
3. 10783/2褐色台土 黑褐色土中多量、炭化物少量、褐色土少量
4. 10784/1褐色土 砂粒多量、棕褐色土少量
5. 10783/4黃褐色土 砂粒多量、褐色土少量、地山

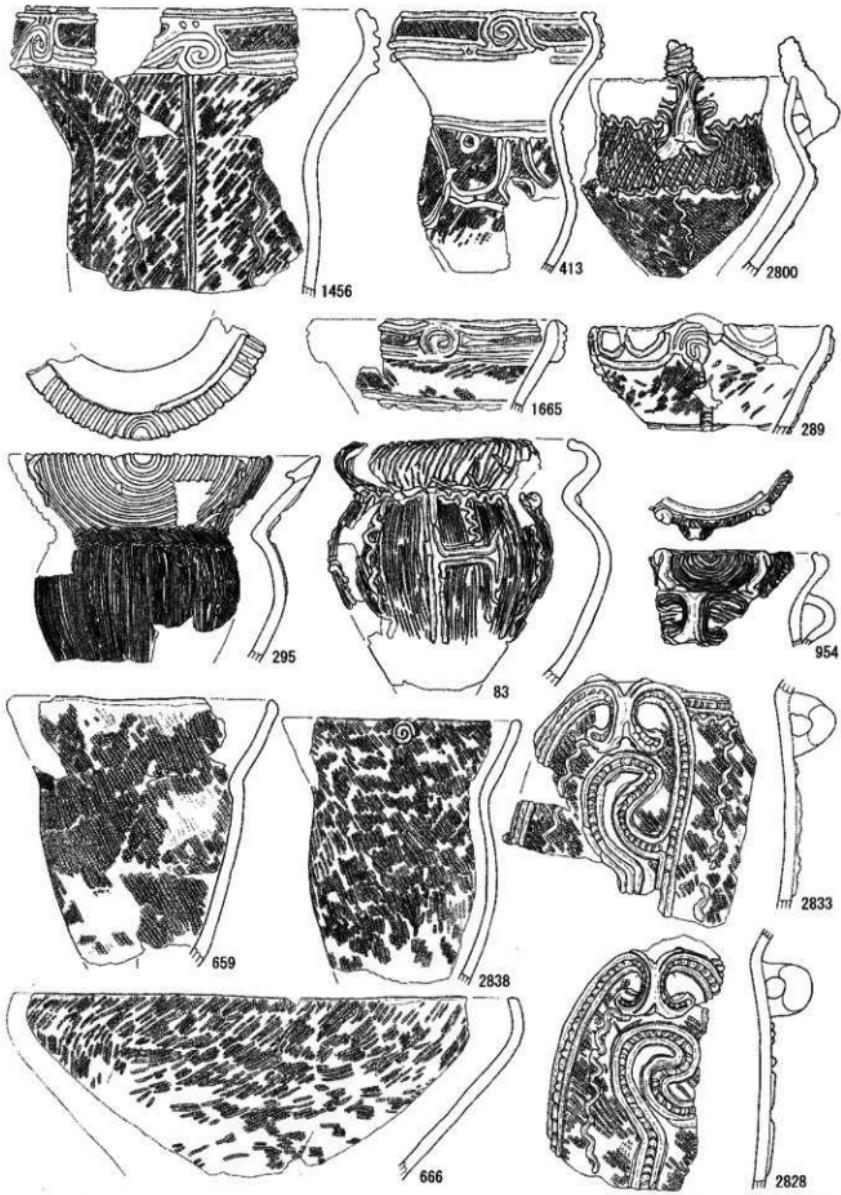
第21図 8・9・11・13・16・17・19・22号土坑、A区基本層序

第2表 士坑・ピット・住居内ピット・観察表

遺構名	先端 (cm)	后端 (cm)	深さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備考
1号土坑	138.0	107.4	8.7	鰐文土器		
2号土坑	187.7	100.5	43.2	鰐文土器・石器		
3号土坑	77.7	(61.6)	8.4	鰐文土器		
4号土坑	72.7	(32.3)	10.8			
5号土坑	96.5	72.0	25.0	鰐文土器・石器		
6号土坑	60.9	41.6	14.4			
7号土坑	153.7	129.7	16.9			
8号土坑	71.7	49.2	29.3			
9号土坑	84.0	80.0	25.1	鰐文土器		
10号土坑	53.5	49.9	13.6			
11号土坑	78.2	69.8	20.4			
12号土坑	92.0	97.0	17.0	鰐文土器		
13号土坑	102.2	83.3	25.0	鰐文土器・石器		
14号土坑	95.7	81.7	15.0	鰐文土器		
15号土坑	84.2	(82.2)	11.6			
16号土坑	65.8	64.8	17.0			
17号土坑	71.8	68.9	41.2	鰐文土器		
18号土坑	65.7	(49.9)	15.5			
19号土坑	106.4	91.1	25.5			
20号土坑	142.1	140.7	15.2			
21号土坑	81.4	71.9	10.2			
1号ピット	64.6	58.0	9.7			
2号ピット	68.0	57.4	11.2			
3号ピット	(60.3)	49.8	11.5			
4号ピット	46.4	31.5	14.9			
5号ピット	60.2	36.7	13.2			
6号ピット	(30.7)	48.1	15.3			
7号ピット	51.6	45.3	15.9			
8号ピット	35.6	33.0	11.7			
9号ピット	40.7	35.5	37.3			
10号ピット	32.3	27.6	19.6			
※3・4・14号七軒に掘削したため欠番						
遺構名	先端 (cm)	后端 (cm)	深さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備考
1号住居	ピット 1	58.2	48.9	80.9	フラスコ状ピット	
	ピット 2	73.2	63.4	69.2	フラスコ状ピット	
	ピット 3	51.9	49.5	90.3	フラスコ状ピット	
	ピット 4	83.3	(31.6)	72.8	土柱穴?	
	ピット 5	48.1	35.6	29.6	半柱穴	
	ピット 6	32.1	27.7	35.3		
	ピット 7	(51.1)	48.2	18.7		
	ピット 8	46.0	39.2	55.2		
	ピット 9	57.7	33.9	84.6	半柱穴	
	ピット 10	24.4	17.3	15.1		
2号住居	ピット 11	25.2	(16.0)	16.4		
	ピット 12	100.9	79.3	13.9		
	ピット 1	88.0	82.7	55.7	半柱穴	
	ピット 2	57.1	43.0	61.0	半柱穴	
	ピット 3	37.2	34.7	34.6	上柱穴	
	ピット 4	52.0	40.8	48.8	上柱穴	
	ピット 5	43.5	30.3	33.8	半柱穴?	
	ピット 6	42.6	37.3	8.2		
	ピット 7	36.7	38.6	21.1	櫛櫛櫛設か?	
	ピット 8	38.2	23.3	13.5		
3号住居	ピット 9	31.2	25.7	9.1		
	ピット 1	(95.9)	82.5	68.4	斤柱穴?	
	ピット 2	(67.4)	53.9	43.2	主柱穴(古)	
	ピット 3	61.4	64.1	69.5	半柱穴	
	ピット 4	61.6	32.1	61.0	半柱穴	
	ピット 5	52.9	42.5	64.7	半柱穴	
	ピット 6	112.0	70.5	54.5	斤柱穴?	
	ピット 7	77.1	68.2	72.6	上柱穴	
	ピット 8	79.2	60.9	65.6	半柱穴	
	ピット 9	(48.7)	45.7	49.8		
4号住居	ピット 10	114.1	63.6	75.7	半柱穴	
	ピット 11	(80.4)	63.6	44.6	上柱穴(古)	
	ピット 12	(89.6)	27.8	11.0		
	ピット 13	74.6	49.0	69.3	半柱穴(古)	
	ピット 14	29.9	25.1	12.7		
	ピット 15	23.6	26.8	13.6		
	ピット 16	98.0	81.9	66.2		
	ピット 17	65.5	24.0	65.0	半柱穴	
	ピット 18	56.0	39.9	67.0	上柱穴	
	ピット 19	56.1	48.1	65.7	半柱穴	
遺構名	先端 (cm)	后端 (cm)	深さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備考
5号住居	ピット 1	35.2	38.0	43.9	半柱穴	
	ピット 2	(21.6)	26.2	33.8		
	ピット 3	35.9	(15.9)	17.2		
	ピット 4	68.1	62.2	56.7	柱穴	
	ピット 5	46.2	37.1	39.7	半柱穴	
	ピット 6	50.0	50.8	21.8		
	ピット 7	71.4	62.5	50.7	柱穴	
	ピット 8	57.4	50.7	61.8	上柱穴	
	ピット 9	77.9	66.8	66.2	柱穴	
	ピット 10	65.6	53.2	53.5	主柱穴	
6号住居	ピット 11	62.1	56.9	54.3	柱穴	
	ピット 12	56.8	38.9	57.0	半柱穴	
	ピット 13	92.1	33.2	54.3	柱穴	
	ピット 14	43.3	36.4	16.5		
	ピット 15	56.1	56.1	46.7	柱穴	
	ピット 16	56.9	49.7	71.1	半柱穴	
	ピット 17	57.5	32.9	47.0	柱穴	
	ピット 18	41.2	41.5	65.9	主柱穴	
	ピット 19	31.8	29.3	36.1		
	ピット 20	63.1	44.9	51.2	半柱穴	
7号住居	ピット 1	52.8	41.6	67.1	半柱穴	
	ピット 2	63.0	43.9	57.4	上柱穴	
	ピット 3	46.6	43.6	55.8	半柱穴	
	ピット 4	59.3	55.0	67.2	半柱穴	
	ピット 5	81.5	51.1	65.6		
	ピット 6	67.3	65.5	65.9	剪輪穴?	
	ピット 7	54.1	(53.9)	48.2		
	ピット 8	25.4	31.2	19.0		
	ピット 9	37.6	39.1	31.9		
	ピット 10	30.3	45.6	96.3	上柱穴	
8号住居	ピット 1	65.7	38.2	42.1	半柱穴	
	ピット 2	88.7	54.6	66.8	半柱穴	
	ピット 3	(36.3)	41.3	23.4		
	ピット 4	68.9	88.3	59.1	半柱穴	
	ピット 5	56.1	32.7	17.4		
	ピット 6	34.3	27.9	11.0		
	ピット 7	(32.9)	54.1	6.4		
	ピット 8	60.5	(27.5)	46.9	上柱穴	
	ピット 9	62.4	(20.6)	9.6		
	ピット 10	51.3	(22.0)	39.6	半柱穴	
9号住居	ピット 1	88.2	84.5	85.9	剪輪穴?	
	ピット 2	47.6	38.0	37.2	上柱穴	
	ピット 3	57.2	44.6	47.8	半柱穴	
	ピット 4	43.4	41.3	47.7	半柱穴	
	ピット 5	26.9	30.3	53.0	半柱穴	
	ピット 6	(49.1)	44.9	12.9		
	ピット 7	(42.6)	37.6	13.0		
	ピット 8	(42.2)	36.8	11.6		
	ピット 9	64.4	76.3	73.3	半柱穴(古)	
	ピット 10	50.5	45.5	58.1	半柱穴	
10号住居	ピット 1	(40.1)	66.4	42.8		
	ピット 2	76.0	60.6	58.3	半柱穴(古)	
	ピット 3	64.8	64.4	45.6	半柱穴(古)	
	ピット 4	42.8	33.3	47.0	半柱穴	
	ピット 5	91.7	52.8	7.6		
	ピット 6	59.7	52.0	53.4	半柱穴	
	ピット 7	43.1	42.9	14.4		
	ピット 8	(41.5)	42.1	54.0	上柱穴	
	ピット 9	50.6	50.6	50.8	半柱穴(古)	
	ピット 10	69.1	32.2	14.9		
11号住居	ピット 11	82.3	41.2	48.0	半柱穴	
	ピット 12	68.4	59.1	43.0	上柱穴(古)	
	ピット 13	58.2	45.8	54.0	半柱穴	
	ピット 14	44.0	37.4	20.7		
	ピット 15	32.9	33.2	14.0		
	ピット 16	56.0	48.1	65.7	半柱穴	
	ピット 17	65.6	24.0	65.0	半柱穴	
	ピット 18	56.0	39.9	67.0	上柱穴	
	ピット 19	56.1	48.1	65.7	半柱穴	
	ピット 20	56.5	24.0	65.0	半柱穴	

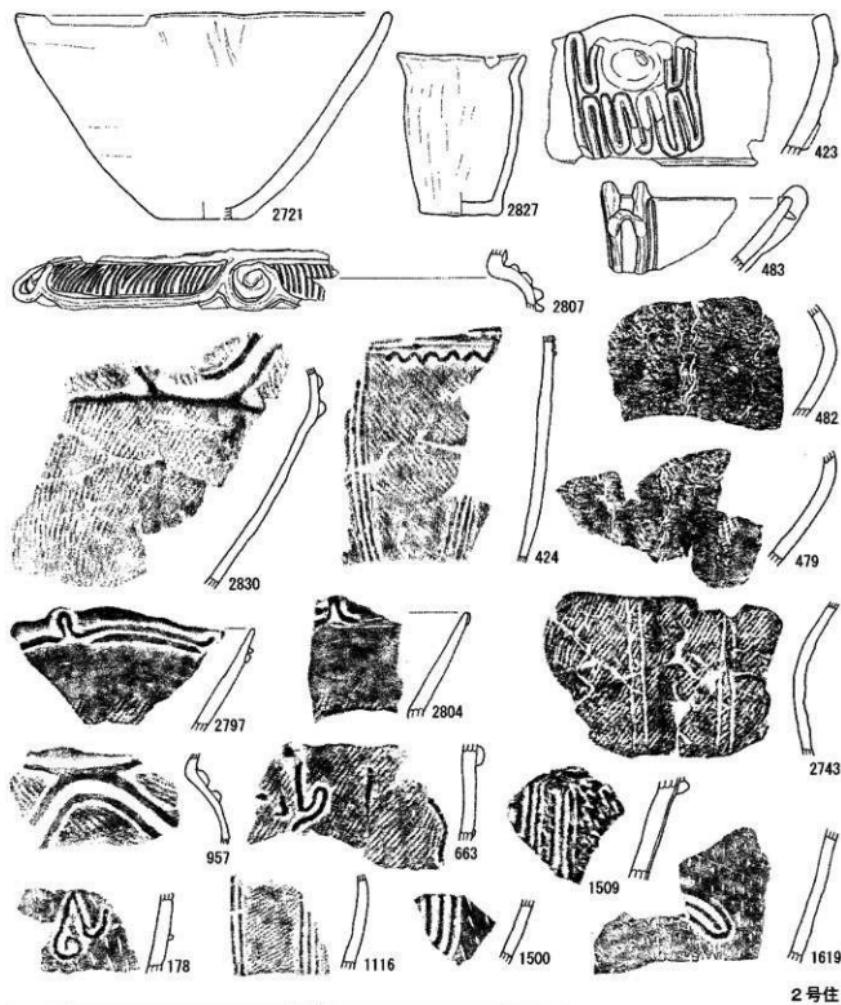


第22図 出土土器 (1号住)



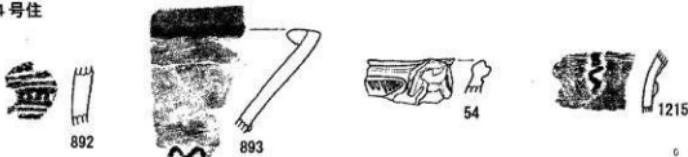
第23図 出土土器（2号件①）

0 1:42 10cm



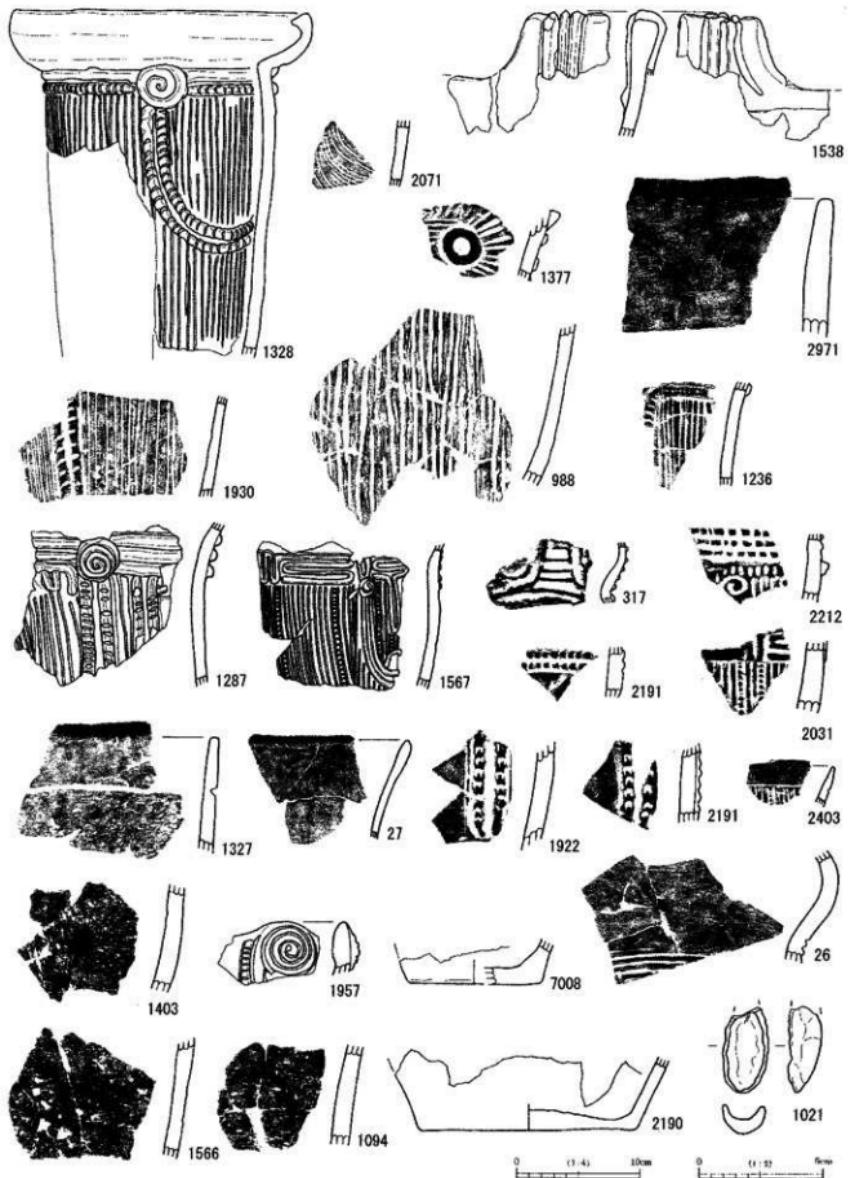
2号住

4号住

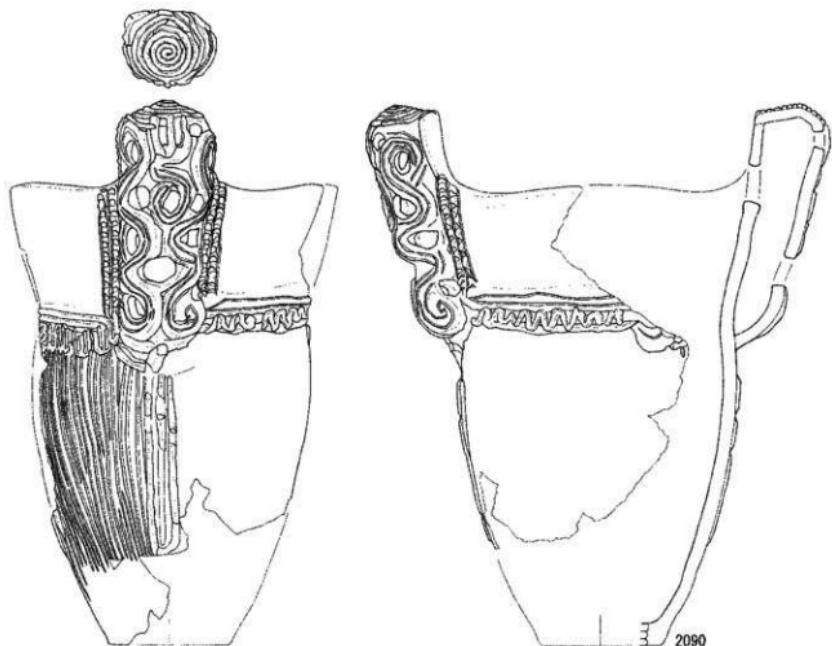


0 (1-4) 10cm

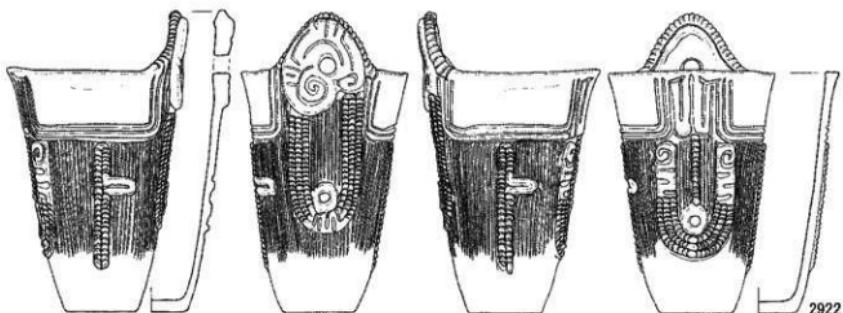
第24図 出土土器（2号住②・4号住）



第25図 出土土器（3号化）



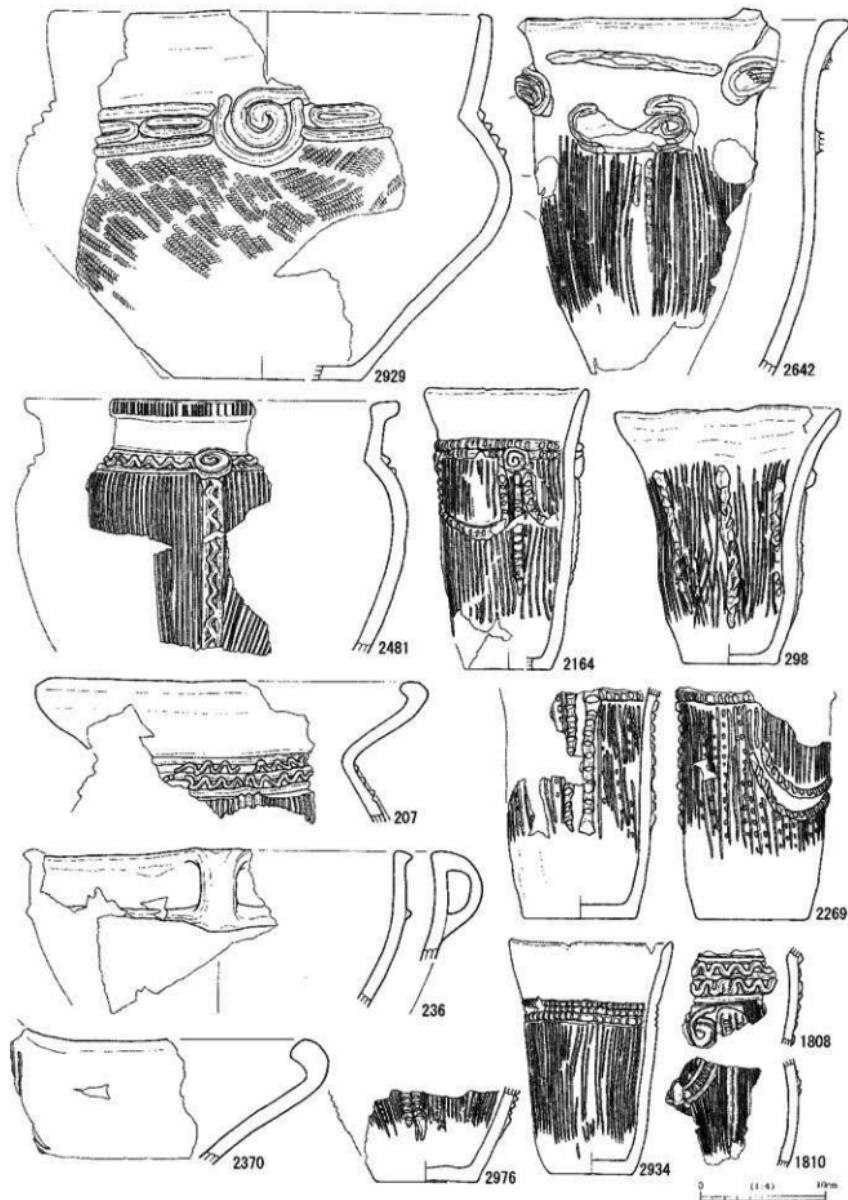
2090



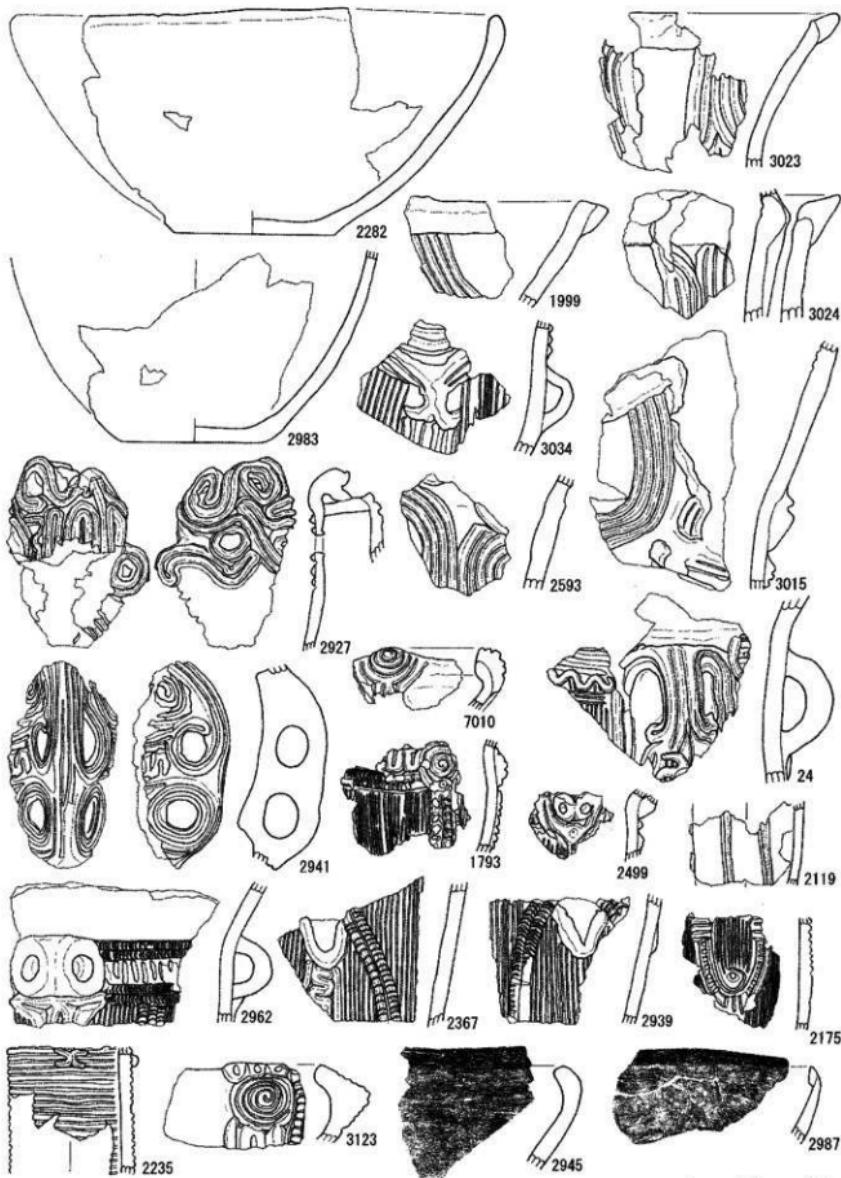
2922



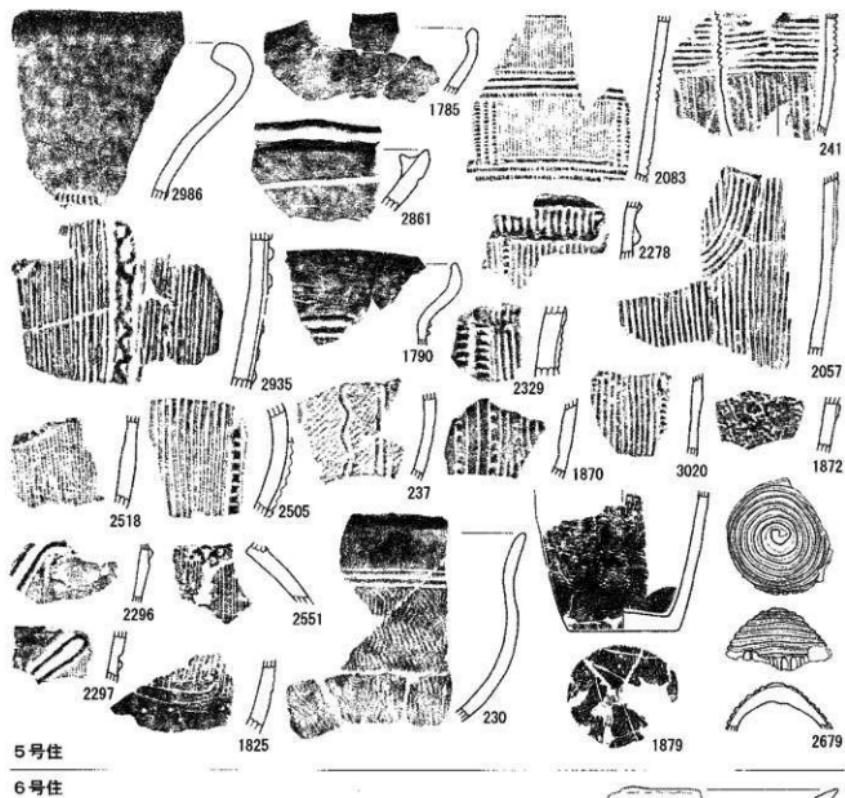
第26図 出土土器（5号住①）



第27圖 出土土器 (5号住②)

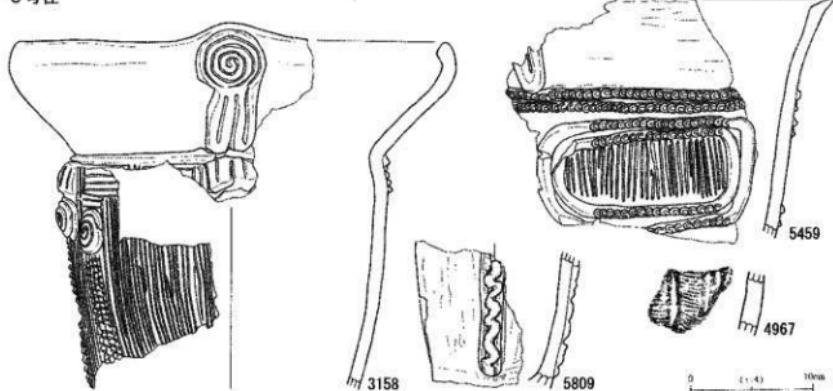


第28図 出土土器（5号住③）

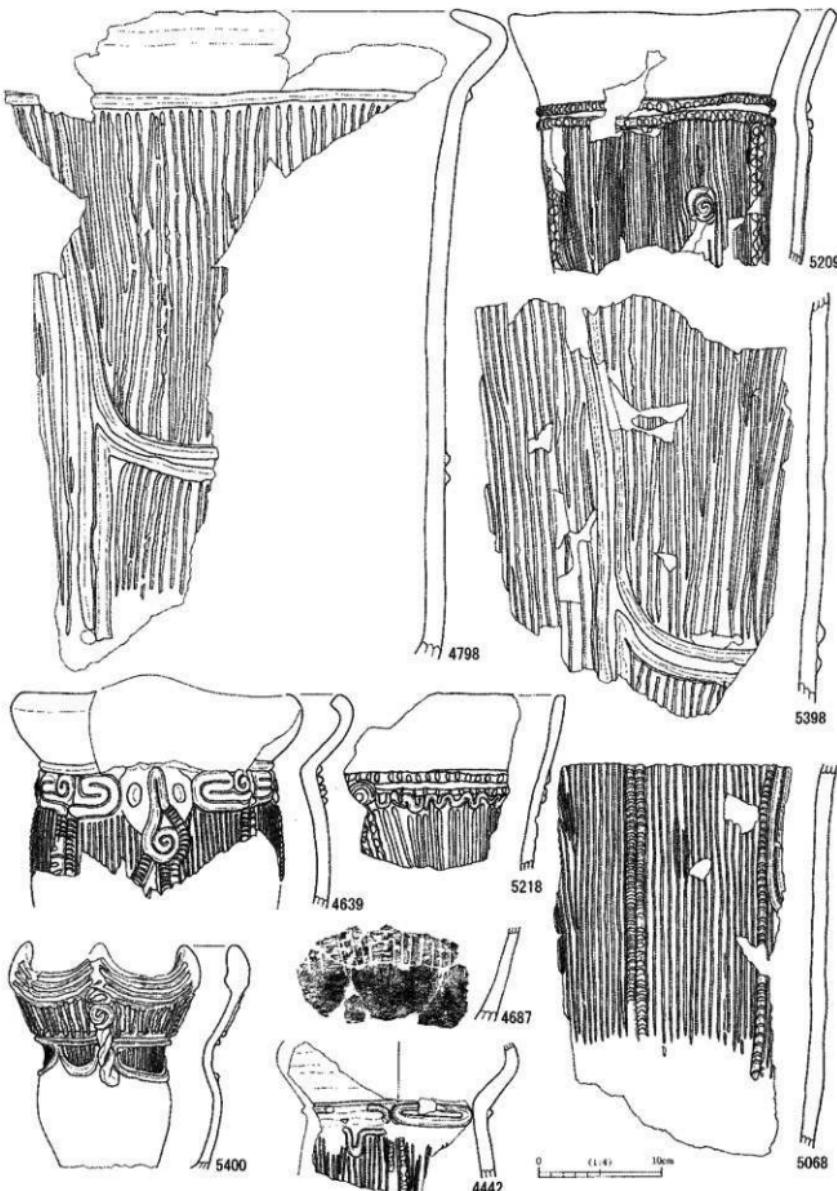


5号住

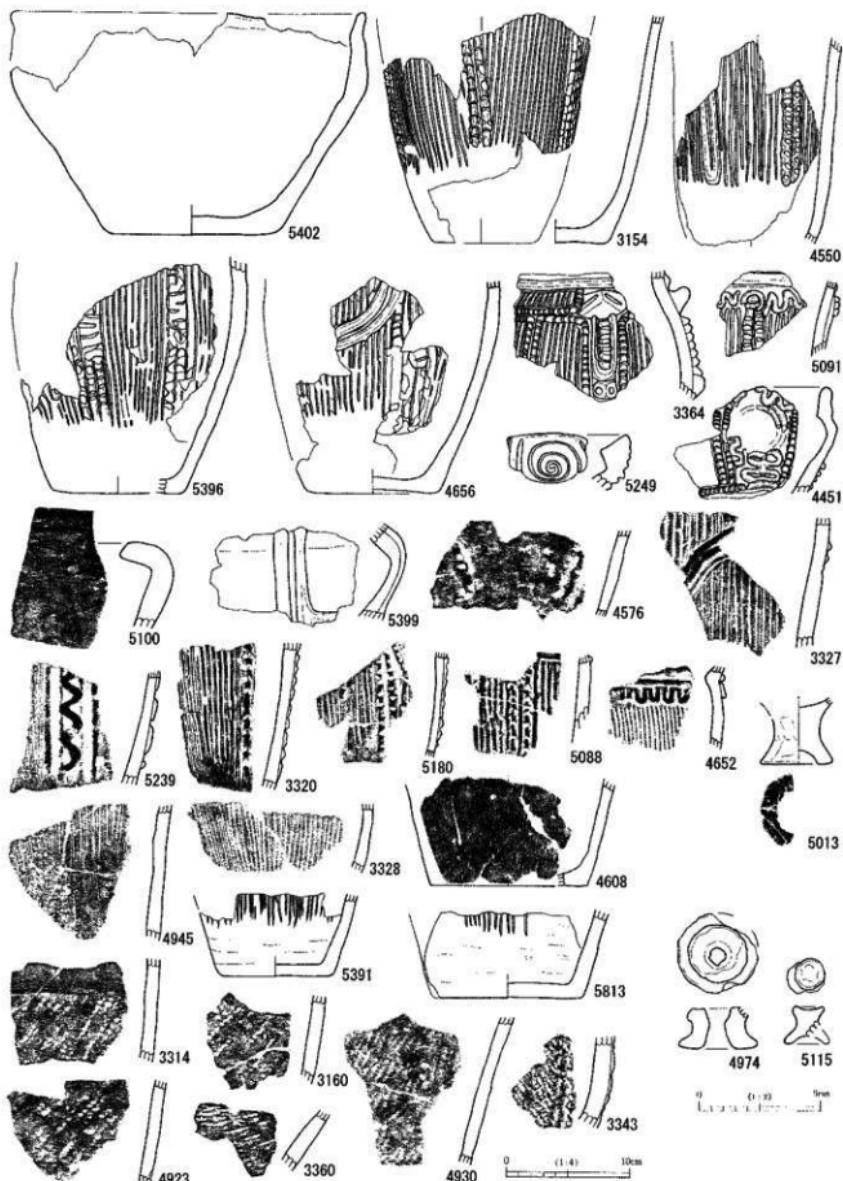
6号住



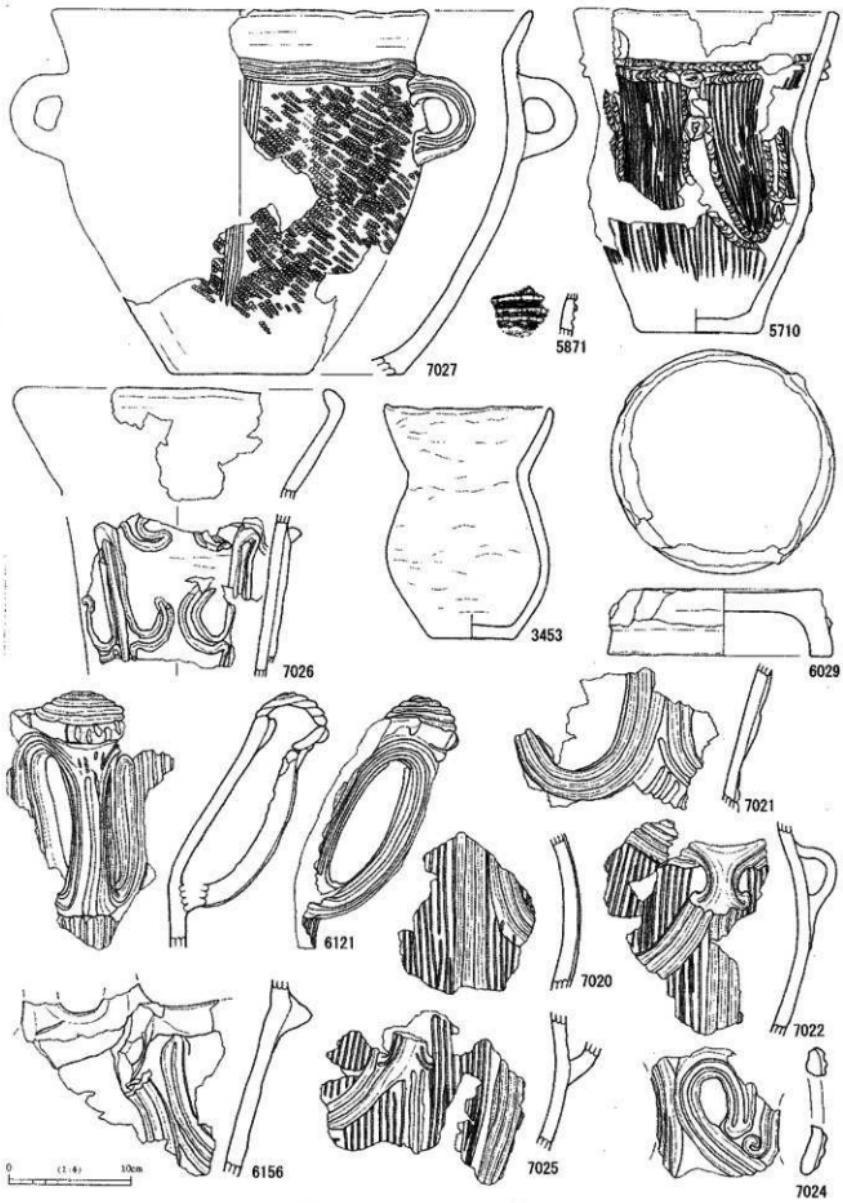
第29図 出出土器（5号住④・6号住①）



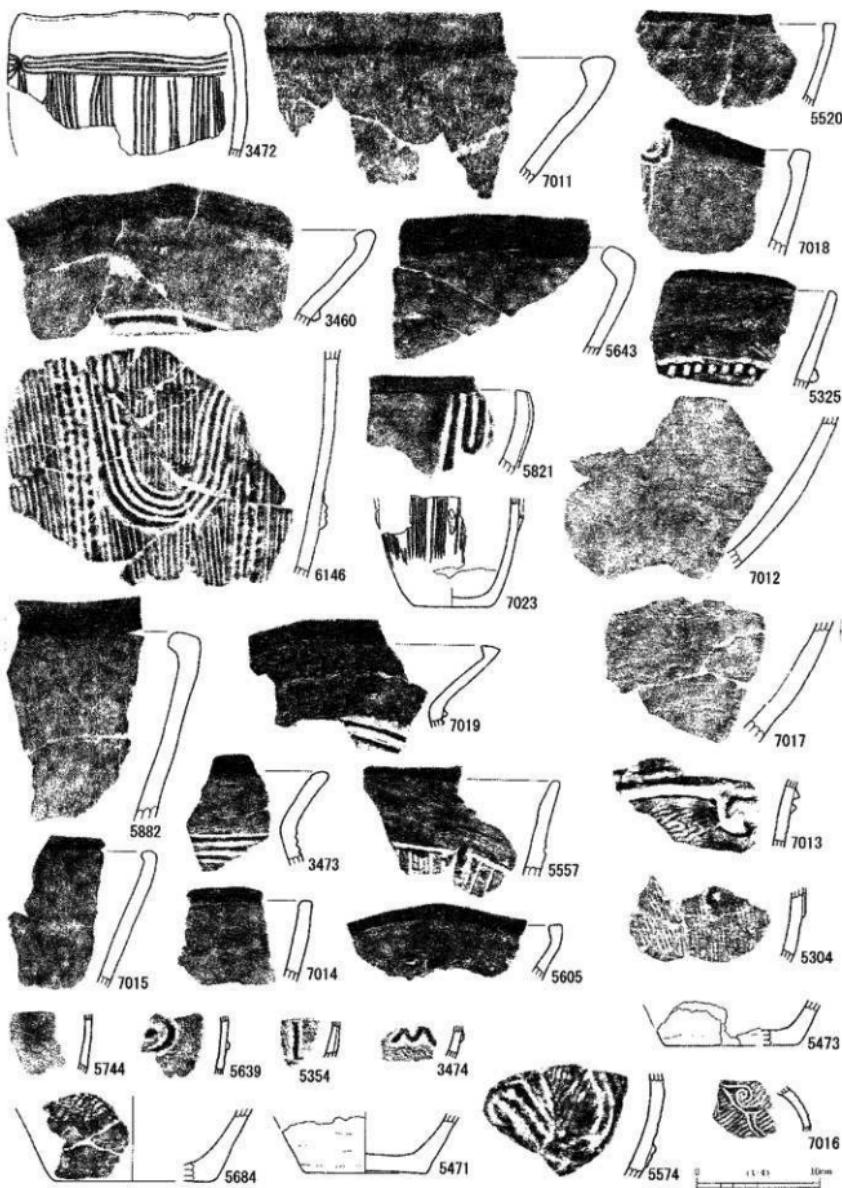
第30図 出土上器（6号住②）



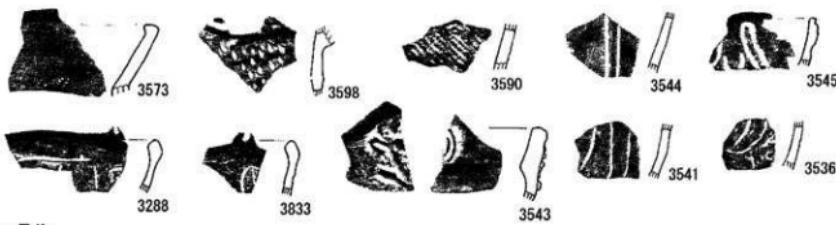
第31図 山上土器（6号住③）



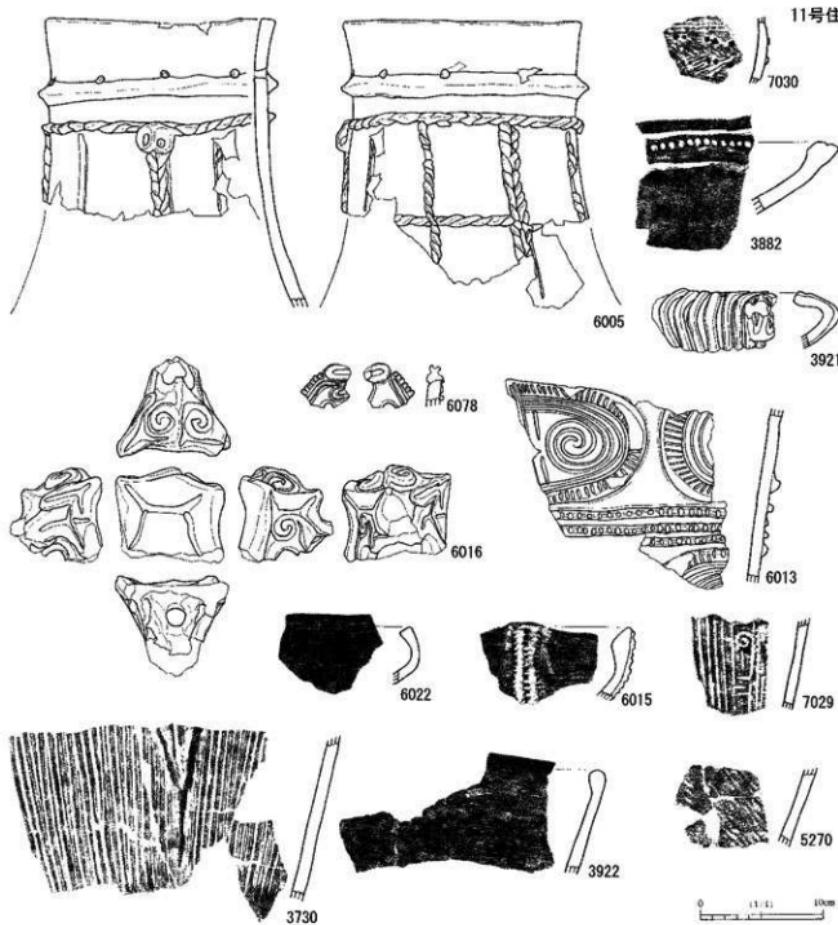
第32図 出土土器（7号住①）



第33図 出土土器（7号住②）



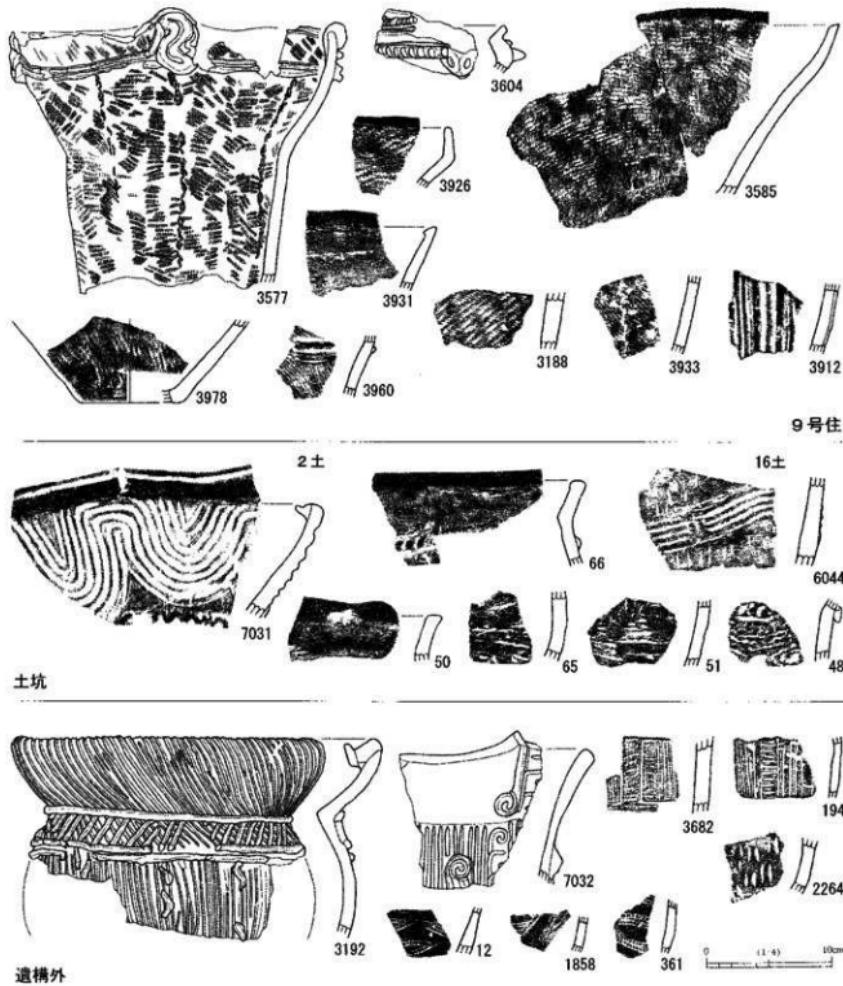
8号住



第34図 出土土器（8号住・11号住）



第35図 出土土器 (10号住)



第36図 山土土器（9号住・土坑・遺構外）

第3表 土器觀察表

第4表 遺構別山上器内臓表

5. 石器

・はじめに

人久保遺跡出土石器の資料整理を行った成果を報告する。環状集落を形成する住居群は、井戸尻式期末から曾利Ⅱ式期までである。分析としては次の3点を中心検討を加える。

1. 各堅穴住居出土資料を中心に検討する。
2. 代表的な個別器種についての検討する。
3. 土器型式に差がみられるので、各時期における石器組成に差があるか確認する。

・属性について

石器所見を記述するに当たり、属性表の基準について記述する。

- 1) 石材：肉眼で石材を鑑定し、記載した。
 - 2) 刃部属性：刃部の状態を示す属性で、加工技術を主に示す。石核の場合の刃部加工には剥片剥離作業の目的的剥片の剥離技術を示す。
 - 3) 形態加工：素材の厚みや大きく切り取る加工を記載した。本遺跡では主に直接打撃の加工である。
- 上記属性の記号やその規準は、角張（1998、2000、02、03、07ab）、竹岡（1989）や高橋（2008c）を参考とした。

器種記号は第6表に記した通りである。

文章中の番号は図番号である。未図化資料を文中で個別に記載することはないが、未図化石器の個別番号は属性表の管理番号である。

・石器所見

(1) 住居出土

1) 井戸尻式期

a. 6号住

山上石器としては、精製石器の黒曜石製削器、使用痕剥片、剥片、石核などの石器類、水晶製剥片、粗製石器として削器、石鎌、削器類、打製石斧、磨製石斧、礫石器類、自然礫である。

7は粗製の人形石錐である。

打製石斧は、上擦痕のような明瞭な使用痕は確認されていない。

14は小形の磨製石斧である。右面は研磨で角を形成している。

礫石器としては舷石・凹石・台石などある。

b. 11号住

出土石器としては、黒曜石製の肉極石器、剥片、石核、

水晶の剥片、粗製石器として石匙、大形剥片、打製石斧、磨製石斧、石皿などである。

20は大形剥片である。これ自体削器のような道具として機能していたかもしれない。

蛇紋岩製の磨製石斧の刃部断片が出土している。

縁と掃き出し口をもつ大形の石皿が出土している。

2) 曾利式期

a. 3号住

曾利Ⅰ式期である。

出土石器としては、黒曜石製石鐵未製品、使用痕剥片などの石器類、石英・水晶・黒曜石削器、粗製石器として削器類、打製石斧、磨製石斧、礫石器類である。

26は粗製の素刃削器である。

打製石斧の中に、側面折取り資料がある。片刃石斧に近い形態（鈴木1995）である。土擦痕をもつ打製石斧はない。

31は緑色凝灰岩の磨製石斧の刃部断片である。

舷石、台石、凹石などがある。縁と掃き出し口をもつ中形石皿がある。浅い磨面に敲打痕が無数にある。

b. 5号住

曾利Ⅰ式期である。

出土石器としては、石鎌、石匙、削器類、打製石斧、礫石器類、自然礫である。比較的まとまった石器が出土している。

チャートや黒曜石製石鐵の他に、黒曜石製両極石器、石核や剥片類が比較的多く出土している。未図化的剥片であるが神津島産黒曜石が確認されている。

39は粗製の砂岩製大形石匙で、不明瞭な摘み部がある。

削器類、側面折取りの三角形形態の削器。横長剥片を用いた削器など。鋸歯縁をもつもの、素刃などある。下記に詳述する。

打製石斧は上擦痕をもつもの、ないものがある。54-55は基部が少し抉れており、装着部を意図して製作されている。

舷石は卵形や棒状の縦の長軸端に敲打痕がみられる。

舷石・凹石は表裏に凹み、端部に敲打痕を残す。65は極端な凹み痕を各面に残している。また67は回転穿孔で凹みが形成されている。

不明瞭な縁と掃き出し口をもつ大形石皿や、その断片資料がある。磨面に敲打痕がみられる。

自然礫がある。特に使用痕は残されていないが、礫石器の素材であろう。

c. 10号住

曾利Ⅰ式期である。

出土石器としては、黒曜石製石鏃、使用痕剥片、黒曜石製の石刃に近い縦形剥片などの剥片類、水晶製剥片、粗製石器として削器類、打製石斧、磨製石斧、礫石器類、自然縫である。

88は、自然面を残し、周囲を加工しているが、器種は不明である。

磨製石斧は、刃部が右肩上がりに偏っており、スヌのような墨色の付着物がみられる。磨製石斧素材の剥片がある。

凹石類がある。表裏に2個1対の、小さな孔の集合の凹みがみられる。

d. 7号住

曾利Ⅰ式期である。

出土石器としては、黒曜石製石鏃、使用痕剥片、剥片、チャート、石英や水晶製の石核・石核ブランク、粗製石器として削器類、打製石斧、磨製石斧基部断片資料、礫石器類、自然縫である。

打製石斧は土擦痕をもつもの、ないものがある。大形の打製石斧104がある。

棒状敲石は、長軸端部に敲打痕、扁平様の敲石は側面に破裂痕がみられる。圓石は表裏に2個1対の、小さな孔の集合の凹みがみられる。

e. 1号住

曾利Ⅰ～Ⅱ式期である。

黒曜石製石鏃、水晶製石鏃や黒曜石製使用痕剥片、水晶製両面石器、水晶塊、チャート製右核、粗製では使用痕剥片、削器、打製石斧、円盤状石器、蔽石、台石などが出上している。

127の人形剥片は加工などないが、これ自体が大きな削器のような用途を持っていた可能性もある。

132は円盤状石器である。

回転穿孔と小孔集中の凹みをもつ台石が2点出土している。

f. 2号住

曾利Ⅱ式期である。

削器類、打製石斧、磨製石斧断片、礫石器類が出上している。未図化であるが、螺旋状刃部をもつ削器が2点出土している。黒曜石製剥片類もまとめて出土しているが、製品はない。

打製石斧は刃部欠損資料が多い。

蛇紋岩製磨製石斧の剥片資料が出土した。

敲石、凹石類が出土している。石墨は縁と掃き出し

口のあるものと、縁のなく、磨面に破打をもつものの2種類がある。ただしこれに対になるような磨面をもつ磨石類の出土はない。

また半削れしている自然縫がある。表面に作業をしたような痕跡はみられない。

g. 9号住

曾利Ⅱ式期である。

黒曜石製石器、石器、削器類、打製石斧、礫石器類が出土している。

不明瞭な加工の粗製縦形石匙がある。

使用痕剥片、打製石斧の素材をとる石核、圓石などがある。

磨製石斧から取られた剥片がある。乳棒状磨製石斧であろうか。

台石、自然縫がある。

3) 時期不明

a. 4号住

黒曜石製石鏃未製品や打製石斧などが出土している。

b. 8号住

削器類、礫石器などが出土している。未図化であるが、黒曜石製剥片類もまとめて出土している。

(2) 上坑・溝・その他

2号土坑から石皿断片2点が出土した。

6号土坑から円錐岩製の縫が出土した。土器の混和剤として利用されたのであろうか。

7号土坑から黒曜石製の剥片が出土した。

16号土坑から打製石斧が出土した。

1号溝から打製石斧と圓石が出土した。

1号竪穴状遺構・試掘坑から打製石斧などの素材をとる石核、大形礫石器の断片資料が出土している。

(3) 遺構外

1) △区

黒曜石製石鏃、削器、粗製削器、打製石斧が出土している。

2) B区

黒曜石製石鏃などの石器類、粗製削器、打製石斧、礫石器が出土している。

上記以外に打製石斧の素材を取る石核、礫石器断片、蛇紋岩製磨製石斧の断片、打製石斧などが出土している。

・考 察

(1) 個別器種

1) 削器

削器は形態的に安定しておらず、剥片の打面部、もしくは厚みのある部分をつぶし、素刃を基本とするものが多い。まれにIPによって縦齒状に加工してある。

a. 背部を交互剥離で整形する削器

剥片の一端、特に打面側を正反HDで加工し、その反対辺の鋭い縁辺に刃部をもつ削器。40が一番典型的な例である(第50図)。背側をHDで加工している(写真1・2)。背側を上からみると交互剥離の様相を呈している(写真3)。その反対辺には微小剥離痕がみられる(写真4・5)。他の粗製石材では、82はその例であり、背部を交互剥離で整形し(写真6)、鋭い縁辺を刃部としている(写真7)。124・125なども同様である。

193(第51図)は交互剥離でないが、背部を敲き潰している(写真11)。その反対辺に微小剥離痕がみられる(写真12)。

b. 背部を敲き折り、三角形に成形する削器

剥片の2側辺を敲き折り、その間に挟まれた辺を刃部とする削器であり、平面形態はおむね三角形もしくは扇形となる。44が代表的な例である(第52図)。両側辺は折取られ(写真17・18)、下辺に微小剥離痕がみられる(写真19・20)。123は左辺を反方向から敲き折り(写真15)、下辺に反方向の加工もしくは微小剥離痕がみられる(写真16)。同種石器は、9・41・42・44・104・198にみられる。194は敲き折り加工はないが、形態が三角形であり、素材の形態を生かしている。

その両辺にはさまれた弧状部分に、素刃もしくは、41・194のようなIP/縦齒の加工(第51図)がみられる(写真13・14)。

下記の打製石斧の敲き折り資料との区分が不明瞭になる。

c. 背部加工がない

26・46・47は横長剥片の素材末端部に微小剥離痕がみられる。46は不規則な剥離痕が背部にみられる(写真9)が、素材剥離開始部もみられる(写真8)。刃部は反HPである(写真10)。

20・127などは加工がないが、素材形態を利用したこれまで自体が削器などとして機能した可能性もある。

2) 石匙

39・161などは一つの抉りで縦形石匙のように作り出している。11号住出土は、外溝した刃部をもら、摘み

というよりは柄のような部分を作り出し、側辺を叩き潰している。小形の精製石匙はない上に、粗製品においても典型的な石匙ではなく、このような形態の石匙しかみられない点がこの遺跡の特徴の一つであろう。

3) 打製石斧

井戸尻式・曾利式以前なので、形態的には短冊形と扇形である。打製石斧は両側辺をHDもしくは、HxDで加工している。後者はもっぱら薄い素材に対して用いられたと思われる。

打製石斧には刃部にみられる土擦痕が一般的な使用痕であるが、この遺跡出土の打製石斧には土擦痕はほとんどない。

5号住から土擦痕がみられる打製石斧がまとまって出土した。54(第53図)は基部側を加工で少し抉り(写真26)、柄部を明瞭に作り出している。刃部は磨滅で剥離痕などが磨り減り丸くなっている(写真27・28・29)。

104は厚手であり、下辺が潰れている(写真25)。

13・29・30などは片刃石斧(鈴木1995)の範疇に近い。29(第53図)は両側面を叩き折りし(写真22)、左辺はHD加工し、稜線を叩き潰している(写真21)。刃部には加工がなく微小剥離痕がみられる(写真23・24)。30は刃部欠損しているが、側面の加工から片刃石斧になるとと思われる。両側辺を敲き折る点では削器のものに提示した資料との差がみられない。この種の石器の分類については今後の検討課題とする。

曾利式期前半までの資料であり、それなりにまとまつた数が出土しているが、土擦痕の痕跡を有するものは少ない。これは井戸尻式期でも同様である。土擦痕が増加するのは曾利式期でも後半段階からの可能性がある。また分離形打製石斧の出土もない。

4) 横石器

岸石ではなく、基本的に凹石である。

凹石・台石の凹みには2種類ある。1つは無数の孔の集合によって形成されたもので、65(第54図)などがその代表的な例である(写真32・33・34)。111のような2個1対の孔(写真30)が多い。

もう1つは、回転穿孔によって生じたと思われる、櫛り鉢状の孔で、67(写真36)などがその代表的な例である。

台石類にもこの2種類の孔が1号住で確認されている(写真31・35)。

孔の形態が異なるので、その生成原因は異なることが考えられ、用途が異なっていたと思われる。なお、これら石器に明瞭な磨面を残している石器はない。

石皿については、縁と掃き出し口があるものと、平な面を形成している2種類ある。大形の掃き出し口付きの石皿の機能面は、36(第56図)のような無数の孔のある平滑でない面(写真39)と、24・157のような平滑な面をもつものがある(写真38・40・41)。

縁なしには磨面と敲打痕跡がみられる(写真37)。

大形石皿が山上しているが、これに対応するような磨石などは共伴していない。

5) 遺跡地石材(黒曜石製石器・蛇紋岩製石斧)

第7表は、黒曜石製石器の遺構・地区ごとの石器組成である。黒曜石製石器自体、小形のものが多い上、両極石器、親指先などの剥片などがほとんどである。製品としても石鏃以外の器種はほとんどなく、小形石器に収録している。また出土剥片全体の量も極端に多いわけでもない。北社市人冢町の寺所第2遺跡寺所地区などで、上坑から黒曜石の原石が一括で出土しているが、そのような原石の出十例もない。

全体に黒曜石の保有量は少ない傾向である。

産地分析の結果では、多くは信州産である。神津島産も確認されている(附図参照)。

黒曜石製石器以外の精製石材は、チャート・水晶・石英であるが、製品としては石鏃があるぐらいで、点数も少ないと。

蛇紋岩製は井戸尻式期に1点刃部断片が出土している。出土地点不明の207があるが、この遺跡の主体が井戸尻式期末から曾利II式期までなら、この時期に局属する資料と思われる。小形品であり、製作剥片もないので、製品として遺跡に持ち込まれたと思われる。

(2) 石器組成

住居跡出土の石器組成を検討したが、基本的に大きな差はない(第8表)。

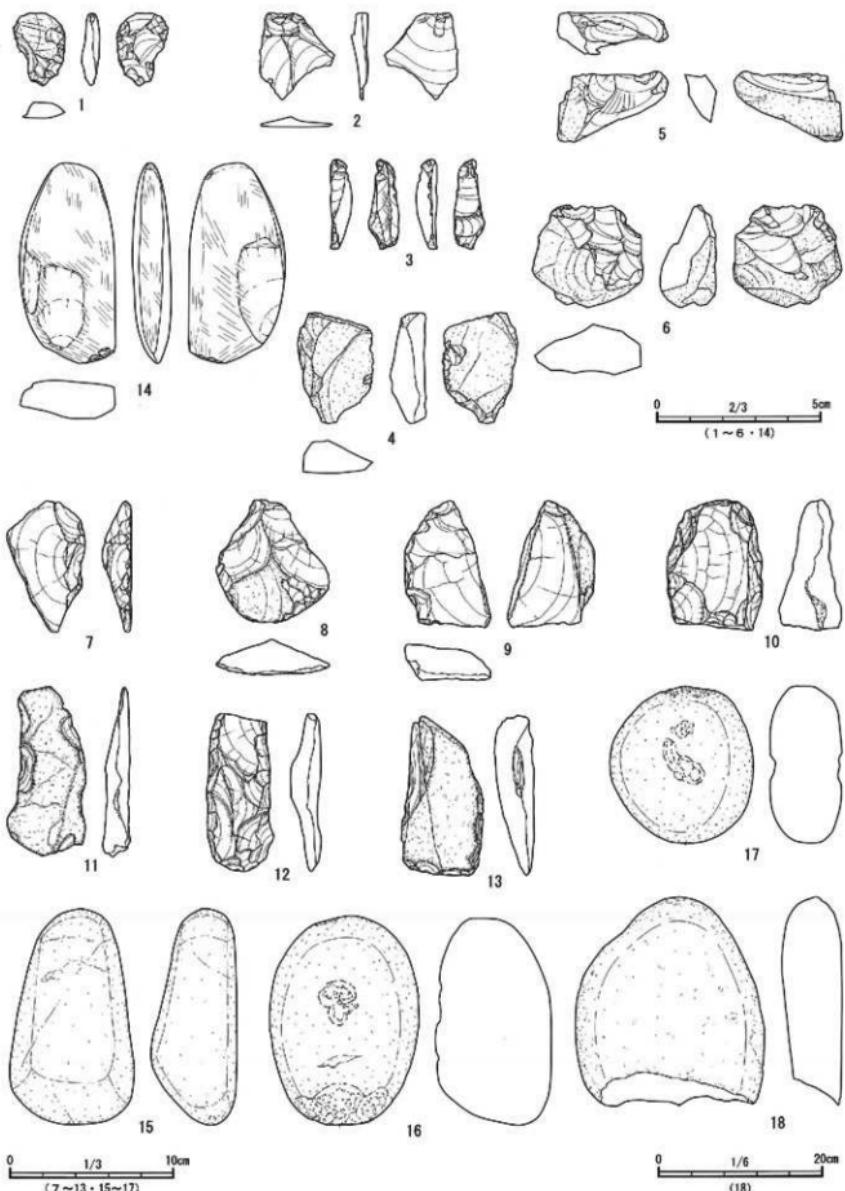
小形の精製剥片石器は全体に少ない。

比較的まとまって出土しているのは、粗製の打製石斧・削器類・礫石器類である。これらの3つは上記で記述した通り、製作技術を含め大きな差はみられない。

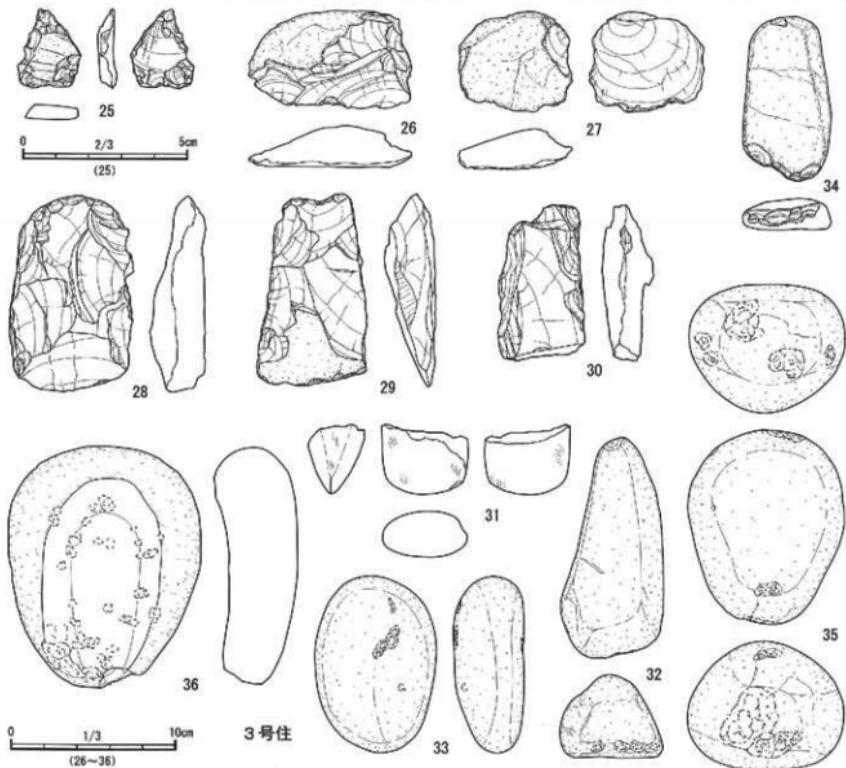
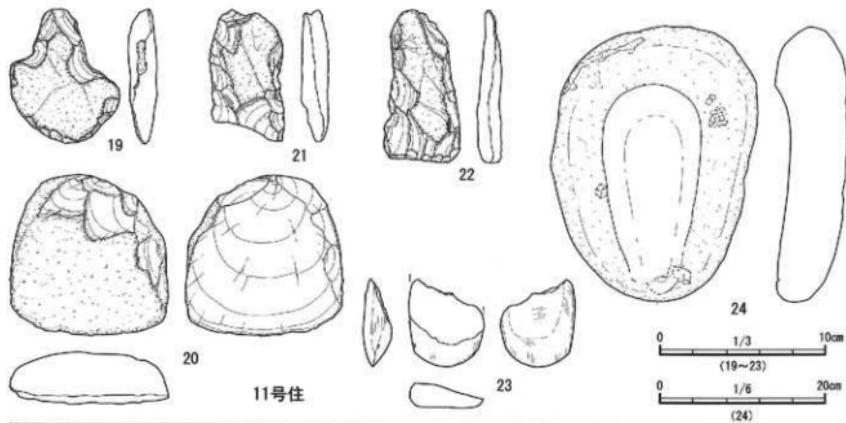
よって上器型式は井戸尻式から曾利II式まで複数の時期にまたがっているが、石器組成など内容の点では大きな差は認められないことが明らかになった。

参考文献

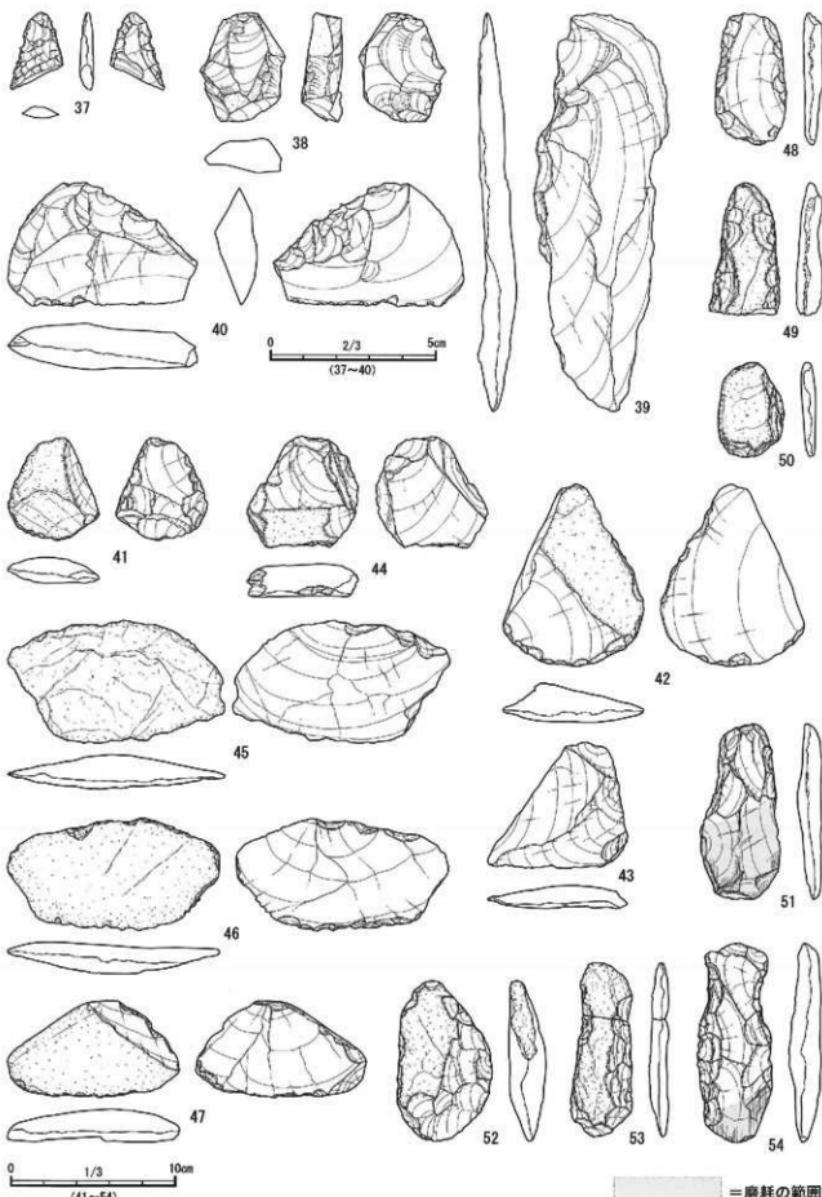
- 伊藤公明 2005『寺所第2遺跡I(石器編)』北杜市埋蔵文化財調査報告書
- 角張淳・1998『石器研究についての感想』『東京考古』16 pp. 135-165
- 2000『統・石器研究についての感想』『東京考古』18 pp. 46-70
- 2002『石器研究の展望』『利根川』23 pp. 1-14
- 2003『講義2 角張淳一氏「剥片剝離技術の検討および石器実測図の評価」(当口配布資料から)』『平成14年度 愛知県埋蔵文化財センター 年報』愛知県埋蔵文化財センター pp. 78-84
- 2007a『石器の製作』『考古学ハンドブック』鹿島出版会 pp. 104-105
- 2007b『先土器時代石器技術論』『列島の考古学・渡辺誠先生古希記念論文集』pp. 263-276
- 鈴木次郎 1995『打製石斧』『縄文文化の研究7道具と技術』(第2版)雄山閣 pp. 48-59
- 竹岡俊樹 1989『石器研究法』言叢社
- 高橋哲 2003b『使用痕実験報告と使用痕研究の課題』『アルカ研究論集』1 pp. 54-59
- 2008a『使用痕分析からみた縄文石器の機能についての考察』『アルカ研究論集』3 株式会社アルカ pp. 1-25
- 2008b『打製石斧による土掘り実験報告』『アルカ研究論集』3 株式会社アルカ pp. 57-74
- 2008c『押し正剝離実験報告 - ネガ面の研究-』『宮城考古学』10 pp. 129-144
- 藤森栄・1979『藤森栄一全集第9巻 縄文農耕』学生社
(文責 勝アルカ 高橋哲)



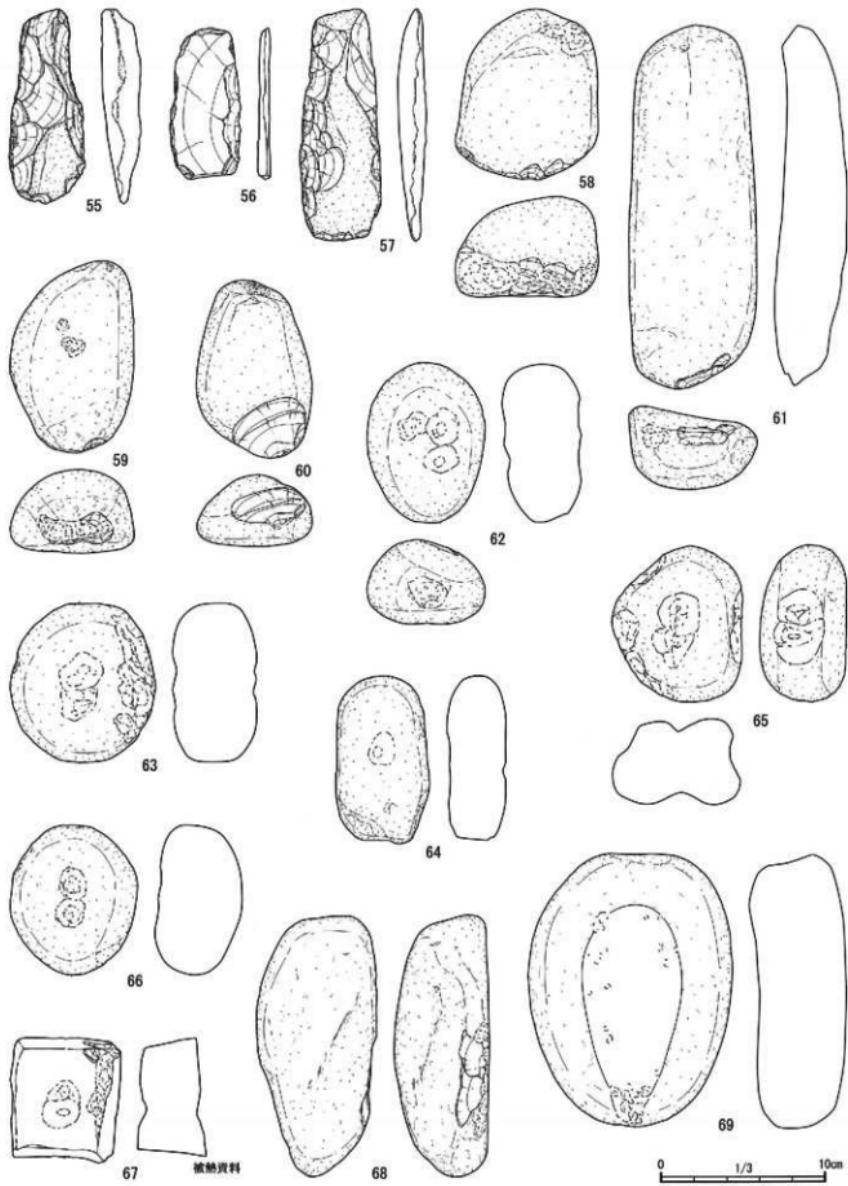
第37図 出土石器（6号住）



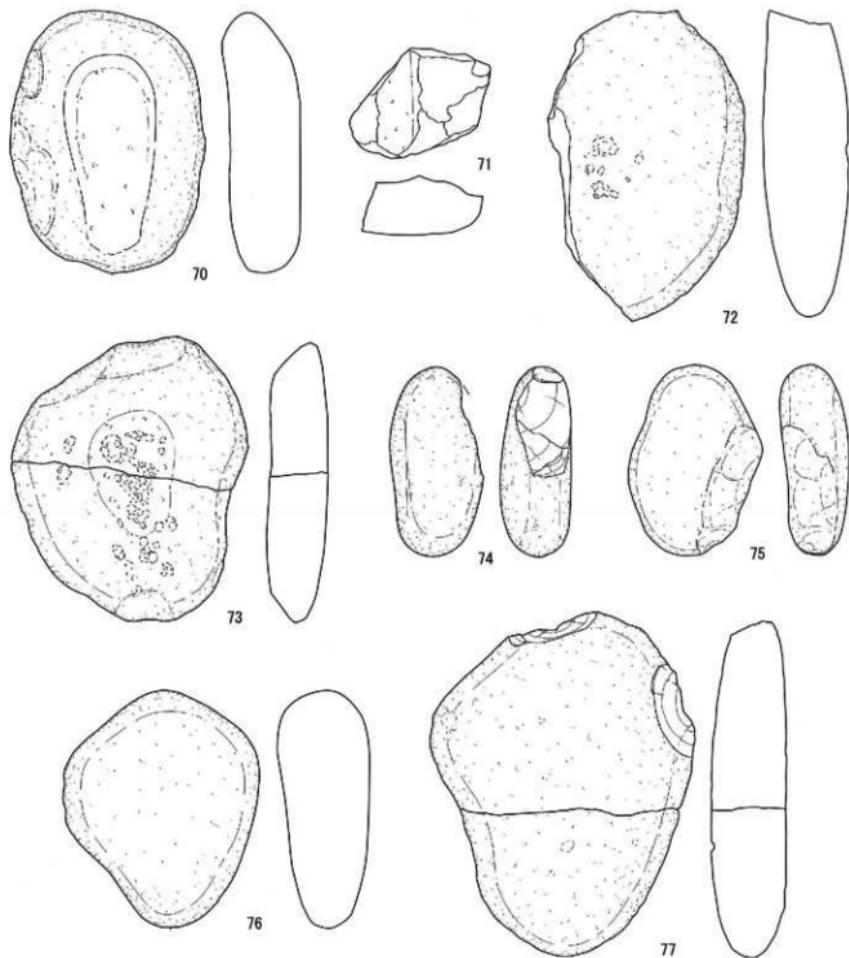
第38図 出土石器（11号住・3号住）



第39図 出土石器（5号住①）

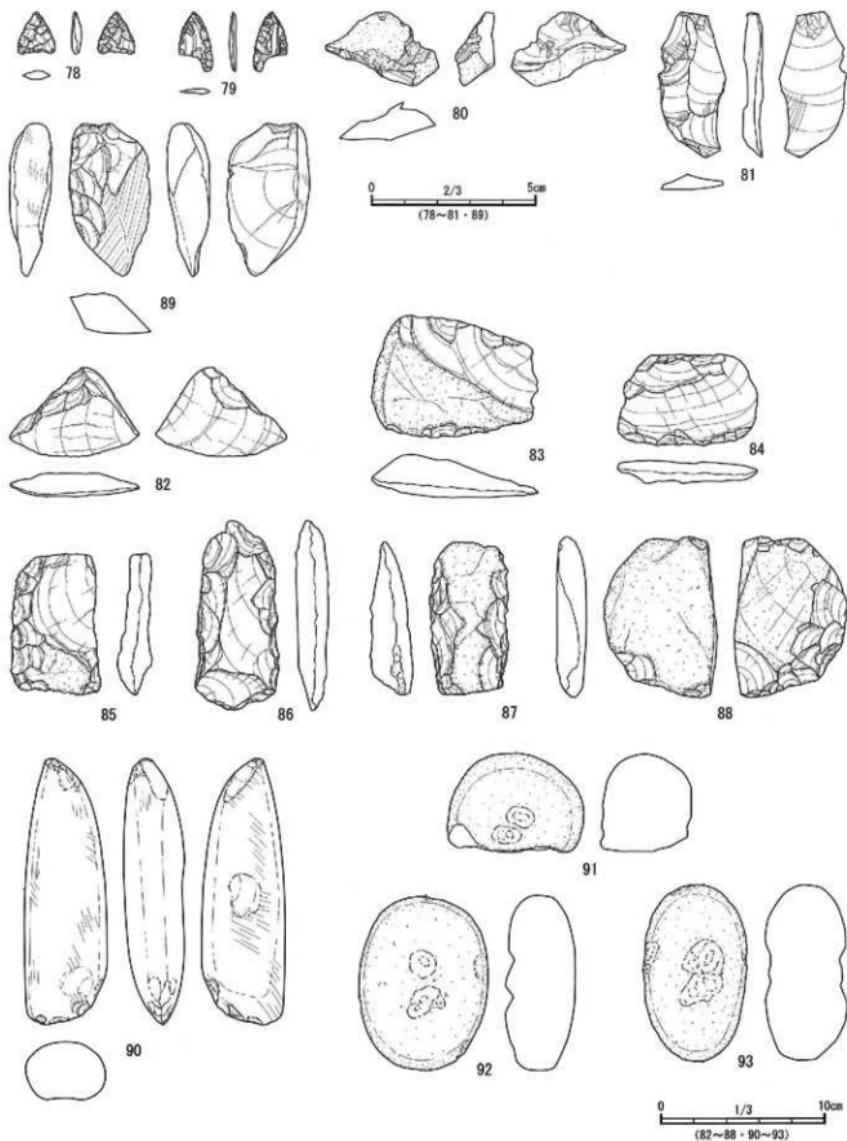


第40図 出土石器 (5号住②)

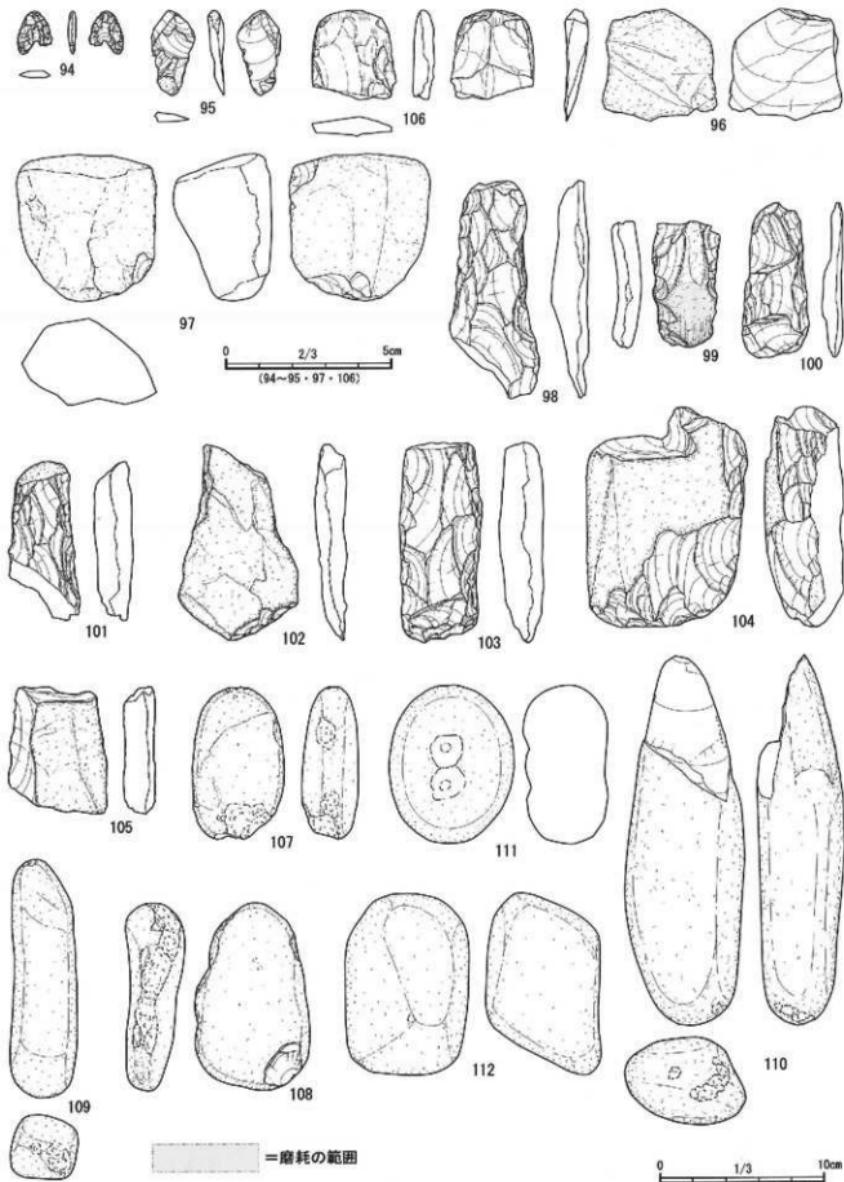


0 1/6 20cm
(70~77)

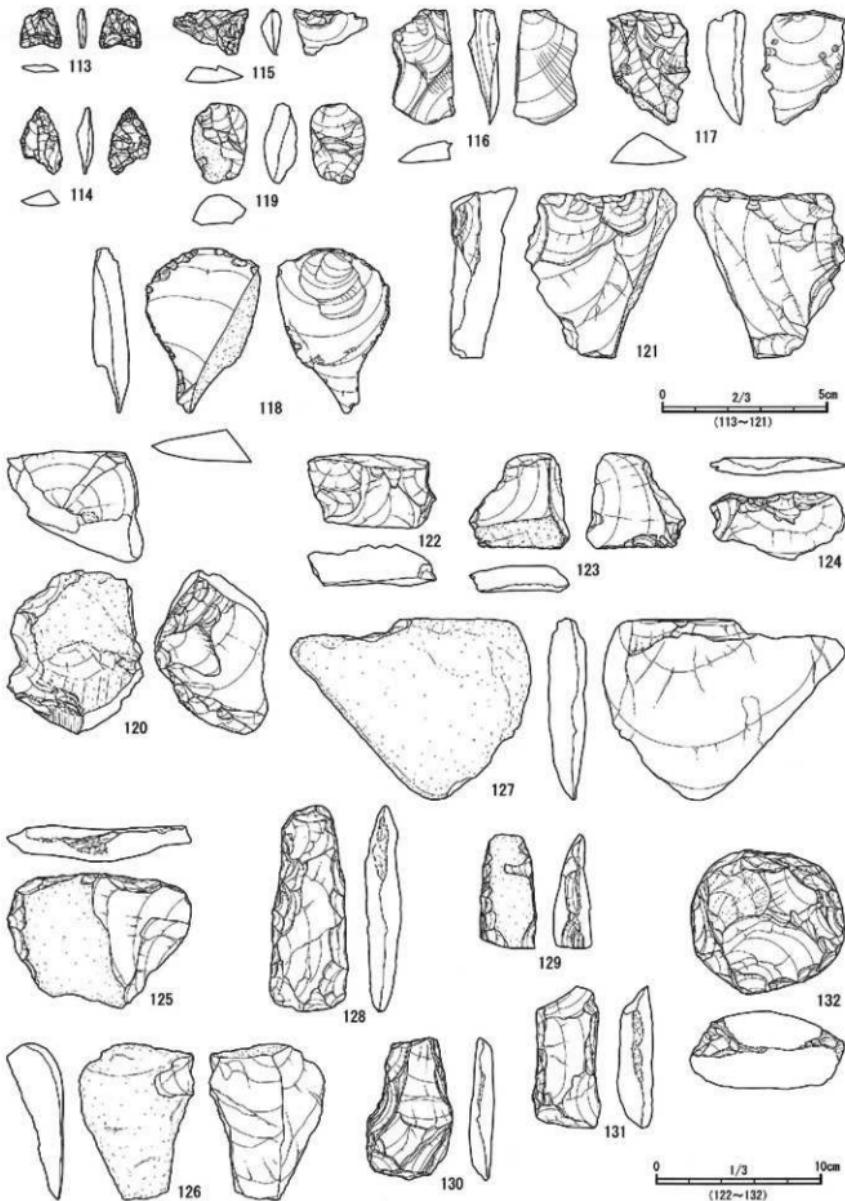
第41図 出土石器（5号住③）



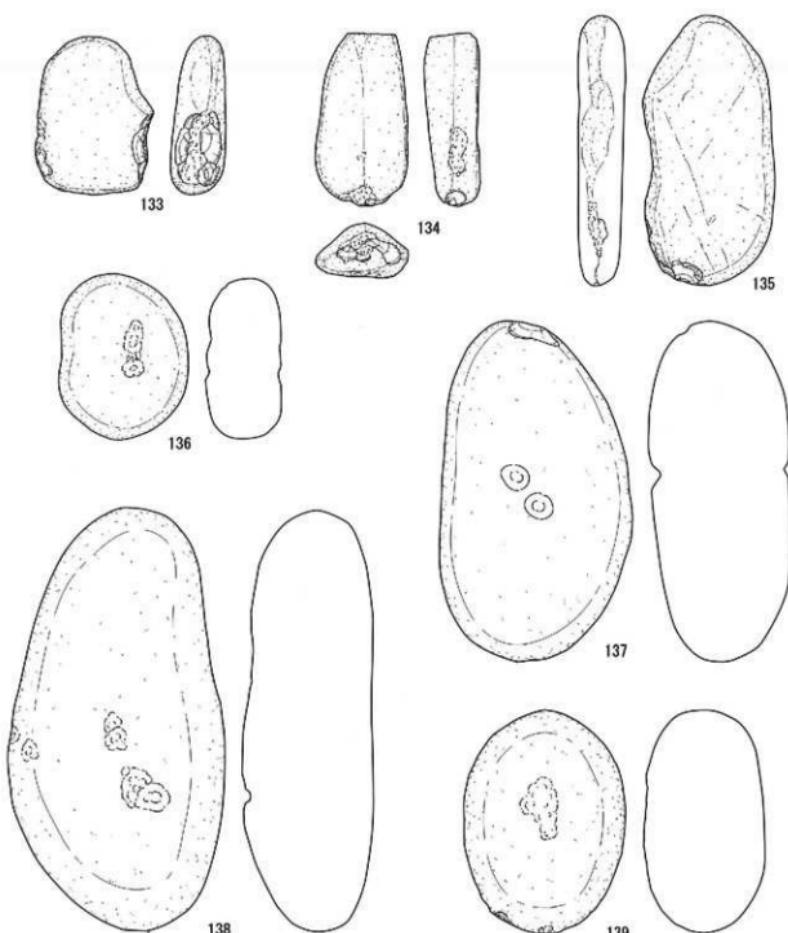
第42図 出土石器（10号住）



第43図 出土石器（7号住）

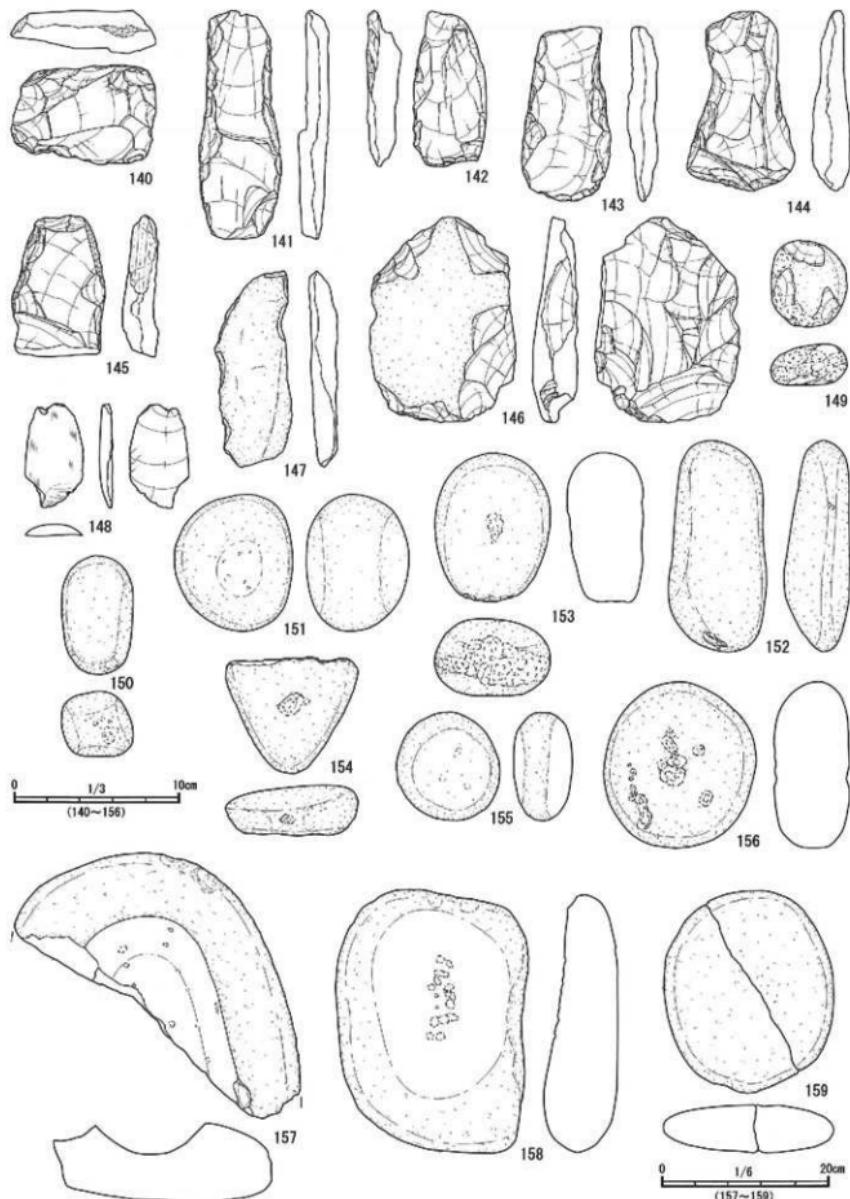


第44図 出土石器（1号住①）

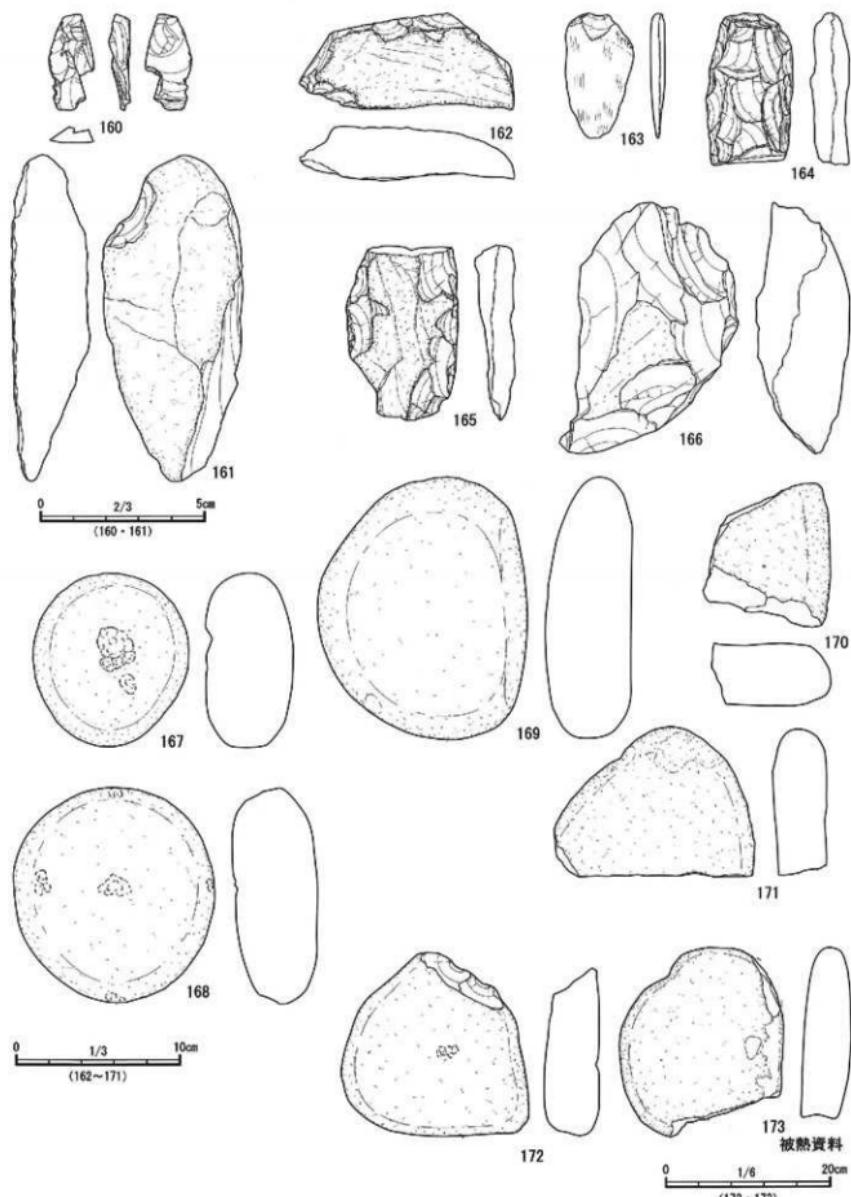


0 1/3 10cm
(127~139)

第45図 出土石器（1号住②）



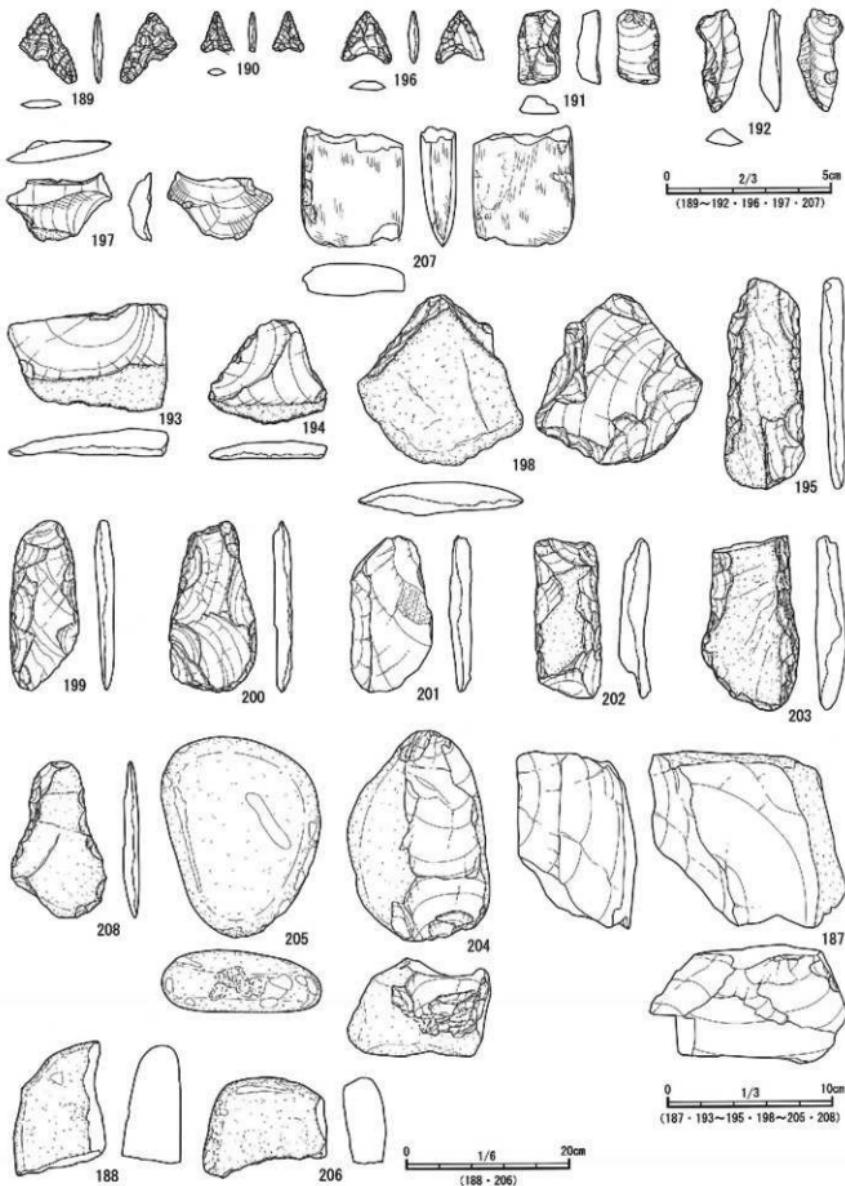
第46図 出土石器（2号住）



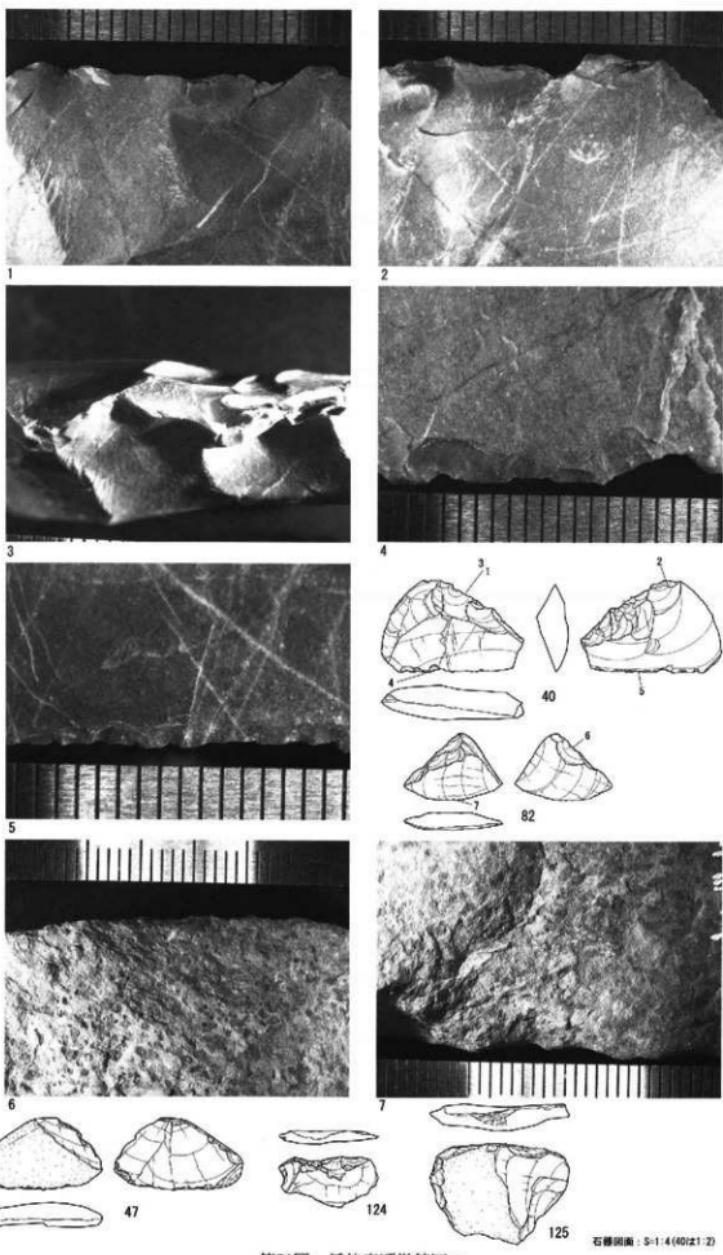
第47图 出土石器 (9号住)



第48図 出土石器（4号住・8号住・土坑・溝）

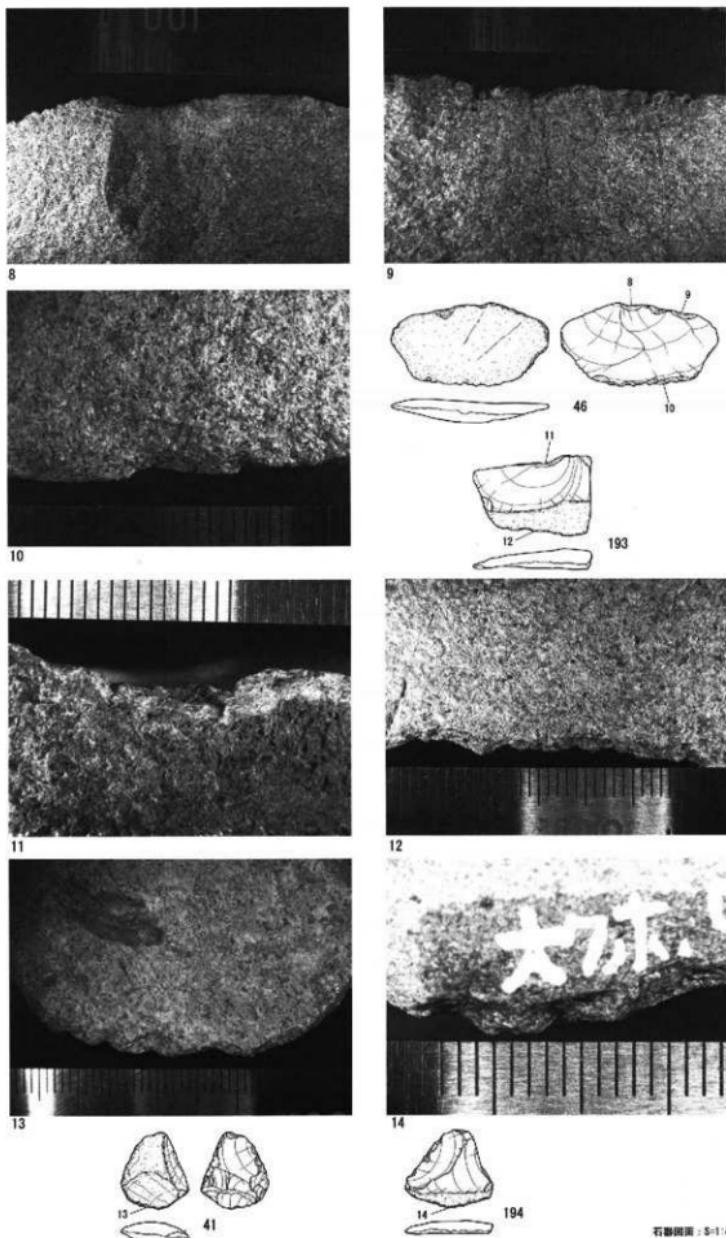


第49図 出土石器（造構外）

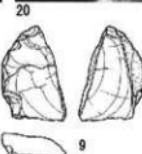
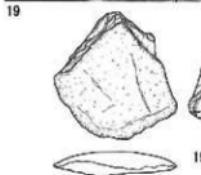
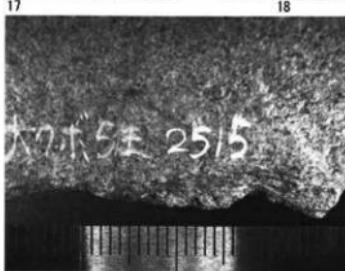
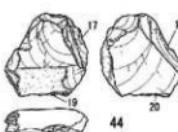
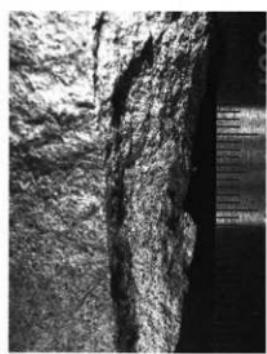
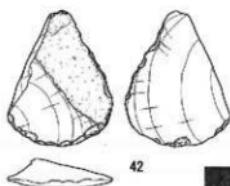


第50図 低倍率顕微鏡図 1

石標面図: S:1/4(40は1/2)

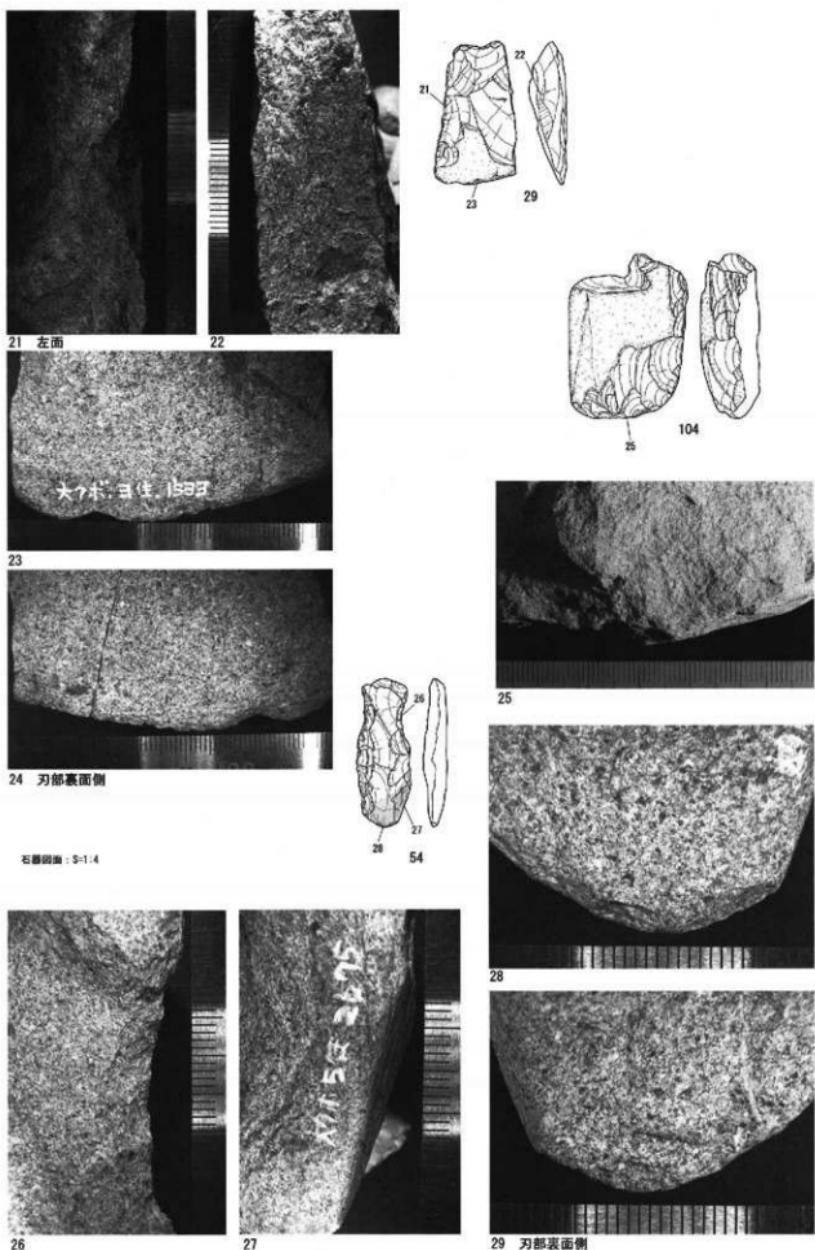


第51図 低倍率顕微鏡図 2

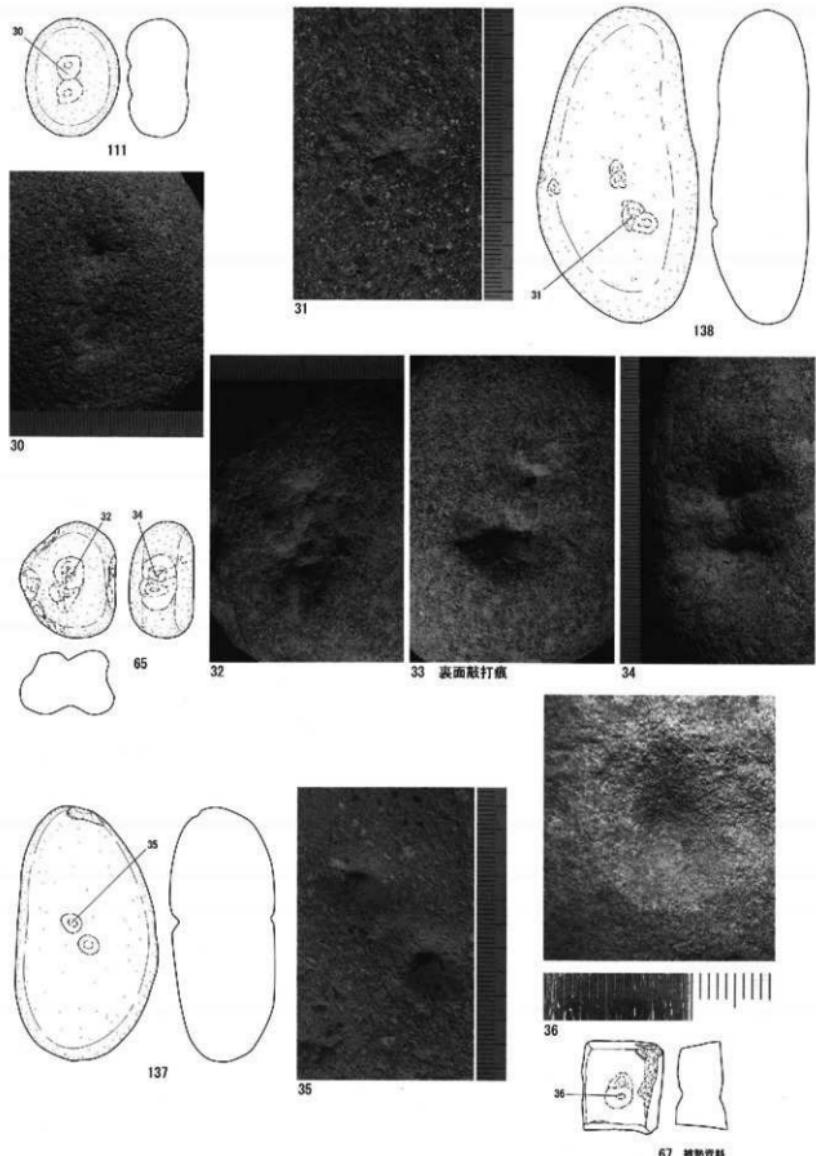


石器断面 : S=1:4

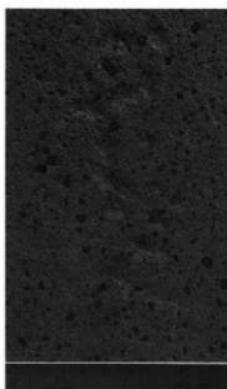
第52図 低倍率顕微鏡図 3



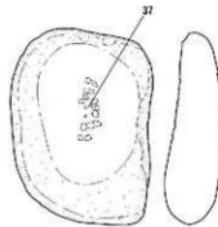
第53図 低倍率顕微鏡図 4



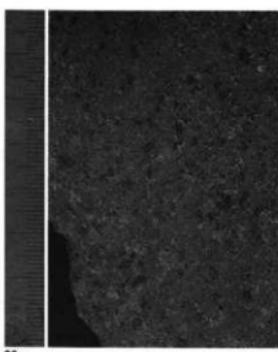
第54図 低倍率顕微鏡図 5



37



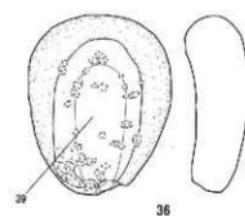
158



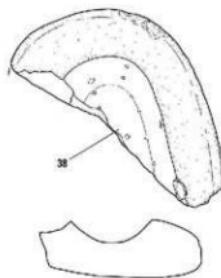
38



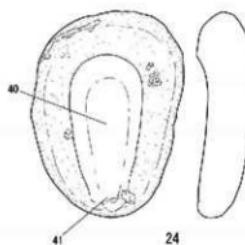
39



36

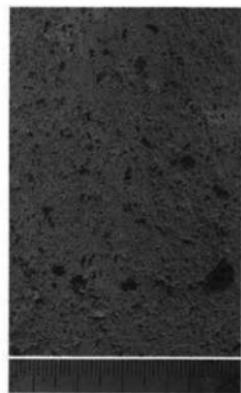


157

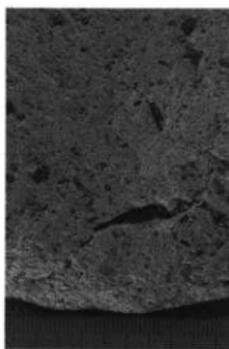


41

24



40



41

石器圖面 : S=1:8 (圖番号38は1:4)

第55圖 低倍率顯微鏡圖 6

第5表 石器属性表

地番	管理番号	取扱上場	西面	南面	北面	内面	物語	特種	標的	品目	内規則	方法規則(作業用具)	所見	(5分)計	標準量	高さ(cm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重積(g)
49 319 3881 A区 5年生													長脚部に筋肉筋		116.1	75.9	51.5	60.6	
60 341 2127 A区 5年生													葉下部葉肉薄		109.2	70.2	44.5	52.0	
61 346 3020 A区 5年生													葉肉薄		104.1	72.9	51.5	57.0	
62 321 2056 A区 3年生													葉肉薄		96	71.8	57.2	32.1	
63 342 2812 A区 5年生													葉肉薄		21.1	38.2	54.1	88.1	
64 341 2869 A区 5年生													葉肉薄		165.6	57.4	36.3	341.5	
65 331 2119 A区 5年生													葉肉薄		96.2	79	53.2	37.5	
66 336 341 A区 3年生													正面に筋肉筋		92.1	71.8	54.8	42.6	
67 345 2890 A区 5年生													葉肉薄		96.7	67.5	41.1	37.6	
68 335 2315 A区 5年生													葉肉薄		166.4	73.2	58.9	66.0	
69 377 3622 A区 5年生													側面に筋肉筋		109	126.5	69	192.7	
70 429 547-01 A区 5年生													側面に筋肉筋		142.3	230.2	96.6	1960.0	
71 330 547-05 A区 3年生													側面に筋肉筋		136.1	111.1	76.1	195.0	
72 354 5-02 A区 5年生													側面に筋肉筋		285	28.6	106.2	1290.0	
73 359 5-03 A区 5年生													側面に筋肉筋		266.8	26.9	75.5	1000.0	
74 529 5-04 A区 5年生													側面に筋肉筋		233.7	114.9	87.8	300.1	
75 531 5-05 A区 5年生													側面に筋肉筋		235	183	84.5	203.6	
76 533 5-10 A区 5年生													側面に筋肉筋		291.9	240.8	134.6	1000.0	
77 323 5P-02 A区 5年生													側面に筋肉筋		474.4	222.5	99.8	2600.0	
78 549 R区 5年生													側面に筋肉筋		51	11.2	3.1	0.1	
79 454 R区 5年生													側面に筋肉筋		147.1	18.1	2.1	0.5	
80 460 R区 5年生													側面に筋肉筋		117	34.3	12	4.1	
81 457 4901 R区 5年生													側面に筋肉筋		161.6	26.7	6.3	4.1	
82 140 6369 10P 10年生													側面に筋肉筋		165.3	30.7	31.7	50.0	
83 141 1387 10P 10年生													側面に筋肉筋		155	19	14.6	49.6	
84 457 5126 10P 10年生													側面に筋肉筋		79.5	181.4	26.8	101.1	
85 432 3662 10P 10年生													側面に筋肉筋		56.4	85.5	14.4	68.7	
86 436 3373 10P 10年生													側面に筋肉筋		85.7	54.9	23.8	106.6	
87 447 4866 10P 10年生													側面に筋肉筋		94	68.3	26.1	29.8	
88 434 3568 10P 10年生													側面に筋肉筋		99.6	68.9	18.2	177.8	
89 334 4771 10P 10年生													側面に筋肉筋		47	25	13.1	15.3	
90 333 4585 10P 10年生													側面に筋肉筋		165.3	30.7	31.7	50.0	
91 438 2901 R区 10年生													側面に筋肉筋		61.1	85.2	55.5	341.1	
92 419 4331 R区 10年生													側面に筋肉筋		197.8	72.4	45.5	452.0	
93 498 8051 R区 10年生													側面に筋肉筋		108.6	63.8	9.2	137.0	
94 122 8866 R区 7年生													側面に筋肉筋		152.6	18.5	2.5	0.3	
95 122 8868 R区 7年生													側面に筋肉筋		26.1	13.5	0.9	1.1	
96 348 5205 R区 7年生													側面に筋肉筋		66.6	88.4	14.6	66.0	
97 205 3390 R区 7年生													側面に筋肉筋		43.3	42.8	29.6	70.1	
98 587 3288 R区 7年生													側面に筋肉筋		135.3	51.2	22.9	148.8	
99 381 3410 R区 7年生													側面に筋肉筋		77.5	41.1	17.6	68.0	
100 334 5517 R区 7年生													側面に筋肉筋		35.1	4.1	12.8	16.8	
101 395 5564 R区 7年生													側面に筋肉筋		87.7	42.1	23.0	103.7	
102 407 5905 R区 7年生													側面に筋肉筋		119.9	72.3	19.7	141.6	
103 610 6127 R区 7年生													側面に筋肉筋		122.6	51.2	27.4	234.0	
104 619 5941 R区 7年生													側面に筋肉筋		136.1	57.8	48.6	761.1	
105 309 5880 R区 7年生													側面に筋肉筋		19	60.2	19.8	126.6	
106 239 5207 R区 7年生													側面に筋肉筋		27.6	25.4	6.7	5.0	
107 1396 5892 R区 7年生													側面に筋肉筋		93.3	25.9	31.8	214.1	
108 406 4919 R区 7年生													側面に筋肉筋		113.2	69.5	36.6	364.1	
109 41 4230 R区 7年生													側面に筋肉筋		146.2	41.4	29.7	263.3	
110 587 6205 R区 7年生													側面に筋肉筋		126.6	73.7	52.8	1128.9	
111 414 3865 R区 7年生													側面に筋肉筋		97.5	70.1	35.2	486.8	
112 399 5773 R区 7年生													側面に筋肉筋		111.7	70.3	69.4	809.7	
113 19 418 R区 7年生													側面に筋肉筋		12.3	12.6	2.0	0.4	
114 707 4185 R区 7年生													側面に筋肉筋		30.3	12.2	5.1	1.0	
115 25 4185 R区 7年生													側面に筋肉筋		14.1	22.4	6	1.1	
116 13 2395 A区 5年生													側面に筋肉筋		100.0	侧壁部	18.9	9.4	4.0

標高 地名	登別市 年月	測量 No.	位置 名	地質 帯	特徴 変形	岩相	断層上 部構造	断層下 部構造	断層 性状	OB 分 断層	断層地	M.2 (m)	M.3 (m)	深さ (m)	重さ (t)
173 540 -06 RIK 9年住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	無	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	22.4	29.1	61.5	4,910.5
174 70 RIK 9年住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	S/P	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	35.7	37.7	7.7	7.3
175 415 358 RIK 9年住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	51.1	79.4	20.5	68.6
176 416 392 RIK 9年住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	55.1	72.6	23.5	64.4
177 529 267 RIK 9年住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	119.4	136.4	47.8	885.9
178 527 268 RIK 9年住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	133.7	147.7	39.6	284.6
179 172 2187 ARI T.L.	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	36.5	31.7	6.8	1.3
180 464 603 RIK 10上	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	36.7	63.2	18.1	62.8
181 547 1 ARI 9上	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	33.0	72.2	22.9	56.9
182 548 6 ARI 2上	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	197.2	212.2	104.9	1406.9
183 549 6 ARI 2上	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	135.9	162	43.6	169.7
184 550 ARI 6上 - 河	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	111.9	97.9	54.8	896.1
185 466 2435 URE 1上	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	121.1	95.6	21.5	114.7
186 581 4721 URE 1上	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	159.9	138.5	71.8	172.4
187 483 5736 RIK 1上	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	180.1	20.8	72.9	1148.9
188 562 24 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	66.1	112	75	1459.5
189 173 159 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	21.6	17.5	3.2	6.7
190 183 1585 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	12.1	9.4	2.3	0.7
191 183 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	22.8	12.8	7.1	2.1
192 181 388 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	31.4	14.2	6.5	1.5
193 477 366 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	66.3	97.3	17.6	109.7
194 483 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	64.5	71.6	11.5	67.8
195 478 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	229.6	49	14.9	100.2
196 226 4603 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	16.1	14.7	3.3	0.5
197 198 3222 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	21.2	32	2.7	2.7
198 495 3204 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	104.6	188.4	22.8	210.1
199 491 3392 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	184.3	11.9	11.9	52.9
200 492 3590 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	105.5	33.8	11.7	68.8
201 483 3200 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	95.6	98.8	14.1	72.9
202 503 5584 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	98.3	98.6	19.5	98.3
203 504 5609 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	107	94.4	19.5	126.1
204 564 3500 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	129.7	97.2	68.4	373.3
205 564 3499 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	125.8	97.5	38.9	621.5
206 554 3499 RIK	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	124.2	182.2	25.8	1340.0
207 227 190 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	36.9	31	10.8	22.6
208 371 40 ARI	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	96.2	87.9	10.2	82.6
7 811 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	1.1
11 1120 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	1.3
12 1041 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.4
20 20 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.3
26 603 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.3
4 584 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.0
19 20 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	1.5
218 1029 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.1
2 399 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	1.1
1 112 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.9
5 466 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	2.0
6 603 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	2.0
9 833 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	2.2
10 836 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	2.2
14 474 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	1.8
16 475 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.9
17 476 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.8
18 477 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.3
21 478 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.3
23 479 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.3
24 480 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.2
25 481 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.1
27 482 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.1
28 483 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	0.1
246 1279 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	22.2
253 1736 ARI 1号住	内	新利 I	自然帶	山地	山地	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	未記載	22.3

順番	管理番号	地上高 内訳	西高 内訳	北高 内訳	南高 内訳	壁厚	断面	基準 記号	認定 番号	材料名	規格品目(作 業基準)	所見	06.9 荷重等	指定荷重	実生 (t)	積込(t)	積込(t)	
柱	梁	横材	柱	梁	横材	柱	梁	横材	柱	梁	横材	柱	梁	横材	柱	梁	横材	
300	2199	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	なし	なし	柱脚パネル・腰板の漆 付か		六角形 柱頭板	未計測	61.1	
305	2973	A柱 3.5t柱	P3			壁厚1	柱方		42	角管	なし	なし	柱脚パネルの漆付		六角形 柱頭板	未計測	45.0	
204	2071	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	なし	なし	柱脚パネル		未計測	未計測	38.0	
293	1941	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	上部板なし		未計測	未計測	48.7	
582	2445	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	下部板なし		未計測	未計測	45.1	
295	1953	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	上部板なし		未計測	未計測	42.3	
299	2197	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	下部板なし		未計測	未計測	48.7	
301	2303	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	上部板なし		未計測	未計測	48.2	
302	2196	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	JLD	JLD	天板無し		未計測	未計測	41.9	
303	2679	A柱 3.5t柱	P3			壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	天板無し		未計測	未計測	48.2	
304	2669	A柱 3.5t柱	P1			壁厚1	柱方		42	角管	JLD	JLD	天板無し		未計測	未計測	47.5	
298	2093	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	天板無し		未計測	未計測	47.4	
290	1294	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	天板無し		未計測	未計測	21.1	
297	1329	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	天板無し		未計測	未計測	37.0	
298	2195	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	天板無し		未計測	未計測	71.8	
311	2124	A柱 3.5t柱				壁厚1	柱方		42	角管	HxD	HxD	天板無し		未計測	未計測	83.4	
72	40	A柱 4.0t柱				壁厚1	柱方		45	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
69	A柱 4.0t柱				壁厚1	柱方		45	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
315	1074	A柱 4.0t柱				壁厚1	柱方		45	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
48	A柱 4.0t柱				壁厚1	柱方		45	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
71	A柱 4.0t柱				壁厚1	柱方		45	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
73	A柱 4.0t柱				壁厚1	柱方		45	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
314	108	A柱 4.0t柱				壁厚1	柱方		45	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
313	380	A柱 4.0t柱				壁厚1	柱方		45	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
78	2589	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
322	3164	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
523	3355	A柱 5.0t柱	P1			壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
307	2551	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
74	19	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
72	210	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
9:	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
228	2305	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
76	2115	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
79	2197	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
92	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
215	2148	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
215	2818	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
219	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
77	2161	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
83	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
84	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
85	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
86	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
87	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
88	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
89	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
90	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
92	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
93	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
94	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
95	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
96	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
97	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9		
220	2019	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
327	2223	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
331	2029	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
324	2079	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
326	2611	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
349	2006	A柱 5.0t柱	P1			壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
328	2605	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
316	1822	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
321	2013	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
329	2310	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	
6:	29223	A柱 5.0t柱				壁厚1	柱方		50	角鋼	5"	5"			未計測	未計測	0.9	

品番号	取扱 番号	取扱 年月	在庫 内蔵 内容	専用 機器	機 種	規格 記載	基 本	別途記載	別属性(印 刷面属性)	所 在	OB 分 割番号	産業属性	良品 (個)	総 (個)	在庫 (個)	
403	5008	HEC-7	7分釘	電動工具	電動工具	+	ルミナブルヘッド		表面に凹印打抜 や手で凹印する。表 裏は標準			外包装	未回収	0.07	0.07	
408	5003	HEC-7	7分釘	電動工具	電動工具	+	安田式					外包装	未回収	480.0	480.0	
119	3352	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	安田式	HED	HED	M119	複数部材複数 機器	未回収	未回収	2.2	2.2	
153	3619	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	安田式	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	2.2	2.2	
166	3851	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	0.8	0.8	
139	3981	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	安田式	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	3.9	3.9	
141	3999	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	1.0	1.0	
142	3999	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	安田式	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	2.0	2.0	
144	3649	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	1.9	1.9	
145	2650	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	1.2	1.2	
147	3490	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	9.7	9.7	
148	3919	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	1.5	1.5	
149	2968	HEC-8	8分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	1.0	1.0	
418	3997	HEC-8	8分釘	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	41.8	41.8	
423	3995	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	ルミナブルヘッド	HED	HED		未回収	未回収	未回収	96.8	96.8	
150	2607	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	1.7	1.7	
182	3879	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	1.4	1.4	
123	3025	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	0.7	0.7	
144	3265	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	3.2	3.2	
421	2688	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	9.7	9.7	
426	4730	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	ルミナブルヘッド	HED	HED		未回収	未回収	未回収	47.0	47.0	
431	6161	HEC-9	9分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	191.2	191.2
120	3831	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	10.2	10.2	
521	6917	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	7.6	7.6	
529	6179	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	14.3	14.3	
514	1193	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	126.7	126.7	
414	6251	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	100.1	100.1	
449	4566	HEC-9	9分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	63.6	63.6	
454	4901	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	ルミナブルヘッド	HED	HED		未回収	未回収	未回収	186.2	186.2	
459	4871	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	ルミナブルヘッド	HED	HED		未回収	未回収	未回収	68.0	68.0	
155	4413	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	2.5	2.5	
181	4526	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	3.2	3.2	
144	4556	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	92.9	92.9	
138	4825	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	9.9	9.9	
142	4526	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	0.5	0.5	
143	4526	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	0.5	0.5	
247	3602	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED	M120	複数部材複数 機器	未回収	未回収	0.7	0.7	
413	6163	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	26.7	26.7	
451	4764	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	44.8	44.8	
433	3756	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	109.4	109.4	
437	3977	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	37.4	37.4	
439	4849	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	51.0	51.0	
440	4724	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	74.9	74.9	
443	4899	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	28.5	28.5	
455	5027	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	10.8	10.8	
458	4858	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	1.7	1.7	
441	4879	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	19.6	19.6	
436	3688	HEC-10	10分釘	電動工具	電動工具	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	121.9	121.9	
453	3160	HEC-10	10分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	26.2	26.2
166	3681	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	1.0	1.0
170	3689	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	7.2	7.2
165	3554	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	3.1	3.1
177	4040	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	0.4	0.4
168	5964	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	1.0	1.0
169	5985	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	0.2	0.2
171	6001	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	0.2	0.2
170	6001	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	0.1	0.1
485	3540	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	26.0	26.0
173	6456	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	25.3	25.3
486	3755	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	29.0	29.0
167	3702	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	28.6	28.6
169	4541	HEC-11	11分釘	+	角割機	角割機	+	心臓	HED	HED		未回収	未回収	未回収	28.6	28.6

測量 順序	管路 番号	管路 区分	測量区	直角 座標	時相	路 線	路 線 距離	基 準 材 料	初期架上 高さ mm	初期高さ(作 業高さ)	用 意	00分 水位高	排水量 m³	底 点 (mm)	底 点 高 (mm)	底 点 高 (mm)		
482			A区		一相			木路	42	木ハンショウ木	H40/切 付	HD/脚				木計測 木計測	木計測 木計測	64.1
509	155	A区						木路	34	木路	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	6.5
176	86	A区						鋼管	32	鋼管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.4
177	89	A区						鋼管割片	28	鋼管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	3.3
179	207	A区						鋼管割片	28	鋼管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.4
180	230	A区						鋼管	28	鋼管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.8
181	A区				一相			鋼管	28	鋼管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	1.1
185								鋼管	32	黒鉛管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.3
189	A区				一相			鋼管割片	28	黒鉛管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.2
197								鋼管	32	黒鉛管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.2
478	208	A区						鋼管割片	28	黒鉛管	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	57.1
581	A区				一相			木ハンショウ木	42	木ハンショウ木	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	58.6
479	A区							打撃管	32	木ハンショウ木	HD	HD	土壌面なし			木計測 木計測	木計測 木計測	120.3
680	A区							打撃管	32	木ハンショウ木	HD	HD	土壌面なし			木計測 木計測	木計測 木計測	40.6
684	A区				一相			打撃管	32	木ハンショウ木	HD	HD	土壌面なし			木計測 木計測	木計測 木計測	45.9
681	A区							打撃管	32	木ハンショウ木	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	56.0
474	6	A区						鉄管	28	鉄管	x	x	地面に敲打			木計測 木計測	木計測 木計測	63.1
475	161	A区						鉄管	32	黒鉛管	x	x	地面に敲打			木計測 木計測	木計測 木計測	147.7
598	A区				一相			自走機	28	自走機	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	52.3
599	3226	BS区						内筒	42	カランシングル	HD/ドット	HD	あらかじめ測定外			木計測 木計測	木計測 木計測	211.6
626	3418	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし	計測面測定外			木計測 木計測	木計測 木計測	113.1
590	3515	BS区						内筒	32	内筒	12	HD				木計測 木計測	木計測 木計測	93.0
193	2110	BS区						内筒	32	内筒	12	HD				木計測 木計測	木計測 木計測	0.9
199	BS区				一相			内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.6
599	B区							内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.6
599	B区							二重壁上部	40	二重壁	x	x	土質と水・削面の水 割れなし			木計測 木計測	木計測 木計測	57.8
398	2058	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	1.3
790	3271	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.1
391	3278	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし	削面なし			木計測 木計測	木計測 木計測	2.4
792	3581	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	1.1
394	3580	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.7
395	3581	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.3
196	3582	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.3
197	3583	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.5
199	3584	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.2
505	4600	BS区						内筒	32	内筒	なし	なし	打撃管と・軸部の水 割れなし			木計測 木計測	木計測 木計測	151.4
487	1024	BS区						打撃管	32	打撃管	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	38.8
488	2321	BS区						打撃管	32	打撃管	x	x	波形			木計測 木計測	木計測 木計測	58.0
494	3566	BS区						内筒下部	32	内筒	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	67.5
495	3567	BS区						内筒下部	32	内筒	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	68.9
496	3415	BS区						内筒下部	32	内筒	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	42.5
497	3443	BS区						内筒下部	32	内筒	HD	HD	上端面なし			木計測 木計測	木計測 木計測	78.9
498	3511	BS区						内筒下部	32	内筒	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	229.2
302	3522	BS区						内筒部分	32	内筒	HD	HD	上端面なし			木計測 木計測	木計測 木計測	37.3
302	3523	BS区						内筒部分	32	内筒	HD	HD	上端面なし			木計測 木計測	木計測 木計測	55.3
304	3524	BS区						内筒部分	32	内筒	HD	HD	上端面なし			木計測 木計測	木計測 木計測	22.1
306	3525	BS区						内筒部分	32	内筒	HD	HD	万能久保			木計測 木計測	木計測 木計測	35.0
307	3526	BS区						内筒部分	32	内筒	HD	HD	万能久保			木計測 木計測	木計測 木計測	20.3
472	8991	BS区	1巻					内筒加工片	32	内筒	HD	HD	西脇の裏面か 枝か			木計測 木計測	木計測 木計測	204.8
174	3277	BS区	1巻					内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.4
175	BS区	1巻	一相					内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	0.7
471	3594	BS区	1巻					内筒	32	内筒	なし	なし				木計測 木計測	木計測 木計測	25.9
470	3783	BS区	1巻					内筒各部	32	内筒	HD	x	右側半分・削面の水 割れなし			木計測 木計測	木計測 木計測	256.1
475	6060	BS区	1巻					内筒	32	内筒	x	x	右側半分の水割 れなし			木計測 木計測	木計測 木計測	920.1
516	6536	BS区						内筒	32	内筒	HD	nf				木計測 木計測	木計測 木計測	66.1
513	244	BS区						二重壁上部	32	取付	HD	x	内筒・軸部外との水 割れなし			木計測 木計測	木計測 木計測	39.6
514	257	BS区						内筒	32	内筒	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	81.9
510	2	BS区						内筒	32	内筒	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	28.1
512	42	BS区						内筒	32	内筒	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	28.0
514	339	BS区						内筒	32	内筒	HD	HD	万能大穴			木計測 木計測	木計測 木計測	25.2

第6表 器種記号一覧表

器種	器種記号	器種	器種記号	器種	器種記号
凹基鏃	a1	両極石器	f	磨製石斧	k
石鏃	a2	精製二次加工剥片	g1	円盤状石器・礫器	o
石錐	b	粗製二次加工剥片	g2	叩石	p
石匙	c	精製石核	h1	凹石+叩石	q
精製削器	d1	粗製石核	h2	凹石	r
粗製削器	d2	精製剥片	l1	加工礫	s
精製使用痕剥片	e1	粗製剥片	l2	石皿・台石	t
粗製使用痕剥片	e2	打製石斧	j	自然礫	u

第7表 黒曜石製石器の組成表

遺構名	a1	a2	d1	e1	f	g1	h1	l1	総計	総重量
1号住	1				4	4	3	1	15	57.2g
2号住					1	3	2		15	23.7g
3号住					1	4	1	1	11	44.8g
4号住		1	1			1		1	2	6
5号住		1				3		4	15	23
6号住			1	3	1		1	3	13	54.6g
7号住	1				1	1			16	29.5g
8号住						2		1	8	11
9号住					1				4	5
10号住	2				1	2		1	4	10
11号住						1		1	5	7
7号土坑									1	1
1号溝									1	0.8g
総計	4	2	1	12	22	7	13	110	172	361.6g

※住居出土の総重量

調査区名	a1	a2	d1	e1	f	g1	h1	l1	総計	総重量
A区	2			1	1				9	13
B区						2			11	13

第8表 石器組成表

遺構名	時 期	a1	a2	b	c	d1	d2	e1	e2	f	g1	g2	h1	h2	i1	i2	j	k	o	p	q	r	s	t	u
6号住	井戸尻木			1		1	2	3	2	1			3		14	2	16	1		1	1	2		2	
11号住	井戸尻末			1				1					1		6	1	2	1						1	
3号住	曾利 I				3	1	1	4	1	1	2			12	3	13	1	4		4				1	
5号住	曾利 I	2		1		11	1	3		1	7			15		16			5	2	4	1	5	7	
10号住	曾利 I	2				8	1		2		2	1			5	3	9	1		1		3	1		2
7号住	曾利 I	1					1		1		1	3			18	2	19	1		4		3			1
1号住	曾利 I ~ II	2				5	1		5	3	1	3			17	4	12	1	3		2		2	2	
2号住	曾利 II					3	1		3	2					15		13	1	3	3	2		2	1	
9号住	曾利 II			1		2	1	1							1	4	4	5				2	1	4	
4号住	時期不明	1						1			1	1			2	1							1		
8号住	時期不明						2			2				1	1	1	8						1		
2号土坑	曾利 II																							2	
6号土坑	時期不明																							1	
7号土坑	時期不明																								
16号I坑	曾利 II																								1

調査区名	a1	a2	b	c	d1	d2	e1	e2	f	g1	g2	h1	h2	i1	i2	j	k	o	p	q	r	s	t	u
A区		2			1	3	1					1		9	2	4	1	2					2	
B区	1				4		2				1	1	11	1	17			1					1	

第4章 調査の成果と課題

今回の調査で、縄文時代中期後半の集落跡が発見された。以下、注目される成果と課題について述べていく。

1. 出土土器について

出土土器のほとんどが縄文時代のものであった。縄文土器では、早期の楕円押型土器、前期の木葉文をもつ諸磯a式・ボタン状貼付文の諸磯c式、中期の猪沢式・新道式・藤内式・井戸尻式・曾利式・加曾利E2式・梨久保B土器、後期の称名寺式が出土している。断続的に早期～後期まで出土しており、木遺跡が長い間利用されていたことが分かる。

遺構を伴って出土したのが井戸尻式末～曾利II式である。特に曾利I式～曾利II式の出土量が多かった。以下、代表的な各時期の土器をみていく。

井戸尻式期末は井戸尻式の最後の段階で、曾利I式に近い土器が伴うので曾利I式直前段階ともいえる。楕円区画文をもつもの（6号住 5459、11号住 6013）や大形把手付土器（11号住 6016）、ヘビ状把手（11号住 6078）の他に、曾利I式の長胴甕に続く土器（5号住 2922、6号住 4798他）がある。2922は、胴部の地文と文様は曾利I式といえるが、胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる器形や、口縁部の異形満巻文突起とW字状文が曾利I式とは異なる。6号住 4798・5398は、条線地文であり、口縁部無文で胴部が直立する曾利I式の特徴を備えているが、棒状工具による1本引きの条線、口縁部の強い屈曲、刻みのない隆線での胴部文様等、異なる点がある。

曾利I式は数多く出土している。3号住・5号住・6号住・10号住からの出土が多い。曾利I式は古段階と新段階の2期に分けられる。

曾利I式古段階は、長胴甕（3号住 1328・1567、5号住 2164・2269・2934、6号住 3158・5209・4639・5068・3364、10号住 4286等）や渦巻把手付土器（1号住 1752、5号住 2090・2642・2927・2941、10号住 4176等）がある。半截竹管内皮による条線、刻みをもつ隆線による文様、渦巻文がつく等の共通点がある。口縁部が内湾するものの他に、直線的に開くものも多い。渦巻把手は、破片状態ではあるが比較的多い。

曾利I式新段階は、長胴甕（1号住 690、5号住 207、7号住 5710）や渦巻把手付土器（5号住 3023他・7号住 6121他）がある。長胴甕は口縁部が広がり、胴部が張り出してくる。7号住 5710は、文様は長胴甕のものといえるが、器形は曾利II式以降によくみられる口縁部

につなぎ文ももつ土器に近い。渦巻把手付土器は、3～4本の隆線で文様を描くものが多くなる。波状粘土紐を貼り付けるものが多くなる。

曾利II式は、口縁部に渦巻つなぎ弧文をもつもの（1号住 3095、2号住 1456・289・1665、9号住 3577）やX字状把手付深鉢（1号住 7007、2号住 2833他）がある。口縁部につなぎ文をもつ土器が現れ、縄文の地文が多用される。加曾利E2式（2号 413）が共伴する。

以上が主要な出十器の概観である。曾利I式古段階の土器が多いことが本遺跡の特徴といえよう。

土器以外の上製品では、台形土器が1点、土偶2点、耳鉾3点、土鈴1点、杓子形土製品1点が出土している。拠点的な大集落でない本遺跡において出土数は少ないが、種類は比較的揃っている。

2. 縄文時代中期後半の集落について

縄文時代中期後半の集落が発見された。時期は井戸尻式期末～曾利II式期で、比較的短期間に營まれた集落といえる。市道建設工事に伴う発掘調査なので、集落全体を調査したわけではないが、その中央をトレンチ調査したようなものであり、ある程度の集落の様相を把握できたと思われる。

集落は、河岸段丘の平坦面の中にある微高地につくられている。調査区のA区・B区にそれぞれ住居群があり、それは微高地の頂部を挟んで位置する。微高地頂部を中心広場とし、それを囲うように住居が配置される環状集落と考えられる。集落の直径は約100mと推定される。遺構の変遷は以下の通りである（第56図）。なお、詳細時期の不明な4号住と8号住は除いている。

井戸尻式期末の住居跡は、6号住・11号住の2軒である。集落の東側（B区）のみ発見された。6号住は集落の一一番東側にあり、やや強い傾斜面に位置する。集落の西側に当該期の住居跡が発見されていないので断定は出来ないが、直徑約100mの集落であったと思われる。

曾利I式期の住居跡は、1号住・3号住・5号住・7号住・10号住の5軒である。集落の西側（A区）に3軒、東側（B区）に2軒である。両区とも各住居の位置が近いように思われるが、出土土器で時期を細分してみると、曾利I式古段階は3号住・5号住・10号住の3軒、曾利I式新段階は1号住・7号住の2軒となり、隣の住居との距離が近いのは3号住と10号住だけになる。集落の直径は約90mであろう。

曾利II式期の住居跡は、1号住・2号住・9号住の3軒である。集落の西側（A区）に2軒、東側（B区）に

1軒である。1号住は前時期から続いている。出土土器をみると、この時期は曾利II式期でも古段階といえる。集落の直径は約70mであろう。

以上が遺構の変遷である。本遺跡の集落は、各住居跡の重複関係が少ない。11号住が7号住と8号住に切られていれば、重複関係はない。比較的短期間の集落で、住居跡が数多く作られなかつたためであろう。

各時期の集落の直径は、井戸尻式期末約100m、曾利I式期約90m、曾利II式期約70mである。集落の大きさが時代を下るにつれ狭くなっている。酒呑場遺跡の中期前半の集落で、五領ヶ台式期の住居跡が環状集落の外側に、井戸尻式期の住居跡が内側に位置し、時代が下るにつれ集落の直径が小さくなる傾向があった。それと同じ傾向が、中期後半前半期でも確認できた。

住居の出入口は、全時期を通じて南～東側にある。特に南東方向が多い。埋甕がある住居跡はそこが、ないものは炉の位置の反対側を出入口と想定している。5号住が東側にあり他と少し異なるが、他はほとんどが南～南東方向にある。曾利I式期では1号住・3号住・7号住・10号住が南南東方向に、曾利II式期では2号住・9号住が南東方向に山口があり、各時期で出入口方向がほぼ揃っている。朝口の上の方角であるためか、集落の出入口が南東方向にあったためなのか、さまざまな理由が考えられるが、この集落は南東方向を意識して住居を建てているといえる。

今回調査した範囲では、1坑が少なかった。確実に時期の判断できる土坑は2号土坑と16号土坑の2基だけであった。時期不明なもの含めても全部で21基と少なく、内側に土坑群が配される集落とは異なる。

以上が本遺跡の縄文時代中期後半集落の特徴である。

3. 住居の形態について

各時期の住居形態は様々である。全体を調査できた住居跡からその特徴を述べる。

井戸尻式期末は、5本柱の中形の住居である。炉は小～中礎で構成される石畳炉で、形態は円形であるが南側の一部に礎は置かれていらない。埋甕はない。

曾利I式期は、6本柱が基本の大形住居である。建替えられたものが多く、3号住は6本柱から4本柱へ、5号住は6本柱から7本柱へと様々である。がは礎のないものもある（3号住・10号住）が、礎のあるものは扁平の大形礎を円形や長方形に平置きにする（5号住・7号住）。炉以外に焼土をもつものが多い（3号住・5号住）。住

居中央に柱穴と思われるピットをもつものがある（5号住・10号住）。埋甕はない。

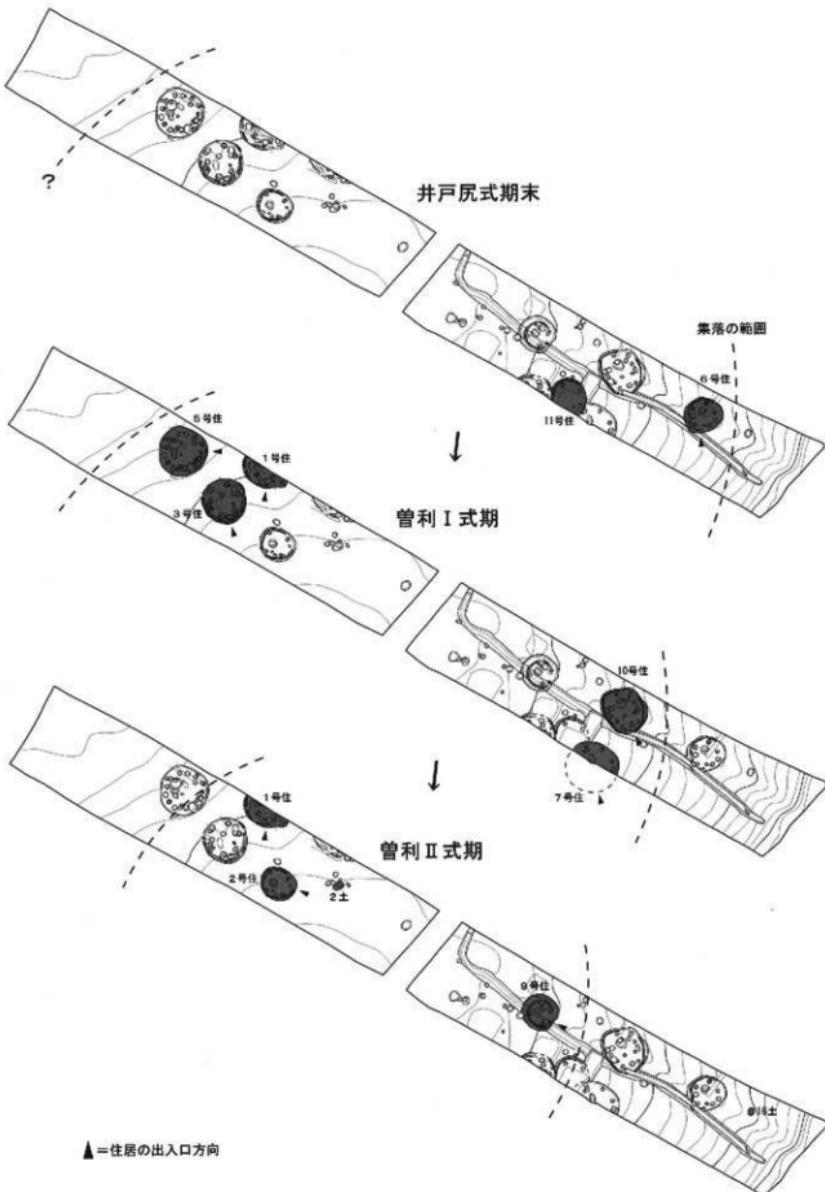
曾利II式期は、4本柱の小形住居である。炉は扁平の大形礎を平置きするもの（2号住）と、扁平の大形礎を掘り込み内に立てるもの（9号住）がある。2号住に埋甕はなく、9号住には埋甕が埋設される。2号住は前段階の伝統を引き継ぐがをもち埋甕がないので、9号住よりも時期的に先行する可能性がある。9号住は、扁平礎を立てるがであり、埋甕を埋設するので曾利I式期後半によくみられる住居形態である。

以上が本遺跡の各時期における住居形態の特徴である。井戸尻式期は6～7本柱で5～6個の平石を円形に巡らした右円炉、曾利I式期は7本柱で5～6個の礎を円形や多角形の石円炉、曾利II式期は4～7本柱で5～6個の石を組んだ石組炉や4枚の石で組んだ方形石組炉が多いなど、山梨県内における各時期の住居形態の傾向がある（櫛原1999）。本遺跡では、井戸尻式期末は5本柱、曾利I式期は6本が基本の5～7本柱、曾利II式期は4本柱で、県内の傾向と比べると、柱穴配置は少し異なるが、炉の形態は同じといえる。

今回の調査で、本遺跡における縄文時代中期後半の集落の様相がみえてきた。今後周辺の同時期の集落や八ヶ岳南麓の集落と比較しながら、釜無川流域の縄文集落像を解明していきたい。なお、紙面の都合上、各遺構の遺物出土状況が図示できなかった。井戸尻式期末～曾利II式期という比較的短期間に営まれた集落において、より詳細な時期を判断するために遺物出土状況は欠かせないものであるが、それを提示できなかつたことを心苦しく思う。機会があればどこかで報告できればと考えている。

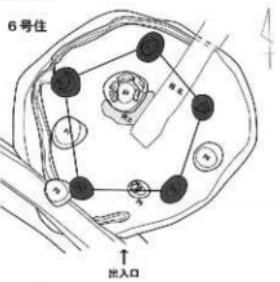
参考文献

- 白州町1986『白州町誌』
白州町教育委員会1985『根古屋遺跡』
白州町教育委員会1991『屋敷平遺跡』
白州町教育委員会1997『川苔原小学校遺跡』
白州町教育委員会1999『古御所東遺跡』
北杜市教育委員会2006『北杜市埋蔵文化財調査報告第16集
星敷平遺跡 第2次調査』『北杜市文化財年報－平成17
年度－』
高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団1997『社口遺跡第
3次調査報告書』
櫛原功一1999『第3章 住居と集落 2 縄文時代の住居と集
落』『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物）
櫛原功一2001『堅穴住居構造論』『山梨県考古学協会誌』
第12号 山梨県考古学協会

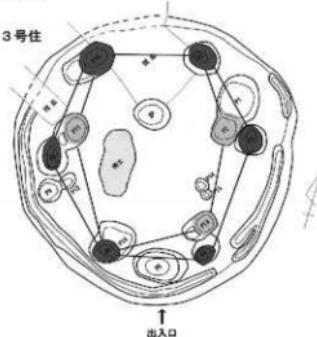


第56図 遺構変遷案

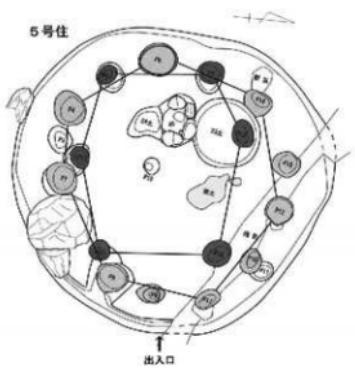
井戸戻式期末



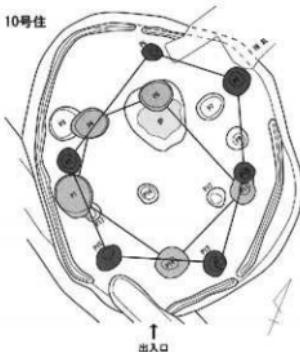
曾利Ⅰ式期



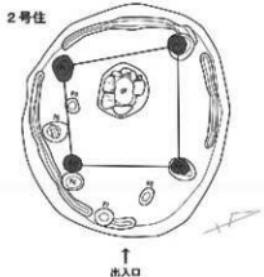
5号住



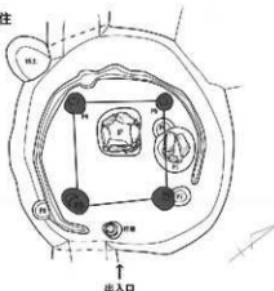
10号住



曾利Ⅱ式期



9号住



0 0 : 100 50

第57図 各時期の住居形態

附編 大久保遺跡出土黒曜石産地分析 推定結果

黒曜石産地分析は、㈱アルカを通して沼津工業高等専門学校の望月明彦氏に分析していただいた。以下、分析方法の概要を記す。

分析法 エネルギー分散蛍光X線分析法(EDX)

分析装置 セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光X線分
析計 SEA-2110L

分析条件 管電圧 50kV 管電流 自動設定
測定時間 240sec 雰囲気 真空
照射径 10mm

検出器 Si(Li) 半導体検出器

測定元素 Al(アルミニウム)、Si(ケイ素)、K(カリウム)
Ca(カルシウム)、Ti(チタン)、Mn(マグン)、
Fe(鉄)、Rb(リビウム)、Sr(ストロンチウム)
Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)

分析法の特徴

長所 非破壊分析 多元素同時分析

前処理不要→洗浄は必要

迅速分析 操作が簡単

短所 微量分析は不得意

表面分析

→試料を破壊せずに測定するため、分析結果は表面を測定したことになる。
→そのため、汚れた試料、風化した試料は汚れ、風化を測定したことになり、正確でない。

類似した組成の標準試料が必要

試料の洗浄 5分間(汚れがひどい場合は15分間)超音波洗浄器で洗浄。

さらに汚れを拭き取ってから測定。

※試料は破壊せずに分析できますが、以下のようないくつかの試料は分析できません。

測定不可能な試料

- ・風化した試料→割ることが可能ならば、できます。
- ・汚れがとれない試料→割ることが可能ならば、できます。
- ・厚さが1mm以下の試料
- ・大きさ5mm以下の試料
- ・遺物番号などの書き込みで測定できる面がない試料
- ・産地推定可能な石材(上記の条件をクリアしていれば、以下の分析ができます。)

・現在は黒曜石(日本全国)と下呂石

・ガラス質安山岩は分類可能。

ただし、原石データが不足しているため、産地推定是不可能。現在、原石データを収集中

・その他の石材(特に堆積岩)は分類不可能。

産地推定法 得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表すとする。

二つの方法とも以下の指標を用いる。

指標 $\text{Sum} = \text{Rb} + \text{Sr} + \text{Y} + \text{Zr}$ とする。

Rb 分率 = Rb/Sum Sr 分率 = Sr/Sum

Zr 分率 = Zr/Sum Mn*100/Fe

$\log(\text{Fe}/\text{K})$

産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。

測定結果から上記の指標を算出する。

以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で産地推定を行う。

①判別図法(判別図のシート参照)

用いる指標 図1 横軸: Rb 分率、縦軸: Mn/Fe

特長 簡単な計算であり、誰にでも作成可能
視覚的に確認でき、分かりやすい。

推定方法 遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった原石産地を推定結果とする。

②判別分析(推定結果表参照)

用いる指標 算出された指標全て

特長 各産地との類似度を距離で算出
既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。

→未知の産地の判別はできない。

判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。

この産地は試料と2次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。

試料と最も距離(マハラノビス距離)が近い産地を推定結果とする。

この距離から、各産地に属する確率を計算する。

第9表 大久保遺跡出土黒曜石製器产地推定結果

判別図法・判別分析からの最終推定結果

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

分析番号	管理番号	遺物記号	推定产地	判別図法による推定結果			
				判別図法別群		判別分析	
				第1候補地	第2候補地	判別群	距離
KOK-1	5	589	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	111.21
KOK-2	8	618	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	127.95
KOK-3	13	2355	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	78.87
KOK-4	19	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	14.28
KOK-5	22	1分住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	105.9
KOK-6	59	1694	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	75.34
KOK-7	76	4分住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	147.8
KOK-8	80	2597	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	72.82
KOK-9	98	1438	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	90.51
KOK-10	103	4916	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	107.41
KOK-11	106	5020	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	66.1
KOK-12	109	5155	和田山層内群	WDTN	WDTN	WDTN	42.61
KOK-13	113	5849	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	112.25
KOK-14	117	6号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	86
KOK-15	122	5388	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	111.89
KOK-16	123	5506	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	46.95
KOK-17	161	3826	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	99.78
KOK-18	157	4901	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	73.56
KOK-19	159	10分住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	55.64
KOK-20	160	10月住一柄	和田山層内群	WDTY	WDTY	WDTY	24.87
KOK-21	164	10号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	105.94
KOK-22	172	2407	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	80.76
KOK-23	178	189	和田山層内群	WDTY	WDTY	WDTY	21.9
KOK-24	181	368	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	77.25
KOK-25	182	1856	和田山層内群	WDTY	WDTY	WDTY	15.44
KOK-26	183	A区一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	0.0018
KOK-27	188	3222	和田山層内群	WDTY	WDTY	WDTY	26.23
KOK-28	1	112	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	145.56
KOK-29	2	399	和田山層内群	WDTY	WDTY	WDTY	30.03
KOK-30	3	496	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	76.78
KOK-31	4	384	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	87.18
KOK-32	6	605	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	93.83
KOK-33	7	611	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	63.78
KOK-34	9	835	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	87.4
KOK-35	10	836	和田山層内群	WDTY	WDTY	WDTY	36.5
KOK-36	11	1128	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	93.41
KOK-37	12	1647	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	98.51
KOK-38	14	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	91.33
KOK-39	15	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	101.1
KOK-40	16	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	89.05
KOK-41	17	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	67.93
KOK-42	18	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	98.96
KOK-43	20	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	89.75
KOK-44	21	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	79.36
KOK-45	23	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	92.12
KOK-46	24	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	110.5
KOK-47	25	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	120.41
KOK-48	26	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	36.21
KOK-49	27	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	71.29
KOK-50	28	1号住一柄	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	71.58
KOK-51	29	78	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	84.54
KOK-52	30	410	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	64.11
KOK-53	31	468	津井島尾島島群	KZOB	KZOB	KZSN	56.42
KOK-54	32	644	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	91.12
KOK-55	33	748	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	78.66
KOK-56	34	846	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	83.8
KOK-57	35	860	諫訪屋ヶ台群	TSTY	TSTY	TSHG	16.9
KOK-58	36	1110	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	98.42
KOK-59	37	1168	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	113.32
KOK-60	38	1283	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	57.1
KOK-61	39	1462	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	WDTN	91.49
KOK-62	40	1581	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	93.93
KOK-63	41	1614	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	117.11
KOK-64	42	1615	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	67.53
KOK-65	43	1624	諫訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	SWBY	87.47

分析番号	管理番号	遺物注記	推定产地	判別群	判別分析					
					第1候補产地 判別群	距離	確率	第2候補产地 判別群	距離	確率
KOK-66	44	1624	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	15.56	1	WDTN	90.08	0
KOK-67	45	1662	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	12.51	1	SHTY	55.32	0
KOK-68	46	1675	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.86	1	SHTY	117.03	0
KOK-69	47	1742	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.85	1	WDTN	96.95	0
KOK-70	48	1770	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	4.58	1	SHTY	71.7	0
KOK-71	49	2号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	2.53	1	SHTY	92.03	0
KOK-72	50	134	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	6.58	1	SHTY	67.56	0
KOK-73	51	158	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	4.14	1	SHTY	66.64	0
KOK-74	52	167	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	10.36	1	SHTY	95.46	0
KOK-75	53	162	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	9.5	1	SHTY	51.3	0
KOK-76	54	881	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	6.23	1	SHTY	91.32	0
KOK-77	55	1285	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	11.88	1	SHTY	39.6	0
KOK-78	56	1442	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	10.71	1	WDTN	76	0
KOK-79	57	1443	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	5.54	1	SHTY	116.25	0
KOK-80	58	1448	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	4.61	1	SHTY	61.5	0
KOK-81	60	1781	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	11.07	1	SHTY	111.93	0
KOK-82	61	2184	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	1.28	1	SHTY	108.5	0
KOK-83	62	3号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	10.82	1	SHTY	81.72	0
KOK-84	63	3号住一芯	神津島鬼怒島馬鹿	KZOB	KZOB	8.42	1	KZSN	58.69	0
KOK-85	64	3号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	9.46	1	SHTY	123.16	0
KOK-86	65	3号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	2.15	1	SHTY	81.96	0
KOK-87	66	3号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.73	1	WDTN	88.7	0
KOK-88	67	3号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.23	1	SHTY	78.64	0
KOK-89	68	4号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	12.6	1	SHTY	132.97	0
KOK-90	69	4号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	11.1	1	SHTY	68.27	0
KOK-91	71	4号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	8.92	1	SHTY	100.81	0
KOK-92	72	4号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	2.46	1	SHTY	108.27	0
KOK-93	73	4号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	4.82	1	SHTY	58.24	0
KOK-94	74	19	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	11.58	1	SHTY	74.63	0
KOK-95	75	210	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	2.54	1	SHTY	72.38	0
KOK-96	76	2145	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	14.28	1	SHTY	94.39	0
KOK-97	77	2161	神津島鬼怒島馬鹿	KZOB	KZOB	10.45	1	KZSN	54.4	0
KOK-98	78	2259	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	10.46	1	SHTY	66.68	0
KOK-99	79	2417	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.86	1	SHTY	84.66	0
KOK-100	82	5号住一芯	和田山群	WDTY	WDTY	2.88	1	WDHY	22.44	0
KOK-101	83	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	5.94	1	SHTY	91.34	0
KOK-102	84	5号住一芯	神津島鬼怒島鳥群	KZOB	KZOB	4.57	1	KZSN	63.06	0
KOK-103	85	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.7	1	WDTN	111.71	0
KOK-104	86	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.89	1	SHTY	94.21	0
KOK-105	87	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	13.3	1	SHTY	107.11	0
KOK-106	88	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	2.81	1	SHTY	97.43	0
KOK-107	89	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	14.68	1	SHTY	88.29	0
KOK-108	90	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	11.21	1	SHTY	109.39	0
KOK-109	91	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	4.27	1	WDTN	109.25	0
KOK-110	92	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	9.16	1	SHTY	131	0
KOK-111	93	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	7.82	1	SHTY	94.99	0
KOK-112	94	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	7.92	1	SHTY	110.62	0
KOK-113	95	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	0.77	1	SHTY	99.64	0
KOK-114	96	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	1.04	1	SHTY	86.72	0
KOK-115	97	5号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	10.38	1	WDTN	96.65	0
KOK-116	99	4439	和田山群	WDTY	WDTY	0.91	1	WDHY	26.74	0
KOK-117	100	4454	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	5.85	1	SHTY	108.75	0
KOK-118	101	4459	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.52	1	SHTY	85.04	0
KOK-119	102	4612	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	7.97	1	SHTY	49.58	0
KOK-120	104	4953	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	1.31	1	SHTY	69.54	0
KOK-121	105	5012	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	0.25	1	SHTY	81.9	0
KOK-122	107	5144	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.53	1	SHTY	98.48	0
KOK-123	108	5151	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.71	1	SHTY	78.48	0
KOK-124	110	5178	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	4.1	1	SHTY	73.19	0
KOK-125	111	5232	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	11.08	1	SHTY	73.77	0
KOK-126	112	5238	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	3.33	1	SHTY	71.28	0
KOK-127	113	5240	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	8.87	1	SHTY	81.22	0
KOK-128	114	5708	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	5.66	1	WDTN	78.33	0
KOK-129	116	5850	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	7.3	1	WDTN	87.07	0
KOK-130	118	6号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	1.56	1	SHTY	109.24	0
KOK-131	119	6号住一芯	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	8.32	1	SHTY	114.12	0
KOK-132	120	3454	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	10.33	1	WDTN	75.34	0
KOK-133	121	5285	諭訪原ヶ台群	SWHD	SWHD	10.58	1	SHTY	55.63	0

分析番号	管理番号	遺物記述	推定産地
KOK-134	124	5517	諭訪星ヶ台群
KOK-135	123	5534	諭訪星ヶ台群
KOK-136	126	5621	諭訪星ヶ台群
KOK-137	127	5850	諭訪星ヶ台群
KOK-138	128	5822	諭訪星ヶ台群
KOK-139	129	5870	諭訪星ヶ台群
KOK-140	130	5890	和田鷹山群
KOK-141	131	5904	諭訪星ヶ台群
KOK-142	132	7号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-143	133	7号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-144	134	7号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-145	135	7号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-146	136	7号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-147	137	7号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-148	138	7号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-149	139	3551	諭訪星ヶ台群
KOK-150	140	3562	諭訪星ヶ台群
KOK-151	141	3556	諭訪星ヶ台群
KOK-152	142	3559	諭訪星ヶ台群
KOK-153	143	3619	諭訪星ヶ台群
KOK-154	144	3649	諭訪星ヶ台群
KOK-155	145	3650	諭訪星ヶ台群
KOK-156	146	3651	諭訪星ヶ台群
KOK-157	147	3890	諭訪星ヶ台群
KOK-158	148	3919	諭訪星ヶ台群
KOK-159	149	3908	諭訪星ヶ台群
KOK-160	150	3607	諭訪星ヶ台群
KOK-161	152	3879	諭訪星ヶ台群
KOK-162	153	3935	諭訪星ヶ台群
KOK-163	154	4366	諭訪星ヶ台群
KOK-164	155	4413	諭訪星ヶ台群
KOK-165	156	4826	諭訪星ヶ台群
KOK-166	158	10分住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-167	161	10号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-168	162	10分住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-169	163	10号住一柄	諭訪星ヶ台群
KOK-170	165	3561	諭訪星ヶ台群
KOK-171	166	3581	諭訪星ヶ台群
KOK-172	167	4046	諭訪星ヶ台群
KOK-173	168	5984	諭訪星ヶ台群
KOK-174	169	5985	諭訪星ヶ台群
KOK-175	170	6089	諭訪星ヶ台群
KOK-176	171	6091	諭訪星ヶ台群

判別因別群	判別分析					
	第1候補産地		第2候補産地			
判別群	距離	確率	判別群	距離	確率	
SWHD	SWHD	5.99	SBY	86.75	0	
SWHD	SWHD	1.36	SBY	110.08	0	
SWHD	SWHD	5.07	WDTN	86.82	0	
SWHD	SWHD	13.77	SBY	41.86	0	
SWHD	SWHD	2.16	SBY	80.46	0	
SWHD	SWHD	5.2	SBY	114	0	
WDTY	WDTY	5.73	0.9804	WDTY	11.13	0.0192
SWHD	SWHD	7.2	WDTN	108.59	0	
SWHD	SWHD	9.8	SBY	73.71	0	
SWHD	SWHD	4.33	WDTN	92.29	0	
SWHD	SWHD	4.82	SBY	77.4	0	
SWHD	SWHD	8.57	SBY	113.02	0	
SWHD	SWHD	8.2	SBY	97.7	0	
SWHD	SWHD	4.99	SBY	85.87	0	
SWHD	SWHD	4.58	SBY	74.05	0	
SWHD	SWHD	0.4	SBY	89.16	0	
SWHD	SWHD	7.41	SBY	76.47	0	
SWHD	SWHD	14.67	SBY	143.12	0	
SWHD	SWHD	6.55	SBY	125.66	0	
SWHD	SWHD	1.94	SBY	111.81	0	
SWHD	SWHD	4.97	SBY	62.34	0	
SWHD	SWHD	5.8	SBY	60.94	0	
SWHD	SWHD	3.27	SBY	119.73	0	
SWHD	SWHD	9.12	SBY	56.41	0	
SWHD	SWHD	11.54	WDTN	122.87	0	
SWHD	SWHD	9.76	SBY	77.81	0	
SWHD	SWHD	1.07	SBY	78.56	0	
SWHD	SWHD	2.69	SBY	89.86	0	
SWHD	SWHD	6.86	SBY	105.57	0	
SWHD	SWHD	15.02	WDTN	89.68	0	
SWHD	SWHD	6.72	WDTN	129.47	0	
SWHD	SWHD	4.62	SBY	71.01	0	
SWHD	SWHD	9.9	SBY	142.4	0	
SWHD	SWHD	2.41	SBY	97.37	0	
SWHD	SWHD	5.31	SBY	55.76	0	
SWHD	SWHD	2.64	SBY	100.3	0	
SWHD	SWHD	3.73	SBY	89.89	0	
SWHD	SWHD	9.21	WDTN	106.52	0	
SWHD	SWHD	8.11	SBY	68.82	0	
SWHD	SWHD	3.34	WDTN	103.03	0	
SWHD	SWHD	2.62	SBY	73.18	0	
SWHD	SWHD	2.93	SBY	103.84	0	
SWHD	SWHD	2.47	SBY	80.51	0	

推定結果表の見方

右側の表

判別因別群：判別法によって推定された産地　判別分析と結果が異なるときは“*”をつけて示す。

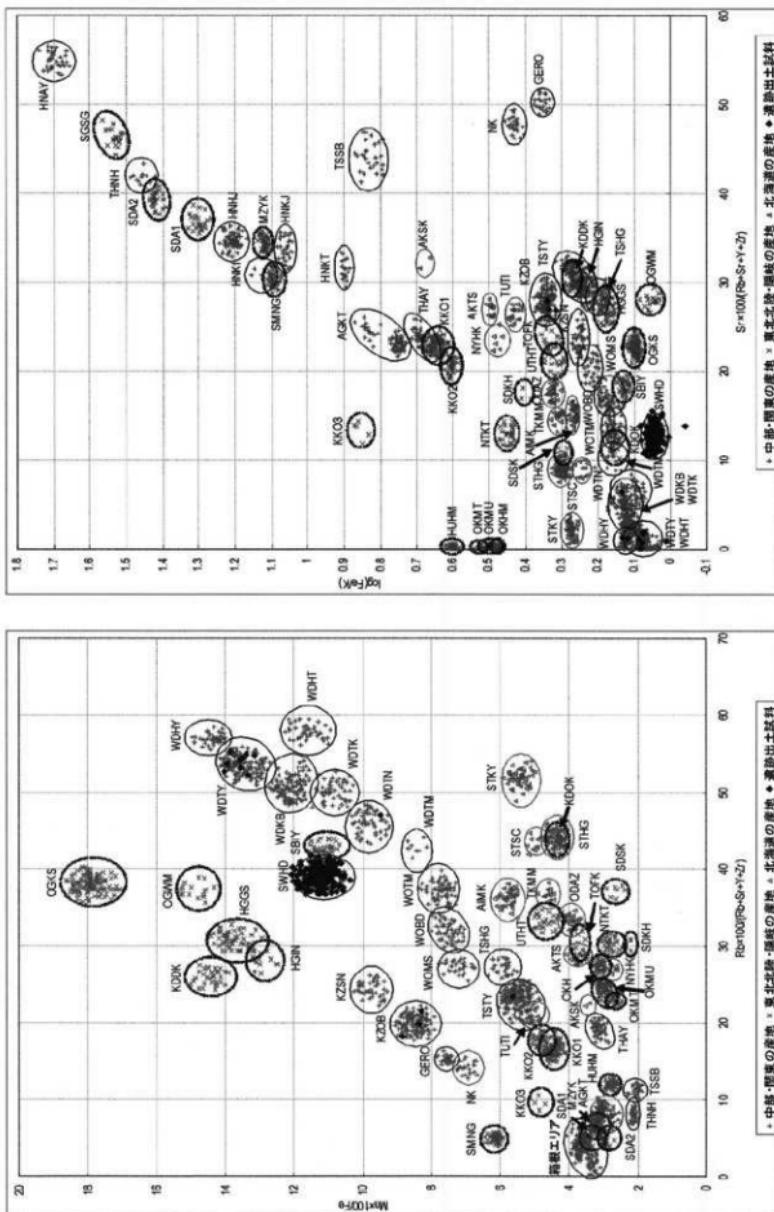
判別分析：第1候補産地→判別分析により推定された産地の第1候補

第2候補産地→判別分析により推定された産地の第2候補

判別群　被検産地記号 → 判別因法による産地と通常は一致する。

距離　試料から被検産地までのマハラビス距離 → 距離が小さいほど被検産地と類似性が高い。

確率　試料が被検産地に属する確率 → 1に近いほど類似性が高い。



第58図 黒曜石の産地別図

第59回 早雲石の薙柳判別

第19表 進路図に用いた産地原石を別群



第60図 東日本の里謫石産地

第11表 太久保遺跡出土墨曜石焼地組成

エリア	判断基準	記号	試験数	%
和田(WU)	ブドウ式	WORD	0	0
	桔子式	WOMS	0	0
	高松式	WOTM	0	0
	愛媛式	WDHY	0	0
	鹿児島	WDTY	9	5.11
和田(WD)	小保沢	WDNB	0	0
	七尾形化	WDTK	0	0
	土尻形	WDTN	1	0.87
	上屋形	WDTM	0	0
	古町	WDHT	0	0
鹿児島	足ヶ台	SWID	161	91.48
鹿児島	赤山	TSTY	1	0.57
	双子山	TSIG	0	0
	鶴巣山	TSSB	0	0
大城	越前1	AGKT	0	0
宮崎	須佐	HNU	0	0
	詫治難	HNSK	0	0
	黒島原	HNSI	0	0
宮崎	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ瀬	HNAY	0	0
	枕崎島	KZOB	4	2.27
沖縄島	砂蔵崎	KZSN	0	0
高原山	占波山	THAY	0	0
	七島火	THINJ	0	0
	金井	NIKT	0	0
新津	板山	SHRY	0	0
新発山	八森山	HURM	0	0
深瀬	出来島	KDNK	0	0
男鹿	串ヶ崎	OGKS	0	0
	鶴木	OGWM	0	0
	月山川	HGCS	0	0
羽黑	今野川	HGIN	0	0
北上川	折居1群	KKO1	0	0
	折居2群	KKO2	0	0
	折居3群	KKO3	0	0
宮崎	瀬ノ口	MZYK	0	0
仙台	秋保1群	SDA1	0	0
	秋保2群	SDA2	0	0
	尻原	SMNG	0	0
色麻	庵庭海岸	SCSG	0	0
小泊	折橋内	KDOK	0	0
	東月上野	UTHT	0	0
	高岡	TOHK	0	0
佐渡	夷光寺	SDSK	0	0
	金井二ツ坂	SDKG	0	0
	久見	OKJM	0	0
福岡	岡崎区	OKMI	0	0
	筑紫	OKMU	0	0
	糸分川	STHG	0	0
白滝	黒煙の火	STKV	0	0
	赤石山原	STSC	0	0
	赤井川河	AIMK	0	0
秋田川	曲川	TUTI	0	0
	奥飛	ODAZ	0	0
	露戸	TKMM	0	0
十勝	二段	NYHA	0	0
	名寄	AKTS	0	0
	旭川	AISK	0	0
不規則地	夢光台	VK	0	0
下呂町		CERO	0	0
合計			176	100
不可など			0	
脱・附			176	



A区空撮（北西から）



A区空撮（真上から）

図版2



B区空撮（南東から）



B区空撮（真上から）

図版3



A区近景（南東から）



A区住居跡群①



A区住居跡群②



B区近景（北西から）



B区近景（南東から）



B区住居跡群①



B区住居跡群②



B区住居跡群③

図版4



1号住居跡①



1号住居跡②



1号住 1号埋壺①



1号住 1号埋壺②



1号住 2号埋壺



1号住 ピット1



1号住 ピット2



1号住 ピット3



2号住跡



2号住 炉



2号住 遺物出土状況①



2号住 遺物出土状況②



2号住 遺物出土状況③



2号住 遺物出土状況④



2号住 遺物出土状況⑤



2号住 ピット 5

图版 6



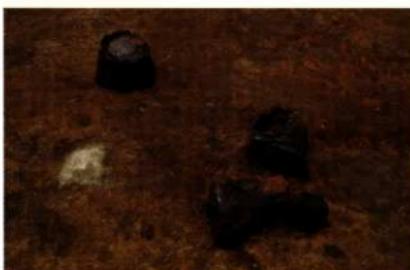
3号住 居跡



3号住 烧土



3号住 遗物出土状况①



3号住 遗物出土状况②



3号住 遗物出土状况③



3号住 遗物出土状况④



4号住居跡①



4号住居跡②



5号住居跡①



5号住居跡②



5号住 炉・焼土



5号住 炉



5号住 遗物出土状況①



5号住 遗物出土状況②



5号住 遗物出土状況③



5号住 遗物出土状況④

图版 8



5号住 遗物出土状况⑤



5号住 遗物出土状况⑥



5号住 遗物出土状况⑦



5号住 遗物出土状况⑧



5号住 遗物出土状况⑨



5号住 遗物出土状况⑩



5号住 遗物出土状况⑪



5号住 遗物出土状况⑫



5号住 遺物出土状況⑬



5号住 遺物出土状況⑭



5号住 遺物出土状況⑮



6号住 居跡①



6号住 居跡②



6号住 炉



6号住 ピット⑨



6号住 遺物出土状況①

图版10



6号住 遗物出土状况②



6号住 遗物出土状况③



6号住 遗物出土状况④



6号住 遗物出土状况⑤



6号住 遗物出土状况⑥



7号住居跡①



7号住居跡②



7号住 炉



7号住 遗物出土状况①



7号住 遗物出土状况②



7号住 遗物出土状况③



8号住居跡①



8号住居跡②



9号住居跡①



9号住居跡②



9号住 炉

図版12



9号住 炉遺物出土状況



9号住 埋臺



9号住 遺物出土状況①



9号住 遺物出土状況②



9号住 ピット1 遺物出土状況



10号住居跡①



10号住居跡②



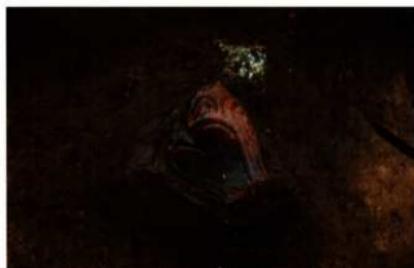
10号住 炉



10号住 炉遺物出土状況



10号住 遺物出土状況①



10号住 遺物出土状況②



11号住 居跡①



11号住 居跡②



11号住 遺物出土状況①



11号住 遺物出土状況②



11号住 遺物出土状況③

图版14



11号住 遗物出土状况④



1号土坑



2号土坑



2号土坑 遗物出土状况



7号土坑



16号土坑



1号竖穴状遗構



1号溝



出土土器①

图版16



出土土器②



5号住 2922(表)



5号住 2922(裏)



6号住 5209



6号住 5400



7号住 3453



9号住 3577 埋甕



10号住 4176



10号住 4286



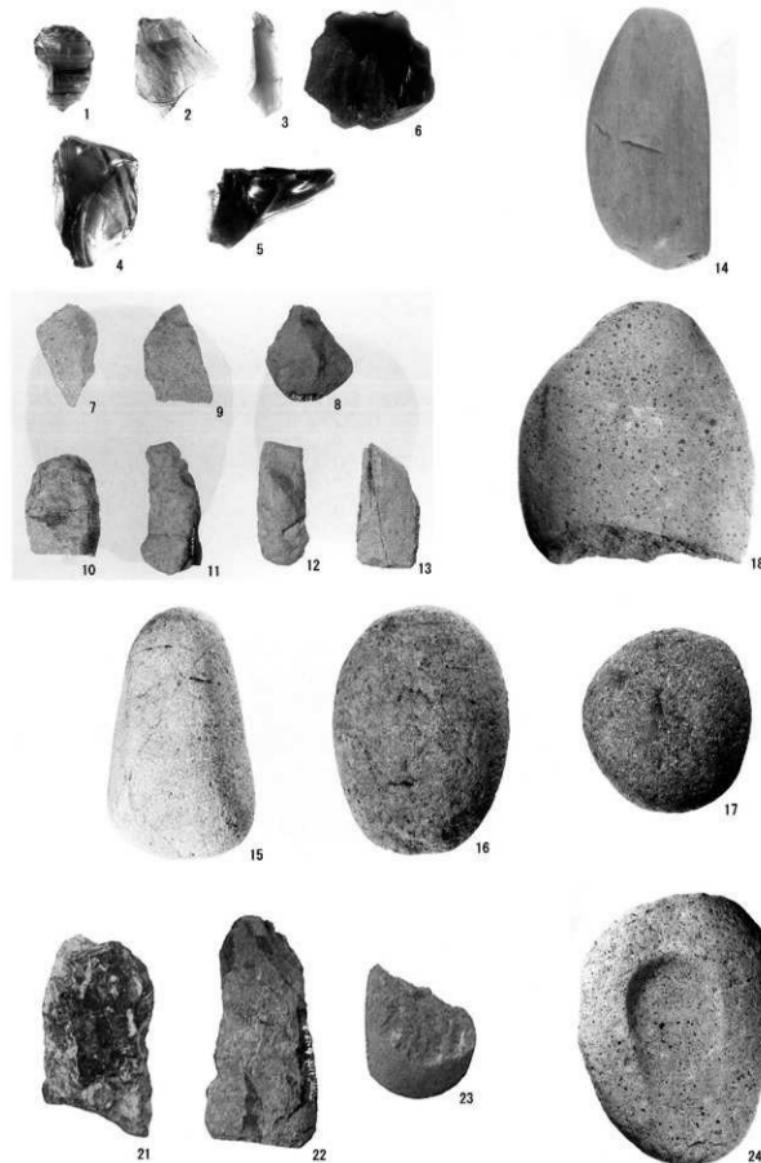
10号住 5217

出土土器③

图版18

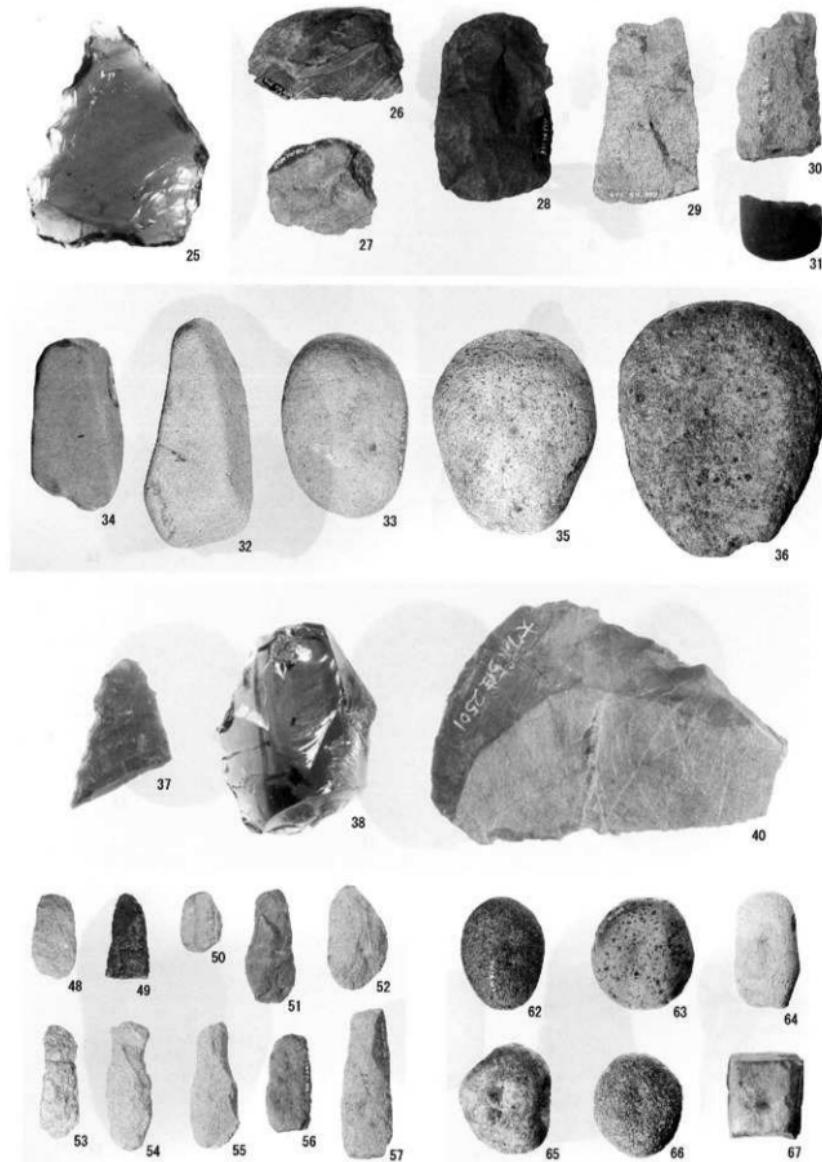


出土土器④

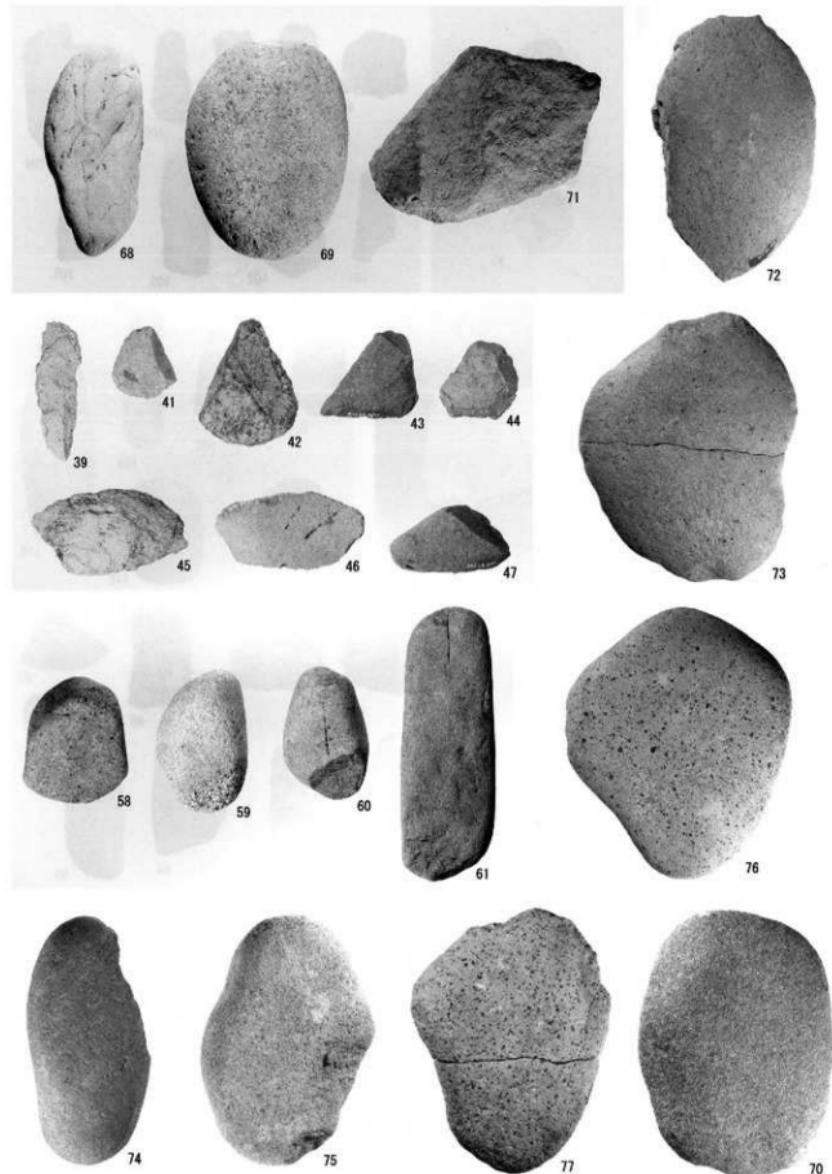


出土石器（6号住・11号住）

图版20

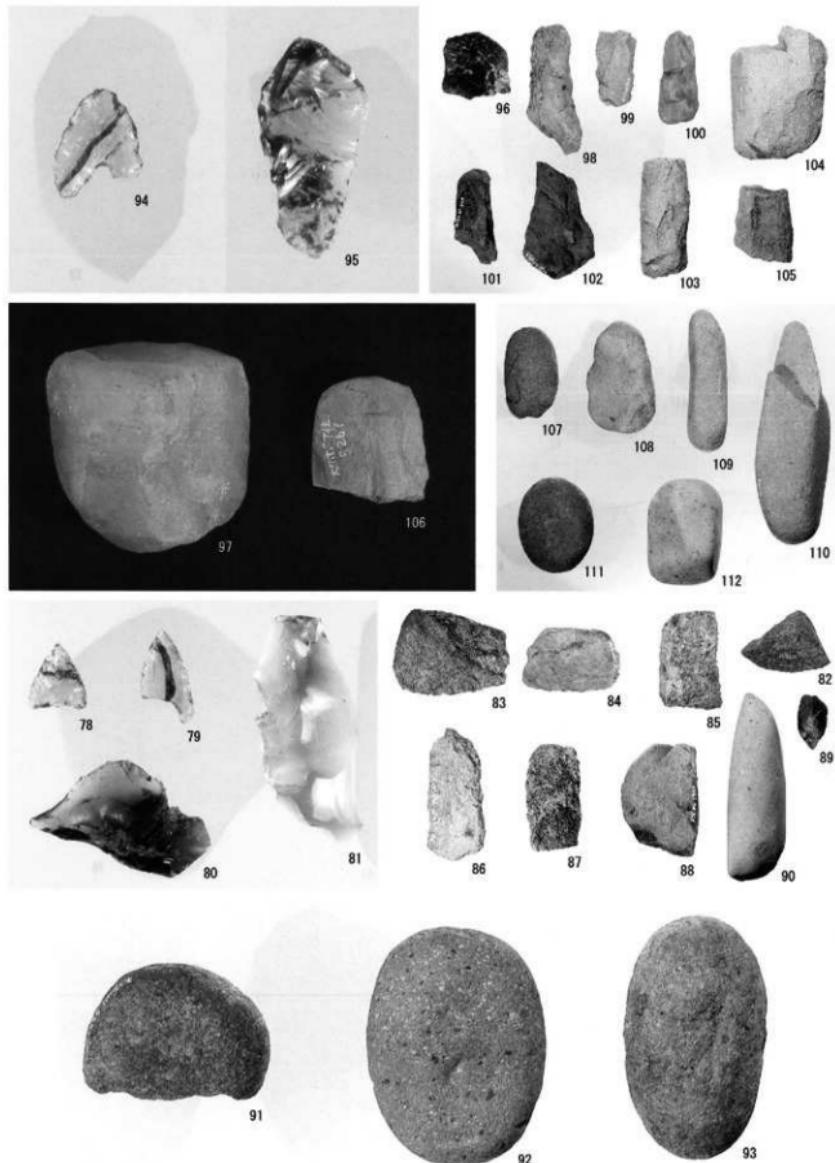


出土石器（3号住・5号住）

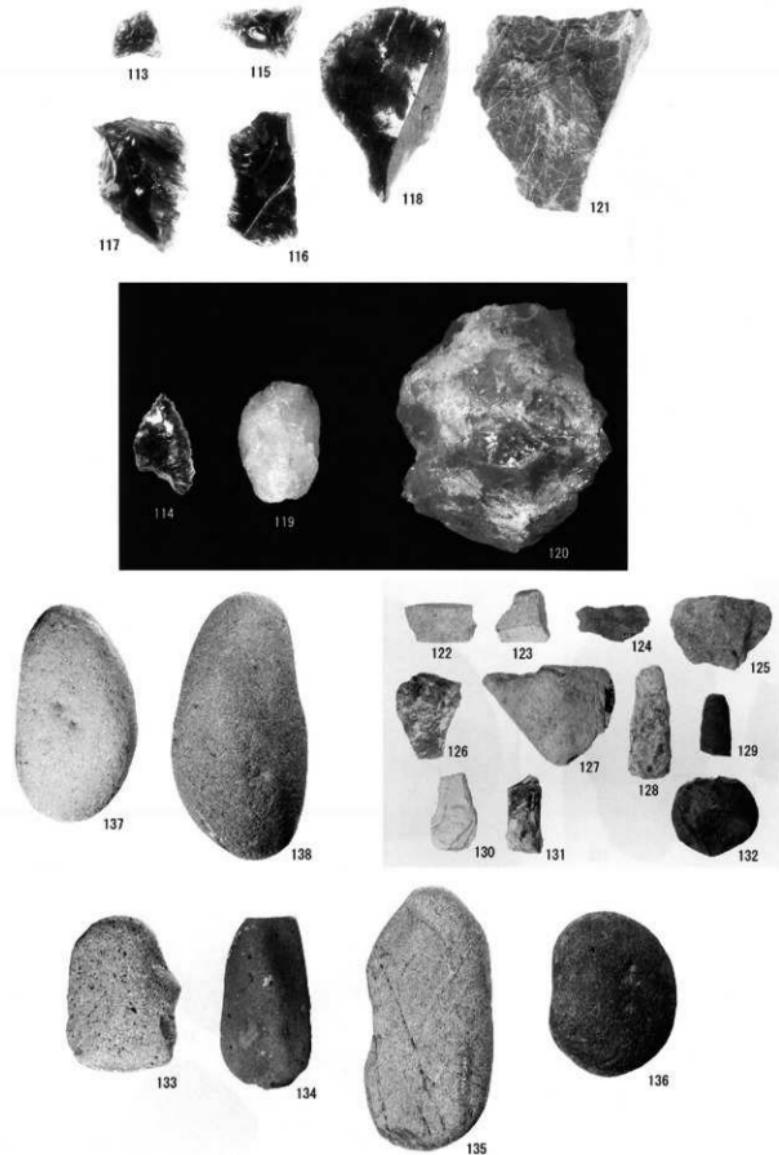


出土石器（5号住）

図版22

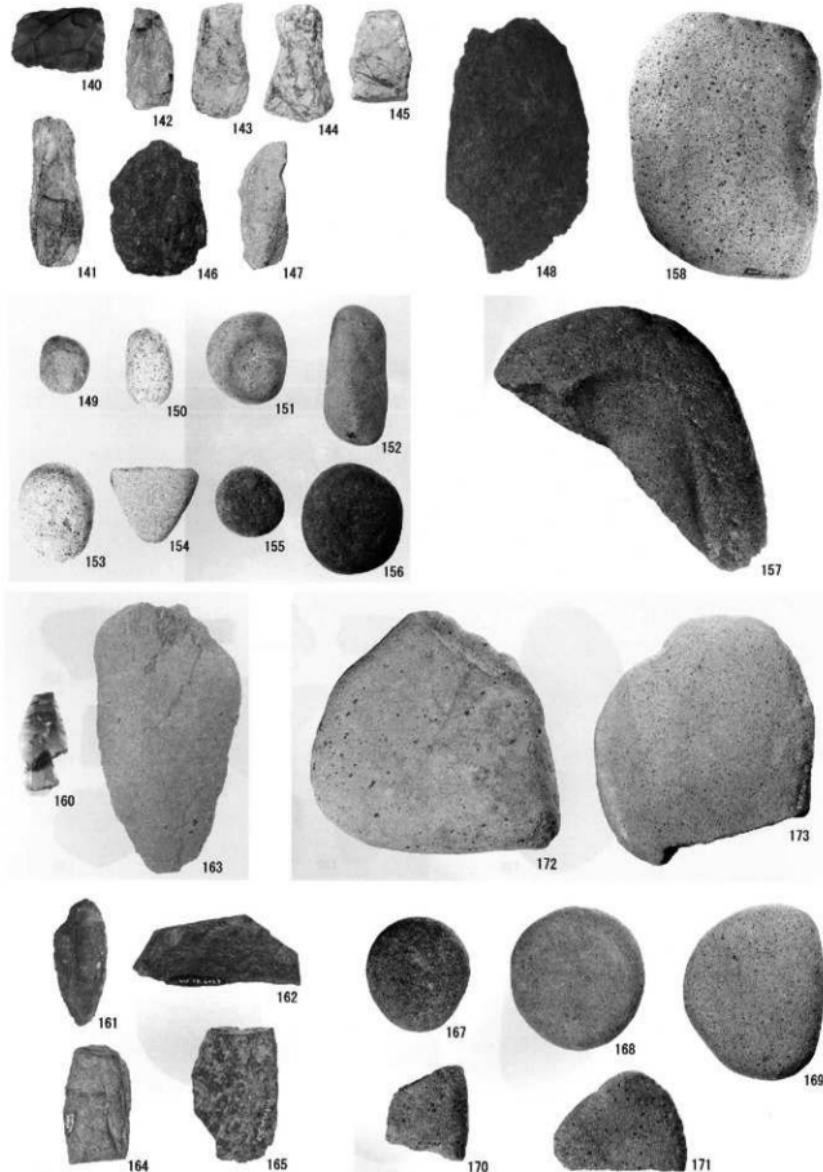


出土石器（7号住・10号住）



出土石器（1号住）

図版24



出土石器（2号住・9号住）

報告書抄録

ふりがな	おおくぼ（しらす）いせき
書名	大久保（白須）遺跡
副書名	市道花水金ノ手線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	34
編著者名	村松佳幸
編集機関	北杜市教育委員会
所在地	〒408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1 TEL 0551-42-1373
発行年月日	西暦 2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大久保遺跡	山梨県北杜市白州 町白須字大久保地 内	192091	6012	35° 48' 42"	138° 20' 25"	20070514～ 20070824	1,284	市道花水金 ノ手線建設 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大久保遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡 11軒 溝状遺構 1条 竪穴状遺構 1基 土坑 21基 ピット 10基	縄文土器・石器・土製品 (上側・土鈴・耳栓・杓子形土製品)	井戸尻式期末～曾利II式期の環状集落

要約	縄文時代中期後半、井戸尻式期末～曾利II式期にかけての環状集落
----	---------------------------------

北杜市埋蔵文化財調査報告第34集

大久保（白須）遺跡

2009年3月25日 印刷

2009年3月31日 発行

編集・発行 北杜市教育委員会
〒408-0188 山梨県北杜市須永町大豆生田 961-1
TEL 0551-42-1111(代)

印 刷 株式会社 少國民社
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内二丁目 7-24
TEL 055-226-2125

